創業20周年記念誌

TOYOTA MOTOR HOKKAIDO,INC. 1992-2012

相澤 和哉
相沢 浩二
間 泰之
相原 繁
藍原 潤也
相原 健志
青木 謙児
青木 潤
青木 博昭
青木ヨハネ
青木 良
青沼 清隆
青沼 真一
青柳 安男
青山 俊介
青山 貴弘
青山 裕貴
赤石 克美
赤石 崇
赤川 誠治
赤坂 雄二
縣 明裕
赤田 崇幸
赤塚 弘樹
赤羽 智雄
秋岡 宏幸
秋川 竜範
秋山 賢治
明田 征宣
浅井 一樹
浅井 雅弘
朝倉 崇人
朝妻 寛光
浅野 仁
浅野 宏
浅野 文彦
浅野 悠
浅原 司
朝日 大輔
旭 貴裕
浅水 邦彦
浅水 友彦
芦澤 昭太
芦谷 雅寛
芦谷 康弘
東 京
東 泰隆
東 良美
畔越 広樹
足達 純一
足立 大輔
安達 貴志
阿戸 裕憲
安倍 一郎
阿部 修
阿部 和也
阿部 桂典
阿部恭之介
阿部 桂佑
阿部 光佑
阿部佐智子
阿部 純一
阿部 純也
阿部 隆豊
阿部 孝彦
阿部 貴彦
阿部 唯夫
安部 忠司
阿部 竜也
阿部 哲久
阿部 哲也
阿部 哲良
阿部 敏大
阿部 植人
阿部 春城
阿部 洋史
阿部 洋
阿部 寛
阿部 太
阿部 誠
阿部 政広
阿部 将之
安部 稔
阿部 祐士
阿部 義昭
阿保沙綾香
天野 烈
天野 雅文
天野 亘
天羽 修二
荒井 健太
新井 貴幸
新井 幸夫
新井田智志
新井田秀成
荒川 聖樹
新木 慎弥
荒木 貴子
荒木 太郎
荒木 洋人
荒澤 真広
荒田 樹里
新谷信之介
荒谷 大介
荒谷 友紀
荒山 彰
荒山 貴紀
有ノ木歳久
有ノ木 涼
有吉 元太
粟谷 芳伸
安在 宏喜
安藤 晃
安藤 憲明
安藤 範秀
安藤 英治
安藤 宏教
安藤 学
安藤 三幸
安藤 実
安藤 泰宏
安藤 嘉宣
安保 浩悦
飯坂 光平
飯坂 卓也
飯坂 直人
飯島 卓也
飯田 和納
飯塚 文博
飯塚 良一
飯野 英樹
飯村 和彦
井内 一真
井内 啓介
五十嵐一将
五十嵐 哲
五十嵐 順
五十嵐大介
五十嵐 力
五十嵐 豪
五十嵐敏夫
五十嵐直人
五十嵐 光
五十嵐秀夫
五十嵐文弥
五十嵐裕明
五十嵐裕次
猪狩 和人
生川 直人
生田 慎
池尻 勇也
池田 和男
池田 和弘
池田 清荘
池田 修一
池田 瞬
池田 大輔
池田 達哉
池田 知巳
池田 英史
池田 正道
池田 由範
池田 亨
池谷 龍也
池本 雅
井坂 仁
勇 智則
石井 敦史
石井 康輔
石井 智史
石井 隆史
石井 匠
石井 利和
石井 洋昂
石岡 明博
石岡 知也
石岡 裕介
石岡 美法
石垣 守
石垣 美香
石金 伸啓
石亀 和彦
石亀 宏巳
石川 栄一
石川 欽也
石川 光一
石川 浩太
石川 純平
石川 秀人
石川 盛雄
石川 隆志
石久保 等
石黒 公浩
石黒孝太郎
石坂 貴
石沢 勉
石田 彬宏
石田 勝之
石田 康平
石田 茂希
石田 俊一
石田 拓哉
石田 昇
石田 誠
石塚 拓郎
石塚 雄一
石羽澤 学
石橋 晃
石橋 弘次
石畑 正成
石原 宏基
石原 良
井島 祐介
石村 雄一
石山 晃宜
石山 道教
石山 裕司
石渡 卓郎
和泉 浩司
泉 敏
泉 修平
泉田 義明
泉谷 優希
磯貝 耕二
磯貝 力
磯浪 博
磯部 純一
磯部 享史
磯松 勇斗
磯山 晋一
板垣 恒夫
板垣 宣広
板橋 好昭
板本 真和
板本 正俊
板谷 嘉彦
市岡 勇人
市川 和輝
市川 直人
市川 正典
市川 裕哉
一條 綾乃
一條 昌生
一瀬 正人
一戸 智幸
一戸 康弘
市村 尚弘
市村 直也
伊藤 一成
伊藤 清隆
伊藤 圭
伊藤 浩介
伊藤 幸江
伊藤 秀一
伊藤 瞬
伊藤 純
伊藤 俊一
伊藤 慎吾
伊藤真太朗
伊藤 純寛
伊藤 大介
伊藤 崇雄
伊東 崇
伊藤 誉将
伊藤 猛
伊藤 千尋
伊藤 照仁
伊東 聡幸
伊藤 直弘
伊藤 直幸
伊藤 夏美
伊東 久範
伊藤 英昭
伊藤 英利
伊藤 仁
伊藤 裕一
伊藤 広
伊藤 浩史
伊藤 文人
伊東 正晃
伊藤 政行
伊藤 昌義
伊藤 幹夫
伊藤 保雅
伊藤 勇樹
伊藤 祐介
伊東 佑太
伊藤 裕也
伊藤 由季
伊藤 亮司
稲川 雅秀
稲田 誠
稲葉 明宏
因幡 祐弥
稲村 浩輔
稲村 博文
稲村 弘之
犬塚 昌彦
井上 忍
井上 将吾
井上 直也
井上 睦雄
井上 優希
猪股 道昭
今井 哲也
今井 浩
今井 光明
今井 保彦
今岡 尚之
今村 憲司
今村 卓矢
今村 友紀
井向 聡一
井村 圭吾
入倉 克己
入倉 延夫
入野 博志
岩城 英憲
岩城 旬紀
岩佐 州人
岩佐 洋輔
岩崎 寿彦
岩崎 浩
岩崎 裕之
岩崎 泰洋
岩筋 厳
岩瀬 弘宜
岩瀬万里奈
岩田 達郎
岩田 裕一
岩田 幸雄
岩館 絵美
岩舘 大輔
岩月 修
岩野 正義
岩原 勇人
岩渕 元生
岩渕 英樹
岩渕 譲
岩船 将太
岩船 誠
岩間 謙太
石見 彰浩
岩村 祐治
岩本 尚典
岩本 陽介
岩山 周史
印南 望
上島 博
上田 健介
上田 聖也
上田 光
上田 浩道
上田 勇太
植竹 孝之
上野 彰夫
上野 恭悟
上野 淳也
上野 千春
上野 英明
上野 裕司
上道 正一
上宮 慎司
上村 昌巧
植村 勝
魚多 篤史
魚多 学
鵜飼 陽仁
宇佐美秀人
氏家 崇行
牛坂 哲也
牛澤 将太
臼杵 潤史
歌田 徹
内崎 裕美
内沢 智樹
内沢 政樹
内田 勝重
内田 純一
内田 力
内田 祐介
内野 弘敬
内山 隆
内山 哲也
内山 英人
内山 秀徳
宇野 重吉
宇野 孝幸
宇部 弘樹
海島 匠
海野 正法
梅木さや香
梅澤 佳
梅澤 真
梅澤 諒美
梅田 真路
梅田 哲也
梅田 直幸
梅津 克年
梅野 敬一
梅山 浩史
浦崎 佑介
浦新 晶
浦山 朋幸
瓜田 祥司
江口 信彦
經種 守
越後谷 悟
越前 宏太
越前 雄平
江井 利光
榎戸 克哉
榎本 一成
荏原 豪
蛯沢 貴弘
戎 祐二
蝦名 克優
蝦名 拓己
蛯原 至
江良 賢輔
遠藤 晃紀
遠藤 厚子
遠藤 篤
遠藤 啓輔
遠藤 淳一
遠藤 泰亮
遠藤 史彦
遠藤 麻妃
遠藤 将史
遠藤 雄司
及川 敏郎
及川 利也
及川 智寛
及川 裕敬
及川 匡勝
及川 裕
近江 徹
大浅 征人
大石 和矢
大石 智樹
大石 敏明
大石 直幸
大石橋岩男
大内 瞬
大内 龍也
大垣 強
大欠 彰
大上 義弘
大川原勝也
大川原勇樹
扇 賞
大木 秀勝
大久保明人
大久保暁仁
大窪 一矢
大窪 孝志
大久保孝幸
大窪 祐智
大倉 勇馬
大蔵 幸男
大黒晋太朗
逢坂 敏充
大坂 英雄
大坂 幸弘
大﨑 隆弘
大澤 啓太
大澤 知子
大澤 政志
大澤 光政
大塩 裕子
大嶋 邦雄
大島 堅治
大島 潮子
大嶌 隼
大嶋 千瑛
大島 大
大尻 一茂
大城 翔
大関 貴志
太田 一也
太田 健矢
太田 昭平
太田 貴広
太田 智男
大田 直樹
太田 史貴
太田 雅崇
太田 光洋
太田 祐貴
太田 悠太
大瀧 創平
大瀧 陽介
大竹 敏晴
大谷 直道
大谷 正幸
大谷 光広
大谷 裕一
大塚 カー
大塚 剛
大塚 政軌
大塚 慶久
大槻 直正
大槻 英士
大槻 将巳
大槻 悠太
大坪 勉
大音 大輔
大友 尚
大西 和浩
大西 国彦
大西 謙治
大西 隆
大西 拓巳
大西 宏彰
大西 優哉
大沼 拓司
大沼 司
大沼 雅義
大野 暁史
大野 真
大野 拓也
大野 智也
大野 秀和
大野 真弘
大場 寛太
大場 諭
大場 大輔
大場 充
大場 義寛
大橋 拓也
大橋 洋人
大橋 弘典
大橋 侑馬
大橋 洋平
大畑 佑輔
大濱 舞
大林 敬侑
大原 拓也
大渕 頼範
大町 康人
大水 忠裕
近江谷 一
大村 陽介
大本 正一
大森 人誌
大森 正至
大森 裕太
大矢 晃生
大矢 和弘
大矢 真
大山 修一
小笠原和真
小笠原康太
小笠原成一
小笠原正司
尾形 和徳
岡田 啓吾
岡田 幸太
岡田 悟志
岡田 匡
尾形 達也
尾形 文哉
尾形 元気
岡田 祐樹
岡田 宜正
岡部 友矩
岡村 隆司
岡村 徳彦
岡村 昌典
岡本 大輔
岡本 直樹
岡本 直子
岡本 浩文
岡本 光広
小川 和久
小河 潤一
小川 貴司
小川 智享
小川 直幸
小川 図
小川 久人
小川 睦人
小川めぐみ
小川 泰広
小川 祐来
沖崎 裕一
荻沢 史晃
奥 貴晶
奥田 一聖
奥谷 玲菜
奥津 義崇
奥野 竜平
奥村 一馬
奥村 富夫
奥村 雅則
奥谷 一伯
奥山 明
奥山 憲二
奥山 隆志
奥山 喬之
奥山 雄一
小椋 忍
小倉 徹
小倉 弘之
小倉 雄治
小栗 徹
桶谷 昌史
尾越 孝大
尾崎 昌稔
小山内一也
小山内勝雄
長内 健太
小山内智之
小山内祐介
小沢 光博
尾関 隆哉
尾田 歩
織田 和幸
小田信五郎
小田 悠太
織田 友哉
尾田 喜慶
尾田龍之介
小田 亮太
小田島 彩
小田島大晃
乙部 寿博
小沼 亮太
小野 晃弘
小野 真士
小野 知弘
小野 誠
小野瀬和也
小野寺 潔
小野寺翔希
小野寺 徹
小野寺直樹
小野寺弘定
小野寺正人
小野寺 貢
小野寺 亮
小幡 晃史
小花 弘敬
小原 圭太
小原 貴仁
小原 直樹
小原 勇貴
小原 豊
小原 隆一
尾張 一博
尾村宏志郎
面田 慶治
尾山 和之
折田 亮哉
折野 嵩
貝田 泰
海馬沢尚博
加賀 克彦
加賀 雄大
加賀 剛
鏡 茂昭
鏡 誠司
鏡 慶洋
加賀谷俊和
加々谷義孝
柿﨑 昌広
角田 卓哉
角田 祐希
角館 貴
角野 恭平
角道 行雄
加越 啓正
葛西 貴弘
笠井 直樹
笠井 伸啓
葛西 博
葛西 弘行
葛西 昌之
笠井 大
笠原 敬祐
風間 康平
風間 直樹
梶川 卓至
鹿嶋 紳二
鹿嶋 洋行
鹿島 昌也
梶谷 大蔵
梶谷 剛司
賀集 章博
柏木 朋仁
柏崎 正人
柏田 真也
柏谷 新一
梶原 雄介
数原 仁
糟谷 義明
加勢 元
嘉瀬 祐樹
片石 勝博
片石 悟
片岡喜与志
片岡 哲
片岡 秀明
片貝 紳吾
片桐 浩之
片桐 雄大
片桐 芳浩
片倉 丈典
片平 正博
片山 純二
勝田 洋
葛 喜博
加藤 英一
加藤 一馬
加藤 圭一
加藤 健太
加藤 聖
嘉藤 純
加藤 紳
加藤 真吾
加藤 澄恵
加藤 誠治
加藤 卓也
加藤 健
加藤 努
加藤 俊秀
加藤 敏幸
加藤 友也
加藤 友康
加藤 浩史
加藤富治男
加藤 将勝
加藤 裕貴
加藤 洋介
加藤 芳彦
加藤 力也
門脇 直樹
金岡 秀範
鹿中 正人
金澤 雄介
金森 重樹
金山 進一
金内 亮二
金子 圭介
金子 省吾
金子 尚
金子 卓靖
金子 司
金子 剛
金子 宏亨
金田 正弘
兼松 弘市
兼松 知晴
加納 拓也
加納 雅巳
樺沢 孝幸
樺澤 稔夫
鎌田 桂太
鎌田 秀寿
鎌田 博登
鎌田 鳳元
上有谷修二
上谷 慶輔
神長健太郎
上平 光司
上村 卓司
上村 成史
神谷 拓也
加美山敦史
亀井雄太郎
亀谷 慎
亀山 尚紀
蒲原 直純
嘉門 知之
賀谷 大輔
嘉屋 直樹
茅花 定
茅森 康二
苅田 真一
苅部 保晴
軽部 雅尚
河合 章壽
河内 信男
河内 伸仁
川勝 理輝
川上 鎮也
川上 正孝
川上 亮祐
川口 圭
川口 郷
川口 将太
川口昭太郎
川口 大輔
川口 雅美
川口 結城
川崎 修
川崎 浩行
川崎 聖司
川島 一希
川島 和徳
川嶋 恭平
川島 久史
川筋 直樹
川田 章太
川田 壮志
川田 拓哉
川田 達也
川田 太
川髙 達也
川端 英治
川端 庸介
川原 章
河原 宏貴
川原 雅志

河原 真彦
川原田大悟
川辺 清
河辺 雄哉
川邊 裕也
川真田文浩
川村 和輝
川村 邦久
川村 圭介
川村 淳
川村 俊介
河村 慎吾
川村 誠一
川村 隆
川村 継道
川村 智也
河村 直樹
河村 正俊
川村 正尚
川村 充弘
川村 佑輔
河本 勇也
勘田 達也
神田 秀人
菅藤 友二
菅藤 雄亮
菅野 貴夫
菅野 翼
菅野 憲之
木内 孝太
菊川 昌悟
菊田 哲
菊田 勇太
菊池 淳彦
菊地 功
菊地 一良
菊池 要
菊池 圭介
菊地 健一
菊地 聡
菊池 周平
菊地 毅晃
菊地 喬
菊地 健
菊池 央来
菊地 司
菊池 直人
菊地 伸夫
菊地 信宏
菊地 弘宣
菊地 文耶
菊池 信
菊地 将義
菊地 康寛
菊池 洋介
菊地 礼将
菊池 良二
菊地倫太郎
岸奥 浩二
岸奥 貴裕
木須 貴士
木通 文隆
木瀬 幸治
黄田 健二
黄田 真一
喜多 慎也
北 康志
北 英樹
木田 博一
喜多 宏幸
北川 秀和
木瀧 将之
北島 拓
北田 勝則
北田 悠紘
北田 康
北舘 政人
北野 邦彦
北野 貴司
北橋 秀介
北村 拓也
北村 努
北村 芳久
北村 亮
北谷 哲博
北山 亨
吉島 貴裕
木津谷良行
木戸 達也
城戸 義人
木藤 勇太
絹 剛史
木下 雅弘
木野田光紀
木村 麻美
木村 栄治
木村 仁彦
木村 圭介
木村 佳祐
木村健一郎
木村 賢志
木村 聖也
木村聡一郎
木村 貴也
木村 俊幸
木村 友幸
木村 伸明
木村 寿雄
木村 弘樹
木村 誠
木村 泰俊
木村 靖彦
木村 佑輔
木村 佳孝
木村 亮太
京極 俊幸
京野 武史
切明畑 領
切石 浩康
桐木 玄太
桐木 智史
桐木 竜矢
草彅 健一
久世 晴香
工藤 一樹
工藤 一彦
工藤 勝也
工藤 健一
工藤 堅嗣
工藤 行一
工藤 広一
工藤 浩二
工藤小百合
工藤 秀治
工藤 修平
工藤 峻哉
工藤 真一
工藤 成司
工藤 大地
工藤 孝行
工藤たまみ
工藤 俊彦
工藤 成広
工藤 春菜
工藤 宏昭
工藤 裕之
工藤 正
工藤 正利
工藤 正実
工藤 雅理
工藤 素子
工藤 基
工藤 靖
工藤 雄基
工藤 勇司
工藤 悠人
工藤 力雅
工藤 流星
國井 敏明
久保 和成
久保 英樹
久保 渉
久保田敏人
熊谷 隼一
熊谷 晋司
熊谷 成一
熊谷 俊英
熊谷 敏行
熊谷 正明
熊倉 匠
熊倉 昌史
熊崎 広良
熊澤 泰将
熊野 雅浩
熊野 雄二
熊原 陵太
粂川 英樹
倉内 崇
倉兼健一郎
倉島 正道
蔵田 彰敏
倉田 一美
倉持 正雄
栗栖 芳三
栗田 敬
栗永 博志
栗野 教生
栗林 知彦
栗本 遼一
厨川 祥平
厨川 洋平
栗山 敦志
黒川 健人
黒川 将大
黒川 正博
黒澤 国博
黒澤 俊陽
黒沢 正勝
黒沢 豊
黒島 隆一
黒田 俊一
黒田 博
黒田 雄太
黒田 裕也
黒田 順久
黒滝 春加
黒滝 冬樹
桑木野 光
桑島 尚
桑田 正憲
桑原 一善
桑原 信次
桑原 裕介
郡司 貴男
郡司 浩
慶長 誠治
源津 卓也
源津 直也
小池美智男
小池雄太郎
小池 啓憲
小石 祐史
小泉 和明
小泉 健太
小泉 智也
小泉 太志
小泉 祥貴
鴻上 憲明
高下 秀昭
合田 一博
幸谷 祐具
河野 朋樹
高野池 修
髙野池 進
郡谷 崇広
古賀 達也
古河原臣悟
小亀 孝典
小亀 宣孝
小坂 一博
小澤 友浩
小嶋 一徳
小島 信行
小島 幸一
小島 譲
小杉 利彦
小竹 克知
小谷 寛明
小谷 陽一
小玉 英司
児玉 茂
小玉 将嗣
小玉 正人
後藤 勲
後藤 一之
後藤 勝哉
後藤 慶
後藤 元樹
後藤 健次
後藤 智也
後藤 朋征
後藤 直樹
後藤 裕司
古東 幸夫
後藤 仁克
後藤 航
小西 伸明
小西 登
小西 秀明
小西 祐一
小貫 実
小貫 優矢
此内 隆
小羽 達也
小浜 史嵩
小林 一隆
小林 一成
小林 和仁
小林 玄
小林 健太
小林 里誌
小林 秀平
小林 純
小林 孝紘
小林 孝美
小林 竜也
小林 俊充
小林 隼也
小林 直樹
小林 正和
小林 将之
小林 学
小林 義令
小林 力也
小林 竜馬
小番智絵子
木挽 潤
小又 孝志
小松 和紀
小松 一也
小松 健児
小松 俊介
小松 拓
小松 誠
小松 道治
小松田和宏
小村真亜沙
古明地貴之
古明地康男
小屋敷正典
小谷地幸治
小柳 政雄
小藪 悟史
小山 和幸
小山 佳祐
小山 晋
古録 直樹
金 健一
金 大祐
紺井 和哉
紺井 浩和
金剛 直継
近藤亜沙美
近藤 和彦
近藤 真一
近藤 貴洋
近藤 拓朗
近藤 智敬
近藤 望
今野 和美
今野 恭平
紺野 景康
金野 信二
今野 孝弥
金野 春夫
今野 政仁
今野 勝
今野裕次郎
今野 陽介
雑賀 智也
西條 佑哉
齋藤 晃
齋藤 絢美
齋藤 和憲
齋藤 久実
斉藤 恵一
齋藤 健介
齋藤 健太
齋藤 崇一
斉藤 真二
斉藤 信二
齋藤 大
斉藤 貴史
西藤 孝則
斉藤 択
齋藤 卓司
斉藤 拓真
斉藤 拓光
斉藤 司
斉藤 哲也
斉藤 敏男
斉藤 智博
斉藤 朋哉
齋藤 信幸
齊藤 栄
齋藤 均
齋藤 浩朗
斉藤 広樹
斎藤 洋
斉藤 広幸
斉藤 宏行
齋藤 文昭
斎藤 誠
斉藤 允
齋藤 真和
斎藤 正輝
斉藤 優
斉藤 将人
斉藤 昌利
齋藤 学
齋藤巳紀生
齋藤 道典
斉藤 三喜
斉藤 峰憲
斉藤 元宏
斉藤 泰孝
斉藤 雄一
齊藤 裕介
齋藤 悠太
斉藤 裕也
斉藤 豊
斉藤 陽一
斉藤 義雄
齊藤 隆介
佐伯 昭博
佐伯 喜弘
嵯峨 宏英
酒井 優
酒井 翼
坂井 鉄也
坂井 利光
坂井 宏
酒井比呂康
坂井 康文
酒井 康行
酒井 裕介
坂井 佑矢
酒井 亮
阪内 一喜
阪内 大地
阪内 義喜
坂川 寛
坂川 稔
坂木 真吾
坂口 岳志
坂口 利明
坂口 真人
阪口 昌哉
坂口 泰彦
坂口 裕二
坂下 昌和
坂尻 強
坂田 昭則
坂田 誠
坂田 円
坂田 学
坂爪 弘樹
酒巻 育民
酒巻 和樹
坂本 暁彦
坂本 敦夫
坂本 公明
坂本 翔平
坂本 憲子
坂本日出男
坂本 寛公
坂本 正人
坂本 守
佐川 智寿
佐久間和義
佐久間 一
櫻井 敦史
桜井 諭
櫻井 茂美
桜井 哲也
櫻井 稔
桜田 博士
櫻中 淳一
櫻庭 圭介
櫻庭 勇太
鮭川 美葉
佐光 勇二
笹井 信哉
笹尾 匡
笹川 龍二
佐々木昭彦
佐々木章裕
佐々木 晃
佐々木栄二
佐々木柄理子
佐々木 理
佐々木一夫
佐々木和彦
佐々木一磨
佐々木勝億
佐々木勝久
佐々木邦晃
佐々木圭吾
佐々木慶太
佐々木謙友
佐々木幸一
佐々木 潤
佐々木 将
佐々木伸吾
佐々木慎治
佐々木末人
佐々木 優
佐々木 晋
佐々木聖矢
佐々木隆進
佐々木卓也
佐々木徹人
佐々木篤晴
佐々木朋洋
佐々木友幸
佐々木直貴
佐々木直也
佐々木尚也
佐々木直哉
佐々木伸男
佐々木宣洋
佐々木法男
佐々木博美
佐々木博之
佐々木裕之
佐々木 誠
佐々木 誠
佐々木政人
佐々木雅望
佐々木正幸
佐々木 優
佐々木 勝
佐々木真澄
佐々木 稔
佐々木美幸
佐々木康治
佐々木 裕
佐々木佑一
佐々木佑樹
佐々木祐二
佐々木雄太
佐々木祐太
笹原未知人
笹森健太郎
笹森 真治
定岡 和仁
定國 敏子
佐藤 光隼
佐藤 明人
佐藤 顕充
佐藤 昭弘
佐藤 彰紘
佐藤 昭也
佐藤 歩
佐藤 斎
佐藤 修
佐藤 和人
佐藤 一洋
佐藤喜巳夫
佐藤 恭一
佐藤 邦明
佐藤 圭介
佐藤 健一
佐藤 謙介
佐藤 剛
佐藤 光一
佐藤 孝樹
佐藤 洸樹
佐藤 広作
佐藤 晃司
佐藤 巧司
佐藤 孝太
佐藤 幸大
佐藤 広平
佐藤 康平
佐藤 聡
佐藤 茂雄
佐藤 隼
佐藤 淳
佐藤 淳
佐藤 俊介
佐藤 潤平
佐藤 順也
佐藤 翔悟
佐藤 翔吾
佐藤 真吾
佐藤 誠也
佐藤 節夫
佐藤 太樹
佐藤 太一
佐藤 泰斗
佐藤 孝文
佐藤 誉之
佐藤 巧
佐藤 拓也
佐藤 拓郎
佐藤 丈晴
佐藤 達也
佐藤 達也
佐藤 智秋
佐藤 功
佐藤 哲也
佐藤 哲也
佐藤 輝和
佐藤 寿洋
佐藤 智哉
佐藤 尚人
佐藤 直利
佐藤 憲政
佐藤 教正
佐藤 春樹
佐藤 秀樹
佐藤 秀樹
佐藤 英俊
佐藤 仁志
佐藤 宏輝
佐藤 裕樹
佐藤 宏樹
佐藤 浩
佐藤 宏徳
佐藤 博規
佐藤 宏保
佐藤 史崇
佐藤 文彦
佐藤 文哉
佐藤 文也
佐藤 聖利
佐藤 匡敏
佐藤 政弘
佐藤 雅靖
佐藤真美子
佐藤真理子
佐藤 光則
佐藤 光博
佐藤 光弘
佐藤 宗継
佐藤 雄一
佐藤 雄一
佐藤 佑規
佐藤 祐二
佐藤 有佑
佐藤 祐也
佐藤 祐也
佐藤 侑弥
佐藤 洋一
佐藤 陽介
佐藤 良昭
佐藤 義隆
佐藤 喜信
佐藤 龍哉
佐藤 亮介
佐藤 亮太
佐藤 亮平
佐藤 零
佐藤 玲緒
佐藤 亘
里吉 勉
里吉 由貴
早苗 泰明
真田 薫
佐沼 和哉
佐橋 雄太
猿橋 政喜
澤井 雅志
澤口 秀樹
澤田 健一
澤田 知路
澤田 松次
澤田 悌一
沢田 竜太
澤向 諒
澤村 三樹
三部 徹
椎野 久志
潮崎 勇
塩田一十百
塩谷 康文
塩塚 和喜
塩野 史明
塩原 典泰
塩谷 洋介
鹿内 秀樹
鹿戸 智明
軸屋 遼祐
重富 哲
重原 敏光
重山 賢史
宍戸 孝彰
宍戸 伸貴
七戸健太郎
七戸 順一
七戸 裕也
篠島 尚史
篠田大二郎
篠原 佳二
篠原 靖文
篠原 善治
柴尾 忠信
柴田 昭雄
柴田 啓介
柴田 信也
柴田 孝彦
柴田 崇行
柴田 直人
柴田 亘
柴原 吉弘
柴谷 正人
柴山 邦明
渋谷 浩二
渋谷 大輔
澁谷 政宏
種物谷雅光
澁谷 泰宏
島 尚志
島倉 幸二
嶋﨑 孝二
嶋﨑 学
嶋崎 康文
島田 光
島田 公平
嶋田真二郎
島田 隆行
島田 卓也
嶋田 修嘉
島田 英夫
島田 英樹
島村 泰弘
清水あゆみ
清水 謙
清水 憲二
清水 耕一
清水 淳司
清水 伸司
清水 真也
清水 大輔
清水 光
清水 泰弘
清水 義勝
清水 佳史
清水目崇臣
志村 賢一
志村 能弘
下川 勝志
下川 直城
下川部 淳
下坂 茂
下田 稔
下出 貴司
下出 知生
下野 裕修
下濱 直樹
下山 正悦
下山田 悟
十字 智絵
上海 純一
東海林孝宏
庄司 建
庄司 直樹
庄司 学
庄田 龍馬
上西 斗夢
庄野 敦史
菖蒲 和夫
菖蒲川 諭
白井 宏和
白井 克憲
白石 力仙
白岩 伸吾
白川 貴裕
白木 大輔
白崎 健一
白鳥 栄貴
白取 拓馬
白浜 尚樹
白浜 裕樹
白濱 雅博
白山 秀之
白米 正治
白銀 竜哉
城川 均
神 浩二
神 貴志
甚野 直也
新美 達也
新免 隆
新屋 健司
新谷 幸嗣
推名 哲也
末岡 浩一
末岡 伸基
末角 智広
末廣 丈晴
須貝 健太
菅井 茂朋
菅田 仁範
菅原 雅典
須川 裕允
菅原 潤一
菅原 優
菅原 大介
菅原 隆
菅原 隆博
菅原 健
菅原 直人
菅原 尚博
管原 英樹
菅原 秀樹
菅原 正一
菅原 将大
菅原 悠生
菅原 隆作
杉上 正樹
杉浦 清隆
杉浦 道義
杉江 博
杉尾 好崇
杉崎 敬
杉田 耕陪
杉田 長
杉野森 康
杉原 大作
杉原 孝範
杉村 拓朗
杉村 裕一
杉本 大
杉本 成克
杉本 好輝
杉谷 孝平
杉山 雄一
杉山 豊
杉山 義明
杉山 竜一
須郷 健
須郷 隼人
鈴江 肇
鈴木 亮
鈴木 馨
鈴木 和憲
鈴木 克幸
鈴木健太郎
鈴木 幸輝
鈴木 梢
鈴木 秀太

(2012年6月1日現在)

トヨタ自動車北海道株式会社

創業20周年記念誌

TOYOTA MOTOR HOKKAIDO,INC. 1992-2012

自律する企業、町いちばんの会社を目指して

トヨタ自動車北海道株式会社
取締役社長
田中　義克

当社は本年、創業20周年を迎えることができました。皆様と記念すべき日を迎えられたことを大変うれしく思います。

これもひとえに、トヨタ車をご愛用いただいている世界中のお客様、地域の皆様、トヨタ自動車株式会社、トヨタグループの皆様、販売店各社、仕入先の皆様をはじめとする多くの皆様のご厚情とご支援の賜物であり、心より御礼申し上げます。

併せて、創業以来の諸先輩ならびに、労働組合、従業員の皆様そしてご家族の皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。

当社は1991年2月にトヨタの「北の戦略拠点」としてトヨタ自動車株式会社100%出資で設立されました。1992年に生産を開始して以来、北海道の豊かな大自然の中でお客様のニーズにお応えする高付加価値のものづくりを追求し、生産活動を進めてまいりました。

そして本日に至るまでに、駆動系ユニットを中心として、オートマチックトランスミッション、トランスファー、そしてCVTを約2,000万台、アルミホイールを2010年のシャットダウンまでに約1,900万本生産いたしました。

この20年を振り返ると「創業期」の10年間は、トヨタ自動車株式会社のご支援を得てオートマチックトランスミッションやアルミホイールの立ち上げ等を経験し、日々学びながら一歩一歩進んでまいりました。11年目以降は「発展・拡大期」を迎え、従業員、売上高等で製造業としては北海道最大規模へと成長することができました。緑化活動や近隣と連携したゼロエミ活動、気候を生かした雪氷冷房システム等の環境保全活動にも積極的に取り組み、併せて工場見学やカナダとの中学生アイスホッケー交流会等、地域に根ざしたさまざまな活動を実施してまいりました。

そして今、当社は創業20周年、人でいうところの「成人」、「独り立ち」の時期を迎えました。今後、我々が目指すところは「本当の意味での独り立ち」、すなわち自ら将来のありたい姿を考え、自らを律することのできる『自律』した企業へと成長することであります。

従来からの品質向上・原価低減活動の強化を推進するとともに、革新生産技術の開発・製品評価力の向上に取り組み、トヨタから信頼いただける「自律提案型企業」、品質・コストで競争力のある製品を世界中へと発信し続ける「グローバル企業」、そして良き企業市民として地域から愛される「町いちばんの会社」を目指して、精進してまいります。

現在、自動車産業はかつてない激変の中にあります。これからも当社は「トヨタの北の拠点」として、トヨタグループの中でなくてはならない存在となり、"メイド・イン・北海道"の製品を世界へとお届けし続けるべく、全社一丸となり取り組んでまいります。

これまでのご支援・ご厚情に御礼申し上げますとともに、今後も変わらぬご指導・ご鞭撻をいただきますよう、お願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

基本理念

- 地域社会に根ざした事業活動を通じて、産業・経済に貢献すると共に、オープンでフェアな企業行動を基本とし、広く社会から信頼される企業市民をめざす
- お客様のご要望に応えた品質・価格の商品をタイムリーに提供する
- 労使相互信頼をもとに個人の創造力とチームワークの強みを最大限に高める企業風土をつくる
- 環境問題と安全問題を最優先に考え、効率的な経営を通じて着実な成長を持続する
- 開かれた取引関係を基本に、互いに研究と創造に努め、長期安定的な成長と共存共栄を実現する

ご祝辞

創業20周年をお祝いして

トヨタ自動車株式会社
取締役社長
豊田 章男

創業20周年、おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

1992年10月、従業員180人で生産を開始されたトヨタ自動車北海道は、20年後の今日、3,000人を大きく超える従業員を擁するまでに成長されました。全世界のトヨタの生産拠点にオートマチックトランスミッション、CVT、トランスファーといった基幹部品を供給し、オールトヨタの中で大きな存在感を示していただいていることに、まずもって深く感謝申し上げます。

創業当初には周辺に部品メーカー、設備メーカーなどの集積も乏しく、現地企業の新規開拓や育成などに大変なご苦労があったと承っておりますが、そうした地道な取り組みを通じて、勇豊会の発足など、地域に根差したものづくりを実現されました。

また、2004年4月にラインオフしたBTH(Break Through Toyota Hokkaido)ラインにおいては「なんでも有り、なんでもチャレンジ」をスローガンに投資金額50%削減・生準リードタイム50%短縮を達成されるなど、原価改善を継続的に推進いただき、本年3月のグローバル仕入先総会では「原価改善優良賞」の表彰をさせていただきました。併せて品質改善にも着実に取り組まれ、原価・品質の両面で世界を代表するユニット供給拠点としての地位を確立されました。加えて、北海道の恵まれた自然環境のもと、既に10年以上にわたってゼロエミッションを維持するなど、環境への配慮という面でも先進的な取り組みを展開されています。

貴社が今日、このような発展・成長を遂げられたのは、従業員の皆様をはじめ、関係各位のご努力、ご尽力の賜物であり、心から敬意を表したいと思います。

自動車産業は現在、先進国市場から新興国市場へのシフトという、グローバルな大きなうねりの中におかれています。基幹部品の現地生産化も、一段と進むものと思われます。こうした中で貴社には、最先端の生産技術を駆使した、高品質で高付加価値な「日本ならでは」のものづくりと、地球環境と共生する企業経営の両面で、全世界をリードする役割が強く期待されます。

貴社はこの20年、生産活動にとどまらず、環境保全活動への協力や、アイスホッケーの振興を通じた地域交流や国際交流などにも、着実に取り組んでこられました。こうした活動を通じて、貴社は「苫小牧の企業」としても受け入れられてきたのではないかと思います。今後も引き続き、生産活動を通じて全世界のトヨタに貢献するとともに、地元北海道においても、いい町・いい社会づくりに引き続き貢献し、貴社が目指される「町いちばんの会社」として定着してほしいと念願しております。

最後に貴社の益々のご発展と従業員、ご家族の皆様のご健勝を祈念しまして、お祝いの言葉に代えさせていただきます。

ご 祝 辞

トヨタ自動車北海道創業20周年を迎えるに当たって

トヨタ自動車北海道株式会社が創業20周年を迎えられましたことを、心よりお喜び申し上げます。

トヨタ自動車北海道株式会社は、1992年の創業以来、オートマチックトランスミッションなど、トヨタ自動車の基幹部品の生産拠点として、また雇用規模が3,000人を超える道内最大のものづくり企業として発展され、本道経済の活性化や雇用の創出に多大な貢献をいただいておりますことに、深く感謝を申し上げます。また、北海道が取り組む道内企業の生産現場のカイゼンなどにご指導いただくなど、本道ものづくり産業の振興にご支援、ご協力いただき、重ねて感謝を申し上げます。

依然として厳しい状況にある本道経済の活性化を図るためには、引き続き、裾野が広く、経済波及効果の高い自動車産業の集積促進を図っていくことが重要です。このため、国内で生産拡大が期待できる次世代自動車などの基幹部品工場の誘致を図るとともに、生産拠点の集積が進む東北との連携を一層強化し、道内企業の参入促進を図っていくなど、サプライチェーンの強靱化に本道のものづくり産業が貢献できるよう、しっかりと取り組んでまいる所存です。

御社におかれましては、このたびの創業20周年を大きな節目として、さらなる事業拡大を図られ、引き続き、本道のものづくり産業はもとより、本道経済の発展に、大きな役割を果たされることをご期待申し上げ、私からのメッセージとさせていただきます。

ご 祝 辞

創業20周年に寄せて

トヨタ自動車北海道株式会社が創業20周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

1992年の創業以来、自動車産業における「北の拠点」のリーディングカンパニーとして着実な歩みを続け、苫小牧から世界に発信するグローバル企業としてゆるぎない地位を確立されました。これも貴社の世界に誇るものづくりの理念のもと、品質向上・技術開発・生産効率の向上など、たゆまぬ努力が実を結んだものと心から敬意を表します。また、地域に根ざした社会貢献活動として、市内小学校への図書寄贈、「とまこまい港まつり」などの行事への参加、トヨタ少年少女記者団の派遣、交通安全DVDの寄贈など多彩な分野で地域社会に貢献されておりますこと、さらには20周年を記念して、市立中央図書館に「移動図書館車」を寄贈いただきましたことに対し、深く感謝を申し上げる次第でございます。

近年、自動車産業を取り巻く情勢はめまぐるしく変化しております。化石燃料から再生可能エネルギーへの転換期において、省エネ、温室効果ガスの排出低減など、さまざまなニーズに対応すべく、新製品の開発や技術革新を推進するとともに、自然と共生する地球環境に配慮した企業活動に取り組まれております。天然ガスエネルギーや雪氷ハイブリッド冷房システムの導入の他、ゼロエミッションの維持、社内植樹祭の実施などの取り組みは誠に意義深いものであり、環境保全活動においても道内企業の模範的な地位を確立しております。創業20周年を契機に、今後におかれましても事業活動の一層の充実に努められ、さらに躍進されますことをご期待申し上げますとともに、本道製造業の指導的役割を発揮され、技術の向上、豊かな市民生活創造のためご尽力いただきますことをお願い申し上げます。

最後に、これまでの輝かしい業績、地域社会への貢献に対し感謝申し上げますとともに、貴社益々のご発展と社員の皆様のご活躍をご祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

ご 祝 辞

誇りの20年をベースにさらなる発展を!!

トヨタ自動車北海道株式会社
前取締役社長
狩野　耕

創業20周年誠におめでとうございます。

会社は創業以来、トヨタ生産方式の実践による高品質のものづくりと、地元北海道に根ざした企業づくりによってお客様や地域の皆様から愛されてこられました。ちょうど10周年を迎えた時に赴任し、それまでのご苦労とその成果に接し大いに感銘したことを思い出します。引き続く“NEXT10”の最初の3年間を社長として担当いたしました。当時生産は繁忙を極めましたので、ユニークなオートマチックトランスミッション組付ラインやアルミホイールの造形工程を増設して対応しました。さらに次々と新製品の発注をいただきましたので第4工場を新設しました。またカナダCAPTIN社に続き米国TMMWV、BODINE両社への支援が始まりました。サプライチェーンの改善となる道内の鋼材を使用しての鍛造工程の新設も発表いたしました。これらの実績は、ひとえに全社一丸となった新しいものへのチャレンジ精神とこつこつと築き上げられた優れた職場力および地元の皆様のサポート力がグループ内で高く評価された賜物と大いに感謝感激したものでした。またアイスホッケー、サッカー、野球、陸上長距離などでチームワークを育むとともに、社会貢献活動においては絵画展やカナダとの少年アイスホッケー交流会などで地域の皆様に溶け込んでこられました。

一方、十勝沖地震やそれに伴う近火には1週間近く緊張しましたし、昨年発生の東日本大震災を筆頭とする厳しい、激動する経済社会環境の中でもこれらの事業を着実に実行された結果、この“NEXT10”の10年間に売上高、従業員数ともにほぼ倍増の規模に成長し、グループ内、道内産業界における存在はさらに大きくなったことと思います。

お客様、取引先の皆様、グループ企業の皆様、地元の皆様のご支援に感謝するとともに、諸先輩のご努力、現役員と従業員の皆さんの働きぶりに賞賛の気持ちをお伝えし、“チャレンジ20”の成功によるさらなる発展を祈念してお祝いの言葉とさせていただきます。

ご 祝 辞

創業20周年をお祝いして

勇豊会会長
株式会社ダイナックス
取締役社長
福村 景範

創業20周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

貴社は1992年10月に苫小牧市に創業以来、地元はもとより北海道経済の発展に大きく貢献されておりますことに敬意を表します。自動車産業とは縁が薄かった地域において、高品質・高性能を要求される変速機を造ることには大変なご苦難があったと思います。しかし、高い理想を掲げ、旺盛なチャレンジ精神で課題を解決され、今日の地位を築かれましたことは他に誇り得る製造業の素晴らしい成功モデルと言えると思います。

貴社は創業当初より「地場産業育成」の方針を掲げられました。2004年、それまでの安全協力会組織を発展させ、結成されました勇豊会は貴社の強いご支援とご指導のもと、会員会社数は170社となりました。その間、貴社は基本理念である「開かれた取引関係を基本に互いに研究と創造に努め、長期安定的な成長と共存共栄を実現する」を実践され、また会の活動を通して会員各社のレベルアップにご協力いただいておりますことに、会を代表して厚く御礼申し上げます。

これからも、貴社の世界レベルの仕事の中で、北海道の産業基盤をさらに強固にするために、会員各社と風通しの良いコミュニケーションによって、「トヨタ生産方式」の真髄をご指導いただきたいと願っております。私共も、それぞれの事業での改善と自己革新に努めるとともに、貴社の方針である豊かな社会づくりに貢献する良き企業市民を心掛けて、それぞれに成長していきたいと念じております。

最後になりましたが、この20周年を機として、貴社のさらなる飛躍と繁栄を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

ご 祝 辞

新たな時代に向けて

トヨタ自動車北海道労働組合
執行委員長
岩本 尚典

創業20周年記念誌発刊に当たり、労働組合を代表して心からお祝い申し上げるとともに、会社役員ならびに全従業員の皆さんと、この慶びを分かち合いたいと思います。

顧みますと、1992年10月にトヨタの北の生産拠点として地域に根ざした企業を目指し、『世界No.1のユニット工場』を志にそれぞれの持ち場立場で取り組んできました。この間、幾多の困難と厳しい試練を乗り越え、今では従業員数3,000人を超える、ものづくり産業としては北海道有数の企業にまで成長してきました。この背景には、めまぐるしい環境変化の中、会社の的確な経営諸施策と従業員それぞれの不断の努力はもちろんのこと、トヨタのDNAである「カイゼン」を主眼において「ものづくりは人づくり」として教えをいただいた諸先輩たちをはじめ、関係会社・地域の皆さん、従業員を支え続けてくれたご家族など多くの方々のご協力があってこそ今日があると思います。

時代を追うごとに自然環境、社会環境も大きく変貌を遂げ、自動車産業の行く末においても予測できないのが現状でありますが、いかなる状況においてもトヨタ北海道の主役はここに働く人であり、常に前向きな気持ちでその時々のベストを尽くすことが大切であると思います。今後も自らが意欲・活力を持って働ける環境であることが、さらなる会社発展の原動力となることを労働組合の視点から愚直に推進していく所存であります。

会社創業20周年を、「新たな時代に向けて」の出発点として労使相互信頼の精神を基本に力強く邁進していくことをお誓い申し上げ、労働組合を代表しての祝辞とします。

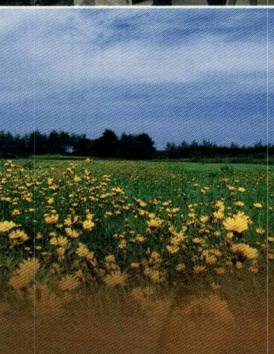
CONTENTS【目次】

トヨタ自動車北海道株式会社
創業20周年記念誌
HOKKAIDO
TOYOTA MOTOR HOKKAIDO,INC. 1992-2012

トヨタ自動車北海道株式会社 創業20周年

SPECIAL INTERVIEW

TMHへの期待

新しい目標に向かってチャレンジする勇気を!

トヨタ自動車株式会社
取締役会長
張 富士夫

2012年5月31日、創業20周年を迎える当社に、
トヨタ自動車株式会社の張富士夫会長が、6度目の来社をされました。
当日は工場を視察され、「実直に現地現物に基づいた業務改善を行っている」と
従業員の取り組みを評価いただきました。
その後、北海道への思いとともに、今後の当社の在り方、
当社に期待することについて語っていただきました。

●開　催　日／2012年5月31日(木曜日)
●会　　　場／トヨタ自動車北海道株式会社
●インタビュアー／**近藤和彦**(トヨタ自動車北海道株式会社 専務取締役)

HOKKAIDO

――はじめに、工場をご視察いただいたご感想をお聞かせいただけますか。

創業20周年を迎えられたということで、20年経つといい工場になるなぁというのが最初の感想です。僕がトヨタ自動車に入ったのは1960年ですから、スタートして23年目なんですね。ですから、あの頃の機械工場と同じくらいだと。あの頃、トヨタはまだまだ先代の機械をいっぱい並べて、その中で大野さんたちが一生懸命標準作業を作って、数は多くなかったですが、今のいわゆるトヨタ生産方式の原点の仕組みを築いていました。それに比べれば設備も強くなっていますし、考え方もきちっとしているからずっといい工場だと思います。

それにしても20年という年月を感じました。本当にご苦労様でした。ありがとうございます。どういう意味でありがとうかというと、この会社がいいなぁと思うのは、実直に現地現物に基づいた業務改善を行っているところです。理屈じゃなくまずやってみる。現物を見ながら一つ一つなぜこうなっているんだろうとトライし、こうなっているんだ、こういうもんだと確認し、そこから理屈をひっぱりだし理屈に合ったようにしておられる。この考え方というのは非常に大事だと思っております。

最近は、知識や理論が先行するということが、世の中多くなったように思います。だから話だけ聞いて分かったような気になるものだけど、実際にやってみると全然違う。なんでこんなことが出てくるんだろう、ということがたくさん出てくる。特に今日見せていただいた生産性向上、品質不良対策の取り組みの中で、一個一個試しながら、こうじゃないかという結論を出す。その過程ではいろいろ行ったり来たりすることがあったのだろうけど、1個ずつやるのは1番確実で人が育つとてもいい方法だなぁと思います。ぜひ経営の伝統として生かしていただきたい。会社が100年続いた時には、昔の人がこうこうして、こういう仕組みや考え方を作ってくれて、これが大事な財産だと後輩たちが言えるんじゃないか。会社というものが長続きするには、次の人にバトンを渡していく。とってもいい方向でやっていらっしゃる。

私はトヨタ北海道ができてからときどきお邪魔してきました。いつも頭にあるのは、愛知から離れたところにポツンとトヨタ北海道がある。後工程は離れているし、将来的に大丈夫だろうかということが頭から離れなかった。そのうち、近くに関東自動車工業（株）※1ができて、なんとなくいい方向に来ているなと思いました。この7月にトヨタ自動車東日本（株）が発足しますので、そうするとトヨタ北海道は東北拠点の中心的な位置に入っていくだろうと、内心ほっとしています。これで日本では愛知と九州と東日本の3つの拠点ができて、

東日本は小型車、九州はレクサスと仕分けされつつある。これがどう変わっていくかは分かりませんけれども、いずれにしてもトヨタ北海道にとって大変よかったし、ぜひこれをうまく活用してほしいと思っています。

みんなが勉強して、ちょっとした機械ならすぐ作ってしまうとか、そういう自力をつけてきていることは大きいですよ。ちょっとした治工具から始まって、簡単な設備くらいなら作れる部隊を持っているといろいろなことができるんです。10人でやっている作業が本当に5人ぐらいでやれるようになります。保全·改善の人たちがそういう力をつけてくれるというのが、実は現場の見えない力だと思います。そういうスキルが確実についている。親方が言わなきゃできないじゃなくて、みんなで「こういうものを作ったらどうだ」とアイデアを出し合う。そうすると、ものの見方が一致してくる。大変職場としては強くなっていきますよ。

※1 …関東自動車工業（株）岩手工場（1993年操業開始）

――今後は教える側が大変重要になってきて、その繰り返しで人が育って会社が発展していくと思うのですが、人材育成に関して思い入れやご助言を頂けますでしょうか。

必ず話をするのは、「実行する」ということです。会社に入ってくる人たちは、知識はいろいろ持っているんですよ。会社に入ってからも本を読んだり、先輩の話を聞いたり。だから、言うこととか考えることとかは結構一人前なんだけど、「じゃあ、おまえやってみろ」と言った時にやれない。それをうまく導いて実行させるということが、育成の条件だと僕は信じています。というのは、まずやってみると、ほとんどのことが頭の中で思った通りにいかない。失敗するというか、考えていたこととやってみることは違うことがまず分かる。そうすると謙虚になって、もっと現地現物から勉強しようという姿勢が生まれる。それから、失敗した時になぜそうなったのか、という原因を一生懸命探すということをやりだしますよね。そういうことを繰り返していると、世の中というのはちゃんと理屈があるんだということが分かってくる。理にかなったことをやらなきゃうまくいかないし、絶対長続きしない。

でも、やったことのない奴はめちゃくちゃ言うし、人にずいぶん迷惑をかけるじゃないですか。まず実行して、いろいろと学びながら、少しずつ改善したうえで、何か一つ達成できたと。そうすることにより、また一段高いレベルに上がって、ちょっと周りを見てみると、そうかと。学びながら、失敗しながら、まただんだんと探っていく。そういう意味では、どんなことであろうと、きちっきちっと自分でやってみることをためらわないことが大事です。

張 富士夫 Fujio Cyo
トヨタ自動車株式会社 取締役会長

1960年トヨタ自動車工業株式会社入社。1988年取締役に就任後、同年12月にトヨタモーターマニュファクチャリングU.S.A.株式会社取締役社長。1994年トヨタ自動車株式会社常務取締役。1999年取締役社長に就任。在任中、斬新な車種を次々と発表し、2004年度決算では同社史上最高利益を記録。2006年取締役会長に就任、現在に至る。株式会社デンソー監査役をはじめ、東海旅客鉄道株式会社、株式会社豊田自動織機の取締役、日中経済協会、日本体育協会の会長等を務める。2009年旭日大綬章を受章。

——かつての上司でいらした大野耐一さんや鈴村喜久雄さんの影響もございますか。

ええ。そういう育て方でしたね。大野さんも鈴村さんも。鈴村さんは、「誰もおまえが1回で成功するなんて期待していないから、心配せずにやれ」って言ってくれました。それくらいの度量がある。後ろで見ていたんでしょうね。取り返しのつかないことになると困るからと思って。

——そういう時に助けはありましたか？

あまりなかったなぁ。見てたなという気はするけど。

——いろいろ失敗談もあるんですか？

ええ。大した話ではないけれど。その都度修正しますからね。むしろうまくいったなぁと思って、ろくに経過を見ないでよそを見ていたら、「やったことをきちんとチェックしていない」と言って怒られたことがあります。

大野さんが、（足元に円を描いて）この中に立ってみると作業者のおかしい動きが一番分かるぞって言うんですよ。ここからよく見えるから、分かるまで立って見てろと。でも、その答えを言わないでいなくなっちゃう。だから3時間も立っていた人もいる。なぜ作業者がこんなことをやっているか。なぜこんなことになっているのか。なぜここにモノがたまっているか。一生懸命調べて現状を報告すると「そんなことは、分かっている。お前もおかしいと気付いて、さっさと改善しろとわしは言っているんだ」と言われました。

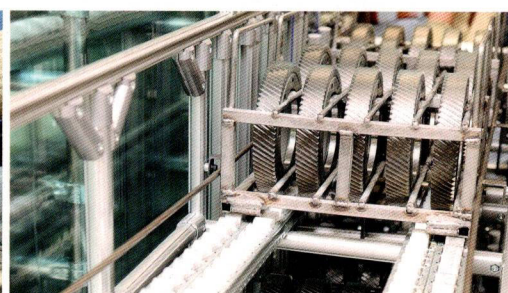
——頭の中に答えがあっておっしゃられていたのですか？

そう、大野さんは常にぱっと見て、瞬時におかしいと気付く。ただ、我々は少しくらいおかしくても気が付かない。本当に優秀な作業者は踊りと一緒でとんとんとんと。本当に楽に踊りを踊っているみたいに無駄がない。スイッチはこっち側にあって、「まずは左足から出て、その時に右手は前にくるだろ」って話をして、そこの所に手が触れるようにすれば、ポンと押してその間にこっちの機械が動き出すというような。要するにそういうことなんですよ。

——大野さんや鈴村さんは、非常に怖いというイメージがありますが。

怖くはないんですが、ものの見方はこだわっていて、しごいてくれるので、そういう部分もあるかもしれない。だけど、その人のレベルを見ながら指導してもらえる。

——作業改善についてですが、なかなか知恵がなくて進みません。

改善は、台数を出すか、人を減らすか。極端な言い方をしたら、どっちかなんですね。だから、台数が出ないまま頑張るのではなく、むしろゆったり作っているので、人を抜いて別のラインに入れて、そっちのラインのスピードを上げてやる方

がいいわけですよ。そういうことを自由自在にできるというためには、普段からの訓練ですが、5人でやっている作業を1割台数が減ったら、改善と残業で4人でやれとか。2割減ったら残業無しで4人体制でやる。すぐ人が抜けるようになっているかということと、机上の計算とはやることが違うよね。

——当社が設立されたのが1991年ですが、設立当時の思い出はございますか?当時アメリカに赴任されていましたね。

アメリカからは1994年の終わりに帰ってきたんですよ。ですから、あまり関わりはなかった。日本からの情報としては、九州の次に北海道ができると聞いていました。ただ、北海道でユニットを作って愛知県へ運ぶのは大変だなというのが最初の印象。初めてトヨタ北海道に来た時(1997年)に、進出して数年目なのに北海道で有数な規模の会社になっていた。それにはちょっとびっくりしたのを覚えています。

——当社が北海道に来て20年が経ちますが、あらゆる面で地元とのつながりが強まってきたと思います。アメリカのケンタッキー州で身をもって体験された地元とのつながりの大切さについて、何かお話しいただけますでしょうか。

私たちは「お客様第一」とか「お客様が一番大切だ」ということを社内で言うけれど、だんだん観念的な話になっていきがちです。それぞれの地方、地域で身をもってやっている人ほど、地元の方々とのつながりを感じるんです。時には事業も助けてもらう。それから当社の製品をご愛顧いただける。いろいろなことで地元のつながりがあり地元から重要視されている。

2009年～2010年にかけてアメリカで起こったアクセルペダルのリコール問題では、大勢の地元の人が公聴会で味方になってくれたり、励ましてくれました。本当にありがたかった。ああいう時に、それまでの行動が出るんじゃないでしょうか。向こうの言い方で、なるほどって思うんですが、「グッド・コーポレート・シチズン(良き企業市民)」っていうんですね。これが非常にぴたっとくるんです。コーポレート(企業)だから、赤字ならともかく、費用も人材も出せる範囲でできるだけ地元とコミュニケーションをとることが大切だと思います。

——会長はカラオケでコミュニケーションを取っていたそうですね。

いやいや(笑)。ほとんど日本人が参加して、時々現地の人も来ましたよ。

——仕事以外で北海道に思い入れや思い出はありますか?

いっぱいありますよ。僕が初めて北海道に来たのは、大学1年か2年のとき。大学の剣道の部員として来ました。北海道大学や北海道警察に行きました。先輩がサッポロビールの工場長をしていまして、工場を見学させてもらいました。

――前回お見えになった2009年は、道内の観光地を回られましたか？

支笏湖にある、王子製紙の水力発電所へ行きました。明治時代の何もない時代に、水力発電を造った専務さんのことが紹介されていたんです。100年前の昔に北海道で何か一つのことをやり遂げた男たちという感じで、素晴らしいなと思って覚えています。

――今行きたいところはございますか？

もう決めています。来年ぐらいに知床半島の海からクマを見たい。サケを10本くらい持って行って、海岸にぱっぱっと置いて離れて待機して（笑）。

――トヨタ自動車北海道に期待することについてお伺いできますでしょうか。

まずは東日本、東北の拠点として鍛造部品などの生産品目を増やしていってもらいたいです。

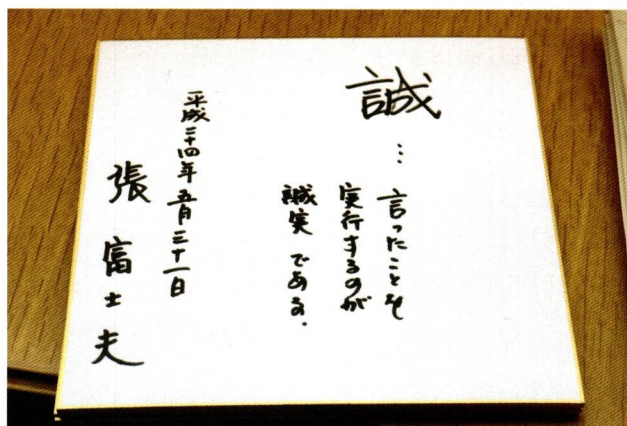
――そのためには、ますます実力をつけていかないといけないですね。

いろいろな課題がこれからも出てくると思いますから、今やっているものもそうだし、新しいこともトライしてください。なかなかみんな張り切っていろいろなことをやっているから、課題を追加して、田中社長が与えればいいんじゃないですか。

――これから特に駆動ユニットについては、海外生産が進んでいく中でどう国内のものづくりを守っていくか、維持していくかが大きな課題です。

うまくやれるんじゃないかと思うけど、後工程の完成車を何台作るかによって、それに合わせた規模で前工程と一緒にものが作れるかということ。そういう20万台でもOKだし、5万台でもやれます。あるいは2,000台でも作ってやる、というくらいの簡単なラインを作る。そのような工程づくりが、将来的にはグローバリゼーションで勝ち抜く手だと思っているんですよ。

――本日は貴重なお話を頂き大変ありがとうございます。それでは最後に会長の座右の銘をお伺いできますでしょうか。

「誠」です。「誠」という字はごんべんに成すなので、言ったことを成す。言ったことを実行するのが「誠実」という意味です。

張会長ご自身の「有言実行の意思」、「強い責任感」の現われ、また当社への期待から出たお言葉。

トヨタ自動車北海道株式会社

現在までの歩み 2003～2012

創業11周年　創業20周年

TMH History　2003-2012

2003年 平成15年

6月

狩野 耕社長就任

2003.6.21 北海道新聞

2003年（平成15年）6月21日（土曜日） 16版 第1経済 10

トヨタ北海道

売上高と利益最高

3月期決算 経常100億円を突破

【苫小牧】トヨタ自動車北海道（本社・苫小牧）は二十日、二〇〇三年三月期決算を発表した。売上高は前期比20・1%増の千百七十六億円、経常利益は同31・3%増の百九億円と増収増益となった。いずれも過去最高で、経常利益が百億円を突破したのは初めて。

主力の自動変速機（AT）はイスト、ウィッシュなど新車種の好調な販売に支えられ、同22・3%増の八十九万三千台。アルミホイールが同31・7%増の百五十六万八千本、トランスファー（四輪駆動車用の駆動輪切り替え装置）も同19・8%増の三十九万四千台と堅調だった。

来年三月期の業績見通しについて、同社は「新車の需要も一段落し、売上高などは若干減る見込み」（総務人事室）としている。

新社長に狩野氏

狩野耕氏

【苫小牧】トヨタ自動車北海道は二十日までに、取締役会で新社長に狩野耕副社長を昇格させる人事を決めた。工藤末志社長（六五）は顧問に退く。

狩野 耕氏（かのう・つとむ）1971年大阪大大学院工学研究科卒。同年、トヨタ自動車工業（現トヨタ自動車）に入り、取締役上郷・下山工場長などを経て、2002年6月からトヨタ自動車北海道取締役副社長。57歳。奈良県出身。

トヨタ自動車北海道人事（19日）

▽取締役品質・環境部長（生産部品質・環境室長）吉田誠一

狩野耕社長

6月19日の定時株主総会およびその後に開催された取締役会において役員の改選が行われ、創業以来社長に就任されていた工藤末志さんが退任され、新社長に副社長の狩野耕さんが昇任されました。

6月

工場見学来場者 7万人達成

- 第1位 アルミホイール 1,000万本達成記念式典開催（11月4日）
- 第2位 狩野 耕新社長就任（6月19日）
- 第3位 U340生産累計200万台達成（7月8日）
- 第4位 十勝沖地震発生（9月26日）
- 第5位 当社製オートマチックトランスミッション搭載車「ウィッシュ」「ラウム」「シエンタ」発売
- 第6位 従業員数1,700名突破（10月）
- 第7位 工場見学来場者7万人達成（6月10日）

7月8日

オートマチックトランスミッション（U340）生産累計200万台達成

11月

アルミホイール 生産累計 1,000万本達成

トヨタ北海道のアルミホイール生産 累計で1千万本達成

トヨタ自動車北海道（狩野耕社長）は四日、アルミホイール生産が一九九二年の操業開始からの累計で一千万本に到達したことを記念し、苫小牧市勇払の同社で式典を開いた。同社は「当面、設備能力上限での生産体制が続く見通し。今後も高品質の製品を供給していきたい」としている。

同社は現在、十四―十八ｲﾝﾁの五種類のアルミホイールを、月間十五万本生産している。一昨年、約三十七億円を投資し、同十万本だった生産能力を同十五万本に引き上げてグループのアルミホイール製造を集約して以来、設備能力上限での生産活動を続けている。

アルミホイールの生産累計1千万本をテープカットで祝った＝4日、トヨタ自動車北海道

ホイールの搭載車種は人気のセリカ、セルシオなど乗用車からランドクルーザープラドなどRV車まで国内数十車種に上る。車両の好調な売り上げに合わせ、ホイール生産も右肩上がりに伸びている。生産本数の累計は、九二年十月の操業生産開始から、四日までに一千万本を突破。五百万本到達まで約七年五カ月（〇〇年三月）を要したが、それから四年弱で一千万本の大台に達した。

式典には同社従業員のほか、稲見雅寿道経済産業局長や高橋道知事、中村光雄苫小牧商工会議所会頭ら約二百人が出席した。会場で一千万本目のアルミホイールを披露した後、狩野社長や来賓らが、テープカットした。

同社の生産は、小型自動変速機の生産を受け好調、従業員数も十一月一日現在で千七百人を超えた。狩野社長は「今後もモノづくりの幅を広げ、活力ある会社を目指す。地元・苫小牧や北海道の活性化にも貢献していきたい」と話していた。

2003.11.4 苫小牧民報

アルミホイール生産1000万本
トヨタ自動車北海道が達成

テープカットでホイール生産1000万本を祝った記念式典

【苫小牧】トヨタ自動車北海道（苫小牧）のアルミホイール生産が四日、累計で一千万本に達し、同社工場で記念式典を開いた。同社は一九九二年十月にアルミホイールの生産を開始した。当初は月産六千本だったが、搭載車種の販売が順調に伸び、現在は同十五万本を生産。クラウンやセルシオ、ランドクルーザーなど人気車の十車種以上に搭載されている。

式典には高橋はるみ知事、道経済産業局の稲見雅寿局長ら約二百人が出席。狩野耕社長は「今後は設計分野や技術開発にも取り組み、世界一のユニットメーカーを目指したい」とあいさつ。高橋知事は「もはや誘致企業ではなく道内を代表する企業。今後も地域とともに発展してほしい」と祝辞を述べた。

サマータ

内だけ日本標準時より二時間時計を早めることで得られる効果は、レジャー・観光産業を中心に一千百億円余りと試算。同会議所は「導入に向け活

レジャーや観

「道州

関心の高まりから道外観光客も十万人余り増え、これらが生む新たな個人消費などの直接効果は九百二十八億円とした。さらに、雇用者の所得

札商サマータイム小委員会の石水勲座長（石屋製菓社長）は「議論する価値は十分ある。道州制を導入する場合の目玉にもなる」と強調している。

2003.11.5 北海道新聞

2004年 平成16年

4月

第3工場 500tプレス生産開始

4月5日

オートマチックトランスミッション（U340）BTHライン稼働開始

月産7万台の生産能力で稼働を開始しました。BTHは「現状打破」を意味するBreak Through Toyota Hokkaidoの頭文字から付けられました。

5月14日

オートマチックトランスミッション生産累計500万台達成

式典にて、お客様の期待に応え続けるために、常に質・量・コストを念頭にこだわりを持った生産活動を継続していくことを改めて誓いました。

8月

TMH新協力会「勇豊会」設立

「TMHならびに会員各社が積極的な相互研磨、コミュニケーションを行うことにより競争力世界No.1の実現を目指すとともに地域社会に貢献する」を基本方針にスタートしました。

5月20日

初代社長 工藤末志氏逝去

工藤末志初代社長

5月20日に初代社長の工藤末志氏（享年67）が逝去されました。

工藤初代社長は、1961年にトヨタ自動車工業株式会社（現トヨタ自動車株式会社）に入社され、当時の機械技術部、後の第1生産技術部に所属され、トヨタの生産技術力の向上にご尽力されました。1979年、衣浦製造部に異動され、同工場の工務部長、副工場長をご歴任され、トヨタの駆動系ユニット部品の製造に、多大なる貢献をされました。

そして、1991年2月にトヨタ自動車北海道（株）が設立された際、工藤さんが初代社長に就任されました。トヨタ北海道の立ち上がりと発展に大きな功績を残された故工藤初代社長の生前のご活躍に、敬意と感謝の意を表します。

- **第1位** 新プロジェクト（第4工場建設・第3工場増築）（9月〜）
- **第2位** オートマチックトランスミッション生産累計500万台達成（5月14日）
- **第3位** BTHラインオフ（4月5日）
- **第4位** 工場見学来場者8万人達成（8月24日）
- **第5位** 第14期（03年4月−04年3月）決算過去最高
- **第6位** 衣浦工場への生産実習・応援（1月5日〜）
- **第7位** 当社製品搭載車「ポルテ」「アイシス」「マークX」発売

8月

工場見学来場者8万人達成

2004.9.28
苫小牧民報

苫小牧民報　1カ月購読料(税込み)2,140円(1部90円)　2004年(平成16年)9月28日

トヨタ北海道、第4工場建設正式発表
来年末にも新ユニット生産
300億円を投じ建屋と設備
従業員2500人体制に

トヨタ自動車北海道（本社苫小牧市、狩野耕社長）は二十八日、苫小牧市勇払の同社敷地内に新ユニットを生産する「第四工場」を建設すると発表した。トヨタ自動車の国内緊急増産に対応し、新たな自動変速機（オートマチックトランスミッション＝AT）を製造するとみられる。二〇〇五年末にも生産を開始し、新工場が本格稼働する〇六年夏には、新工場だけで五百人規模の従業員により、操業する計画だ。

AT生産が好調なトヨタ自動車北海道

トヨタ自動車北海道によると、工場建屋は鉄骨造りで、規模は八万平方㍍。生産設備・建屋を合わせた投資額は三百億円強になる。先週末に着工しており、〇五年六月三十日の完成を目指す。製造品目や生産ラインの規模については「トヨタグループの経営戦略にかかわるため、現時点では公表できない」（総務人事室）としている。

来年夏の新工場稼働に向け、計画する五百人のうち既に二百人を採用済みで、トヨタ自動車本社（愛知県）で実習を受けている。トヨタ北海道の〇六年夏時点の従業員数は、既存工場と合わせて二千五百人規模となる見通しだ。

同社はこのほか、AT関連部品の粗形材を製造している第三工場の増設もする。

同社は「国内外で高い販売目標を設定するトヨタグループの中で、品質の高さ、コスト面、労働力確保のしやすさが評価され、新ユニットの生産拠点に選ばれた」としている。

トヨタ自動車北海道の敷地内には既に三つの工場があり、ATやトランスファー、アルミホイールを生産している。第四工場は、第一工場の十万二千平方㍍に次ぐ規模となる。九月一日現在の準社員（期間従業員）を含めた同社の従業員数は、二千百二人になっている。

桜井忠苫小牧市長　第四工場建設の話を聞き、驚きと感謝の気持ちでいっぱい。工場建設に当たっては地元調達の拡大、地元雇用の推進に取り組んでいくともうかがっている。七月にトヨタ本社に出向き、工場増設と雇用の拡大をお願いした際にもよい手応えを感じていたが、このように早く具体的な増設計画は市にとっても大変喜ばしい。

中村光雄苫小牧商工会議所会頭　第四工場の建設は日本の経済、北海道の経済、自動車産業の状況を見て判断されたことだと思う。グループ会社が数多くあり、自動車産業が中国にも進出している中、苫小牧で来年操業することが約束されたことは、地域雇用や関連産業の活用増強にもつながる。雇用、生産、その他の面で力強いものがあり、大変ありがたい。

9月

第4工場着工

2005年末生産開始予定の6速オートマチックトランスミッション（U660）生産工場として着工。投資規模300億円強にて建設されました。

10月

「トヨタの森」完成

2004.10.20 苫小牧民報

東西南北

◆散策や昼食などに楽しんで

◇…「豊かな緑は持続的発展の象徴」と笑顔なのはこのほど、敷地内に「トヨタの森」を造成したトヨタ自動車北海道の狩野耕社長。一九九一年にトヨタの北の生産拠点として苫小牧に立地、九二年から製造開始したアルミホイールは昨年秋に累計一千万本を突破した。「今年も五月に自動変速機が同五百万基を超え、第三工場増築や第四工場新設も実現。順調に成長することができた」。

約三千本を植樹したトヨタの森のコンセプトは「安らぎ」。工場見学者数は年間一万人近くに上っており「森の散策やバードウオッチング、昼食などを楽しんでほしい。豊かな自然と共生しながらものづくりを通じ、苫小牧や道内経済の活性化に貢献したい」。

経済産業省の電源地域産業再配置補助金にて実施し造成されました。

27　苫小牧・日高　苫日　（第3種郵便物認可）　北海道新聞

工場内に「トヨタの森」
サクラなど3千本　年内に一般開放

苫小牧市勇払のトヨタ自動車北海道（狩野耕社長）は敷地内に憩いの場「トヨタの森」を造成している。サクラなど約三千本を植樹するほか、散策路やあずまや、ベンチを設け、市民にも開放する。今月末の完成を前に十九日、狩野社長らが植樹式を行い、森の成長を願った。

トヨタの森は、第一工場東側の一万七千六百平方㍍。環境対策に取り組む会社のシンボルとして造成を決めた。工場施設内の森はトヨタでも北海道だけという。

今年五月に着工。春には花、初夏には新緑、秋には紅葉などが楽しめるよう、エゾヤマザクラやライラック、ヤマモミジなど数十種類の樹木を植えた。「歩きながら四季折々の自然を楽しんでほしい」（同社）という。

植樹式には同社幹部や苫小牧市の桜井忠市長ら約二十人が出席。狩野社長や桜井市長ら五人がハルニレを植樹した。狩野社長は「豊かな自然は持続的発展の象徴でもある。バードウオッチングや友人との昼食など、地域や工場見学のお客さん、従業員の心安らぐ場所にしたい」と話していた。

年内に一般開放を始める予定。問い合わせは同社☎0144・57・2121へ。（岩瀬貴弘）

「トヨタの森」の成長を願い、ハルニレを植樹する狩野社長（右から2人目）ら

2004.10.20 北海道新聞

2005年 平成17年

3月29日〜4月1日

トヨタ少年少女記者団を愛・地球博へ派遣

社会活動の一環として、苫小牧市内の全22の小学校の新6年生を「トヨタ少年少女記者団」と銘打って愛知県に派遣しました。

愛・地球博を中心に、トヨタ会館、トヨタ自動車元町工場などを取材しました。

苫小牧の小学6年生22人が現地取材

レクサスライン ラインオフ式

5月12日

アルミホイール（レクサスライン）ラインオフ

8月30日

工場見学来場者9万人達成

11月

ユニット（オートマチックトランスミッションA541・U340、トランスファー）生産累計1,000万台達成

11月23日、第1工場にてユニット生産累計1,000万台達成記念式典が開催されました。ご来賓としてトヨタ自動車（株）の張副会長にもご臨席賜り、工場関係者合わせて約110名が出席しました。

ユニット生産累計1,000万台達成記念式典

- 第1位 レクサスライン ラインオフ式(5月12日)
- 第2位 ユニット生産累計1,000万台記念式典開催(11月23日)
- 第3位 第4工場火入式(4月6日)
- 第4位 当社製品搭載車「レクサスGS・IS」「ラクティス」発売
- 第5位 第4工場完成および第3工場増築記念竣工式開催(12月8日)
- 第6位 工場見学来場者9万人達成(8月30日)
- 第7位 愛・地球博盛り上げ活動「見学ツアー」「トヨタ少年少女記者団」実施(3月25日〜)

12月8日

第4工場竣工、第3工場増築記念竣工式

第4工場をご視察される高橋はるみ知事

12月8日、当社の新6速オートマチックトランスミッションの生産開始を記念し、「第4工場完成および第3工場増築記念竣工式」が開催されました。式典には、北海道経済産業局の内山局長、高橋北海道知事、トヨタ自動車（株）瀧本副社長をはじめとするご来賓をお招きし、約120名が出席しました。

苫小牧民報　1カ月購読料(税込み)2,140円(1部90円)　2005年(平成17年)12月8日

海外向け新6速AT製造

トヨタ北海道の第4工場竣工

06年には無段変速機

トヨタ自動車北海道（狩野耕社長）は八日午前、苫小牧市勇払の敷地内に建設した新ユニットを造る第四工場の竣工（しゅんこう）式を現地で行った。同工場では、北米向け「カムリ」など三五〇〇―四〇〇〇ccエンジン対応の新しい六速の自動変速機（オートマチックトランスミッション＝AT）を製造する。このほか、二〇〇六年に最先端の変速装置である無段変速機（CVT）の製造を計画していることが分かった。

第4工場を見学する高橋知事（中央）ら＝8日午前

第四工場は、鉄骨平屋建て八万八千平方㍍。十万二千平方㍍の第一工場に次ぐ規模となる。生産設備・建屋（粗形材の第三工場増築分含む）の総工費は約三百億円で、昨年九月に着工している。今年六月末の建屋完成後、部品組み付け、加工ラインの量産試験と品質確認を繰り返してきた。

建屋は、設備の小型化で天井の高さを他工場より一㍍低い九㍍とし、冬期間の暖房経費を抑制。燃料節減により二酸化炭素排出も減らし、地球温暖化防止に貢献できる省エネ構造になっている。

竣工式には高橋はるみ知事、内山俊一道経済産業局長ら約百三十人が出席。狩野社長は「雇用を拡大。地域経済活性化に努めたい」などとあいさつした。

この後、狩野社長らが起動スイッチを押すと第一号の変速機が姿を現し、本格操業に入った。

新六速ATは「高機能、高品質、多段化（従来は四速）で乗り心地、燃費を向上した」（同社）のが特徴。北米向け「カムリ」などに搭載する。組み付けラインの生産能力は月二万台。従来のコンベヤー作業と異なり、一人で製品を完成させる「一人完結ライン」となっている。

同工場では二品目の生産を計画しており、〇六年夏にもCVTの製造を開始するとみられる。

2005.12.8 苫小牧民報

トヨタの戦略基地に

北海道は人材供給拠点

苫小牧で新工場稼働

【苫小牧】トヨタ自動車北海道（苫小牧、狩野耕社長）が八日、最新型の自動変速機（AT）を生産する第四工場の操業を開始した。新工場は、トヨタ自動車（愛知）の世界戦略を支える部品供給基地として、北海道の役割がいっそう重くなったという意味を持つ。トヨタは北海道を「人材供給基地」として注目、さらなる設備投資や関連業者の進出にも積極姿勢を見せている。（苫小牧報道部　拝原稔）

生産が始まったトヨタ自動車北海道の第4工場のATライン

トヨタ北海道によると、第四工場の操業で道内からの部品調達率が2・8ポイント上昇の6・5%になり、道内発注額は年三十億円増える見込み。従業員も新たに五百人雇用し、既存工場と合わせると道内製造業で群を抜く二千五百人体制の工場に成長した。

第四工場では六段変速ATを月間二万台生産し欧米やアジアに輸出する「カムリ」などトヨタ自動車の高級車に搭載される。ATの受注をめぐってはトヨタ自動車衣浦工場（愛知）、アイシンAW（同）との激烈な競争を勝ち抜いた格好だ。

トヨタ自動車が北海道を重視するのは、人材が他の地域より優位と見ているからだ。張富士夫副会長は十一月下旬に苫小牧を訪れた際、「北海道は人材の面で可能性がある土地。トヨタのシェアも高く、報いたい」と明言。トヨタ自動車北海道幹部も「北海道の人はまじめで、良質な製品を長く作り続けるために欠かせない条件を備えている」と言い切る。

第四工場にはなお半分以上の空きスペースがあり、幹部は「さらなる製品づくりのため、あえて余裕あるつくりにした」と強調する。トヨタ北海道は、五百人単位での雇用が見込めるATラインなどの新設を含め、今後検討してゆく考えだ。

2005.12.9 北海道新聞

U660オートマチックトランスミッション ラインオフ式

12月

オートマチックトランスミッション(U660)ラインオフ

2006年

平成18年

3月

TMMWV（トヨタ・モーター・マニュファクチャリング・ウエスト・ヴァージニア）、BODINEの製造支援開始

3月24日

オートマチックトランスミッション（A541）生産終了

3月24日、当社が初めて製造したオートマチックトランスミッション「A541」の生産を終了し、シャットダウン式を行いました。乾杯では、工場長の木本さんが「ありがとうA541」と発声し、出席者約80名で長年活躍してきた製品との別れを惜しみました。

トヨタ北海道

ありがとうA541

高級車向けAT生産終了

苫小牧市勇払のトヨタ自動車北海道は二十四日、主力品目の自動変速機（オートマチックトランスミッション＝AT）のうち、初めて製造した「A541」生産を終了し、シャットダウン式を行った。A541の生産実績がその後、新たなATの受注につながっただけに、社員は感謝の気持ちを込め、晴れやかな別れの舞台を演出した。

A541は一九九三年六月に生産を開始。トヨタの米国ケンタッキー工場向けがメーンでアバロン、ウィンダム、カムリなど三〇〇〇cc級の高級車に搭載された。最盛期の二〇〇〇年には月産三万基に上ったが、最近は同千五百基となり、搭載車両はオーストラリアで生産するアバロン一車種になっていた。

同社第一工場で行った式には、幹部やライン従業員八十人が出席。上岡義隆工長(五七)が最後に生産した製品のボルトを締め、現場リーダーの田中政浩さん(四二)が締まり具合をチェックした。

乾杯の音頭を担当した木本貞二第一生産部長は「ものづくりの自信をもらったユニットだから」と、（乾杯ではなく）「ありがとうA541」と発声。出席者も高らかに唱和した。

愛知県での生産準備段階から、A541に携わってきた田中さんは「このミッションに成長させてもらった。寂しい」と、看板製品との別れを惜しんだ。

社員が最後の製品のボルトを締め、生産終了を惜しんだ＝24日、トヨタ自動車北海道第一工場

解説

12年6カ月、世界に供給

搭載車種減少で打ち切り

利益出し生産終了はトヨタ初

自動変速機「A541」は一九九三年六月から十二年六カ月で、総計二百三十九万四千九百五十二基を製造、世界に広く供給した。高級車向けで付加価値が高く長年、同社の収益に大きく寄与したが、モデルチェンジによる搭載車種減少で打ち切りとなった。

同社はA541の生産を通じて技術力を高め、現在の発展の基礎をつくった。転機もあった。ラインオフから三年目。当初は新型、高性能、安価と世間の高い評価を受けたが、国際競争が激化する中、トヨタ本体に原価低減を指示された。一九九六年四月。ちょうど十年前の今ごろだった。

商品力向上へ全部署を集め、対応策を検討。わずか七カ月で本体の要求を上回るコストダウンを達成し、原価低減の一つのモデルを確立した。

その後は、トヨタ本社との直接取引も伸ばし、生産量を維持。当初は月産一万五千基ほどでスタートしたが、ピークの〇〇年には同三万基となり、三組二交代の勤務形態を約一年継続した。「それでも足りず、二万三千基を先行生産したことを覚えている。あの時は、A541が山のごとく出た」と、同社の寺島泰彦常務。

「北海道に任せれば、何とかなる」との評判はトヨタに伝わり、その後の新しい二種類のAT受注へとつながった。コンバーターに起因した独特の不具合に苦しんだこともあったが、それも技能・技術のベースとして蓄積された。最低でも五百－六百人に上るというA541製造に携わった従業員は現在、各工場に分散。現場の主力を担っている。

生産量は、最終的に月産千五百基にまで減少した。だが、最後も約四百万円の利益を出して、ラインは止まった。利益を出してのシャットダウンは、「トヨタで初めてだと思う」（寺島常務）。ラインの従業員は深夜の交代勤務がなくなり、ライン間移動や隔月生産を求められても、モチベーションを下げなかった。

他の変速機もいずれ世代交代を迎える。「利益を出して生産を終えることを一つの伝統にしたい」と寺島常務。売上高が一千億円を超え「大企業」と評されてからの従業員が増える中、A541生産の歴史を、後輩に伝承していきたい考えだ。

政治経済部・川山大輝

2006.3.25 苫小牧民報

A541オートマチックトランスミッション シャットダウン式

3月

モノづくり技術センター竣工

モノづくり技術センター竣工式

6月

第5工場着工

工事が始まったトヨタ自動車北海道の第5工場

苫小牧のトヨタ北海道

第5工場着工

【苫小牧】トヨタ自動車北海道（苫小牧、田中義克社長）が第五工場の建設に着手し、工事現場を二十八日、初めて公開した。二〇〇八年一月に本格稼働する予定で、自動車専門の鍛造部品製造工場としては、道内最大規模となる。

第五工場は鉄骨造り平屋建てで、総面積は約一万平方㍍。現在は重機などで基礎工事を進めており、年内の完成を目指す。総投資額は、約五十億円を見込んでいる。

稼働後は、新日本製鉄室蘭製鉄所（室蘭）などから仕入れた特殊鋼を熱してたたき、強度のある変速機のギア部品を造る。鍛造工程は自動化部分も多く、同工場の雇用数は約三十人になるという。

トヨタ北海道はこれまで、愛知県のトヨタグループ内の工場で製造した鍛造部品を苫小牧に海上輸送しており、第五工場の建設で、物流経費を大幅に削減できるとしている。

2006.6.29 北海道新聞

第5工場新築工事起工式

- 第1位 田中義克新社長就任（6月20日）
- 第2位 オートマチックトランスミッション（K310）ラインオフ式（9月1日）
- 第3位 当社製品搭載車「レクサスLS」「カローラ」「オーリス」発売
- 第4位 第5工場新築工事起工式（6月15日）
- 第5位 A541シャットダウン式（3月24日）
- 第6位 工場見学来場者10万人達成（7月6日）
- 第7位 海外支援本格始動

6月

田中義克社長就任

6月20日、定時株主総会および取締役会が開催され、社長の狩野耕さんが退任され、田中義克さんが社長に就任されました。

田中義克社長

トヨタ北海道

新社長に田中氏

狩野社長は系列会社へ

【苫小牧】トヨタ自動車北海道（苫小牧）は二十六日、狩野耕社長（五九）が退任し、後任にトヨタ自動車（愛知県豊田市）常務役員の田中義克氏（五四）を充てる人事を固めた。六月下旬に予定する株主総会後の取締役会で、正式決定する。狩野氏はトヨタ系列の自動変速機（AT）メーカー、アイシン・エイ・ダブリュ（同県安城市）の副社長に就任する見通しだ。

田中氏は現在、トヨタ北海道と同じATが主力のトヨタ自動車衣浦工場（同県碧南市）の工場長を務め、ATの現場に明るい。二〇〇四年六月から、トヨタ北海道の非常勤取締役も兼務している。

田中 義克氏（たなか・よしかつ） 名古屋大大学院工学研究科修了。1976年にトヨタ自動車工業（現トヨタ自動車）入社、2004年6月から常務役員。愛知県刈谷市出身。

2006.4.27 北海道新聞

7月6日

工場見学来場者10万人突破

工場見学者10万人突破

トヨタ北海道

千代川黎香さんに記念品贈呈

トヨタ自動車北海道（苫小牧市勇払、田中義克社長）の工場見学者が六日、一九九四年六月の受け入れ開始から累計十万人を突破した。

同社は自動車産業のイメージアップを目的に、工場見学を積極的に受け入れている。近年は小学校の見学旅行コースとして定着し、年間の見学者数は一万人に上る。専門スタッフがパンフレットやビデオで会社概要を説明、オートマチックトランスミッション（自動変速機）の製造現場などを案内している。

見学者の半数以上が小学生。カローラなど人気車種に搭載される自動車部品の生産工程を見学できるとあって、人気が高い。

この日は札幌市立幌南小五年の児童九十四人が「自動車づくりに励む人々」をテーマにした社会科の学習で来社。十万人目の入場者となった千代川黎香さん（一〇）に、佐々木健太郎同社取締役と女性社員から花束と記念品のトヨタFIチームの帽子が贈られた。

千代川さんは「大きくて立派な会社でびっくり。車づくりに関心があり、もっと勉強したい」と話していた。

10万人目の見学者となった児童に花束を贈呈＝6日午前

2006.7.6 苫小牧民報

7月6日、札幌市立幌南小学校の皆様をお迎えして累計10万人目のお客様を達成いたしました。工場見学は、1994年より開始しており、13年目での達成となりました。

9月1日

CVT（K310）ラインオフ

9月1日、第4工場にてK310ラインオフ式が執り行われました。式典にはトヨタ自動車（株）張富士夫会長をはじめとするご来賓をお招きして、工場関係者合わせ約150名が出席しました。

K310ラインオフ式

トヨタ自動車北海道の生産技術が結集された新型無段変速機

新変速機は苫小牧産

トヨタ自動車北海道

新型カローラに搭載

トヨタ自動車が十日発表した新型カローラには、トヨタ自動車北海道（苫小牧、田中義克社長）で生産される最新鋭の無段変速機（CVT）が搭載される。現行カローラに続き、主力商品の基幹部分の生産を担うことになり、今後の工場拡充にも弾みが付きそうだ。

K310と呼ばれる新型CVTは、第四工場内に設置された新ラインで九月上旬、生産を開始。十月十日、昼夜フル生産態勢に入った。排気量一・五㍑、同一・八㍑のFF車に搭載され、今後、発表される新型車にも採用される見通し。最大で月産二万台を目指す。

CVTは変速時のショックが少なく、乗り心地が改善されるほか、推進力を車輪に効率的に伝達できるのが特長。一方で高い生産技術が必要とされ、同社は、約百二十億円を設備投資するとともに、期間工から正社員への登用を進めるなど、生産体制を整えてきた。K310生産にかかわる従業員は約二百人。

鍛造部品生産を主体とする第五工場を建設中の同社では「当社の変速機は現行カローラにも採用されており、実績を積み重ねてきた。トヨタグループでの部品生産拠点として、やれる態勢をつくっていく」（総務課）と話している。（矢崎弘之）

2006.10.11 北海道新聞

12月

QCサークル全国大会にて第12機械課「ひまわり」サークルが石川馨賞受賞

12月

コージェネ起動

エネルギーの有効利用を目指して!!

コージェネとは正しくは、コージェネレーション（cogeneration）といい、co（一緒）とgeneration（発電する）の造語で、電力と熱を同時に作り出すシステム。燃料を燃やして、電力を作ります。さらに排熱を利用し蒸気を作り、エネルギーの有効活用を行います。

2007年

平成19年

4月23日

第5工場 冷間ロール ラインオフ

4月23日、第5工場にて冷間ロールラインオフ式が執り行われました。

式典は、関係会社からのご来賓8名をお招きして、当社関係者を合わせて約80名が出席しました。

5月

全社分煙化

従来より社内に喫煙所を設置し、分煙を行っていましたが、5月7日より、「禁煙の促進」とさらなる「受動喫煙防止」を目的に、全社の建物内が禁煙となりました。

それに伴い屋外に19ヶ所の喫煙所が設置されました。

423Kラインオフ式

5月21日

TMMWV向けオートマチックトランスミッション部品(423K)ラインオフ

海外支援プロジェクトとして準備を進めてきた、TMMWV向けのオートマチックトランスミッション部品が5月21日に生産開始されました。

6月1日

工場見学来場者11万人達成

札幌市立陵陽中学校の11万人目のお客様

- 第1位 第5工場冷間ロールラインオフ式（4月23日）
- 第2位 創業15周年、創立記念式典開催（9月6日）
- 第3位 健康増進法を遵守し屋外に喫煙所を設置〈全社建物内の禁煙〉（5月7日〜）
- 第4位 工場見学来場者11万人達成（6月1日）
- 第5位 当社製品搭載車「ヴァンガード」「マークXジオ」「カローラルミオン」発売
- 第6位 TMMWV向けオートマチックトランスミッション部品生産開始（5月21日）
- 第7位 献血運動推進全国大会でTMH表彰

9月1日

創業15周年 従業員3,000名体制

トヨタ自動車北海道 従業員3千人を突破

トヨタ自動車北海道（苫小牧市勇払、田中義克社長）の従業員数が五日までに、三千人の大台を突破した。

同社によると、九月一日現在の従業員数は三千二十三人。二〇〇四年四月時点では千八百六十二人で、その後第四、第五工場が稼働したことでおよそ三年半の間に千人以上が増加した計算だ。

十二月には一五〇〇cc―一八〇〇cc用の自動変速機（ＡＴ）増産を計画。カローラクラスに搭載する最も量産タイプのＡＴで、現行月産七万基の能力を十万基に引き上げる。これに対応して人員を増強中で、年末には三千三百人程度となる見通し。

同社は従業員の増加に伴い、準社員（期間従業員）から正社員の登用も推進。過去十年間に約九百人を正社員化し、全体の社員比率を高めている。

同社の従業員数は一九九二年の操業開始からほぼ右肩上がりで〇一年春、千五百人に到達。〇五年九月に二千人を超え、〇六年一月に二千五百人の大台に達していた。

2007.9.5 苫小牧民報

10月

創業15周年記念絵画展「エコール・ド・パリ 〜パリを愛した画家たち展〜」開催

創業15周年記念絵画展初日のテープカット

10月13日〜11月14日にかけて、苫小牧市博物館にて「エコール・ド・パリ〜パリを愛した画家たち展〜」が開催されました。社会活動の一環として当社創業15周年を記念し、トヨタ自動車（株）のご協力のもと開催されました。

会期中は道内各地から多数の方が訪れ、入場者数は延べ14,052名となりました。

12月4日

工場見学来場者12万人達成

11月

トランスファー生産累計500万台達成

11月29日、トランスファー生産累計500万台達成記念式典が開催され、生産部門関係者が出席しました。1994年の生産開始から14年での達成となりました。

トランスファー生産
累計500万台達成記念式典

2008年 平成20年

3月17日

第5工場コンパクトホットフォーマーラインオフ

3月17日、第5工場にて、コンパクトホットフォーマーラインオフ式が執り行われました。これにより、2007年4月にラインオフした冷間ロールと工程がつながり、鍛造部品の一貫生産体制が整いました。

鍛造部品、一貫生産開始

トヨタ北海道 ホットフォーマー稼働

変速機メーカーのトヨタ自動車北海道（苫小牧市勇払、田中義克社長）は十七日、第五工場で熱間鍛造用の成形装置「コンパクトホットフォーマー」を本格稼働させ、鍛造部品の一貫生産を始めた。当面は自社向けだが、グループ工場向けの供給も計画している。

第五工場では昨年四月、鋼材を常温で成型する「冷間ロール」と呼ばれる下工程を先行稼働。グループ工場から供給を受けたドーナツ状の粗形材をたたいて延ばした、リングなどを造ってきた。

その後、関連工程を徐々に立ち上げ、十七日から主力のコンパクトホットフォーマーを本格稼働。同装置で粗地を造った上、冷間ロールで成形し機械加工しやすいように熱処理した鍛造部品を第一工場や第四工場で変速機本体に組み付ける。

二月下旬には、原料の特殊鋼を規定の寸法に切った粗材を納入する三五北海道(苫小牧市真砂町)が量産を開始していた。

鍛造部品は当初、自動変速機（AT）、無段変速機（CVT）用の二種類で、計月十数万個を生産する。一五〇〇―一八〇〇ccの小型車用AT向けがメーンで順次、品番、生産量を拡大していく。夏以降は自社分のほか、本州のトヨタグループ向けの供給も始めるとみられる。

フル生産に入る二〇〇九年初めには、月百七十万個体制となる。新日鉄からの特殊鋼調達量は月千トンを超える見込み。

冷間ロール稼働後は、素材を新日本製鉄室蘭製鉄所からいったん、愛知県のグループ工場に送り、半製品に加工した上で海路自社まで運び込むなどして鍛造部品に仕上げてきた。今後は新日鉄室蘭の鋼材を三五北海道で一次加工してもらった上、内製。輸送経費削減を促す。

2008.3.17 苫小牧民報

第5工場コンパクトホットフォーマーラインオフ式

5月12日

オートマチックトランスミッション（U340）3次ライン ラインオフ

5月12日、U340 3次ラインが第4工場にて稼働開始し、ラインオフ式が執り行われました。

U340オートマチックトランスミッション 3次ライン ラインオフ式

5月13日

第1回TMHサプライヤーズアワード

5月13日、当社では初の試みとなる「TMHサプライヤーズアワード」が開催されました。

部品品質賞、品質改善賞、新規切替賞の3つの部門において、2007年度最も優秀な業績をおさめられた取引先9社に対し、田中社長より感謝を込めて表彰状をお渡ししました。

品質改善賞ゴールドの（株）ダイナックス殿

- 第1位 U3403次ライン ラインオフ式（5月12日）
- 第2位 第5工場竣工記念式典開催（6月12日）
- 第3位 工場見学来場者13万人達成（8月27日）
- 第4位 20周年に向けてのスローガン「夢と笑顔のTMH 未来に向けてチャレンジ20!!」に決定（9月）
- 第5位 当社製品搭載車「アルファード」「ヴェルファイア」発売
- 第6位 第5工場コンパクトホットフォーマーラインオフ式（3月17日）
- 第7位 QCサークル苫小牧大会で苫小牧市長賞受賞、室蘭大会で最優秀賞受賞（7月17日、10月10日）

6月12日

第5工場竣工記念式典開催

6月12日、第5工場竣工記念式典が執り行われました。

ご来賓として、経済産業省北海道経済産業局 深野局長、北海道 高橋知事、苫小牧 岩倉市長、苫小牧商工会議所 藤田会頭をはじめとする行政・経済団体の皆様、トヨタ自動車（株）から葉山常務役員、関連部署の方々にご出席を頂きました。

道内製造業をけん引

高い技術発展の基礎に

トヨタの鍛造拠点に

第5工場本格稼働

「愛知向け」年内にも CVTの増産に意欲

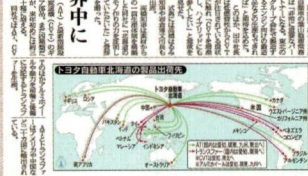
生産部品 世界中に

2008.6.13 北海道新聞

トヨタ北海道 第5工場竣工

高橋知事ら招き記念式典

高橋道知事らが出席した第5工場竣工記念式典＝12日午前10時すぎ

2008.6.12 苫小牧民報

7月

安全・技能道場開所

7月14日に安全・技能道場の開所式が行われました。

約70名が参加し、今後の適切な運営とその成果を祈願し、全社における安全への意識を高めました。

第1工場内に設置された安全・技能道場

8月27日

工場見学来場者13万人達成

9月

20周年に向けたスローガン「夢と笑顔のTMH　未来に向けてチャレンジ20!!」が決定

10月

第1回植樹祭開催

10月19日、「第1回植樹祭」が実施されました。

この植樹祭は、創業20周年（2012年度）を迎えるにあたり、中長期緑化計画「グリーンファクトリープラン」の一環として計画され、従業員と家族約300名で1,600本の苗木を植樹しました。

20周年に向けて中長期緑化計画始動

12月5日

工場見学来場者14万人達成

2009年 平成21年

3月

体質強化活動

リーマンショックの影響による急激な生産変動に伴い、稼働調整を実施。

この間、当社では「体質強化活動」と称し、体質強化要員を配置し社内のさまざまなカイゼンを行いました。

この活動は、①技能向上（＝現場力の強化）、②収益改善を目的とし、今一度しっかりと足元を固めるべく、実施しました。

改善報告の様子

教育の様子

清掃の様子

8月

「発見!!体験!! 夏休みトヨタ北海道 冒険エコツアー」開催

苫小牧市内の小学4～6年生34名が参加。イベントでは当社の環境施設を見学し、雪冷房用に保管していた雪で作った滑り台も体験し、トヨタの森での記念植樹を行いました。

- 第1位 当社製U660搭載車「レクサス RX350」発売（1月19日）
- 第2位 工場見学来場者15万人達成（9月25日）
- 第3位 田中雅樹さん（M241）コンビニ強盗逮捕に協力（5月18日）
- 第4位 TMC張富士夫会長ご来社（9月14日）
- 第5位 さわやか臨海エキデン ランナーズクラブ7連覇（10月25日）
- 第6位 QCサークル札幌大会で最優秀賞&札幌市長賞（コンプリートH313）、優良賞（ニコニコP222）受賞（1月23日）
- 第7位 QCサークル室蘭大会で最優秀賞（トップガンH321、一攫千金P121）・銀賞（ユリアM251）受賞（7月10日）

9月25日

工場見学来場者15万人突破

9月25日、苫小牧市立ウトナイ小学校の皆様で工場見学来場者が15万人目を達成しました。

はすかっぷホールでセレモニーを行い、花束と記念品が贈呈されました。

工場見学15万人目の苫小牧市立ウトナイ小学校の皆さん

2010年 平成22年

6月28日

工場見学来場者16万人達成

工場見学16万人目の
札幌市立発寒西小学校の皆さん

7月23日

アルミホイール生産終了

7月23日、アルミホイールの生産が終了し、第2工場にてトヨタ自動車（株）ユニット部品調達部の鈴木室長をはじめ、関係者の方々の出席を頂き、生産終了式典が開催されました。

アルミホイールは当社の最初の製品で、ピーク時には約400名が生産に従事していました。

式典の出席者約150名で、当社を支え続けた製品に感謝し、別れを惜しみました。

アルミホイール生産終了式典

- 第1位 アルミホイール生産終了式典を開催 ~当社最初の製品が18年の生産の歴史に幕（7月23日）
- 第2位 当社のデイ・ライト運動に苫小牧警察署長より感謝状を授与（2月17日）
- 第3位 工場見学来場者16万人を達成（6月28日）
- 第4位 田中義克社長が北海道機械工業会会長に就任（5月26日）
- 第5位 雪冷房システム稼働開始（7月5日）
- 第6位 QCサークル苫小牧大会にて「武田塾」が北海道支部金賞&北海道知事賞受賞（6月29日）
- 第7位 新役員体制（6月11日）

11月

全日本選抜QCサークル大会にて品質課「武田塾」サークルが金賞受賞

11月9日、「第40回記念　全日本選抜QCサークル大会」が東京・日比谷公会堂にて開催され、北海道代表として当社の「武田塾」が参加しました。

1,000名を超える参加者の中、全国9支部から推薦された18サークルが日頃の成果を発表し、審査の結果、「武田塾」は見事「QCサークル本部長賞 金賞」を受賞しました。

当社のQCサークルが全国大会へ出場するのは4回目、金賞受賞は初の快挙。

北海道代表としても、1986年以来、2度目の金賞受賞となりました。

武田塾の皆さん

12月

QCサークル全国大会にて品質課「コンプリート」サークルが石川馨賞受賞

「コンプリート」サークルの皆さん

12月9日・10日に沖縄県宜野湾市にて、QCサークル全国大会が開催され、品質課H313「コンプリート」サークルが2010年度下期「石川馨賞」を受賞しました。

模範的で特色のある活動を行っているQCサークルとして評価され、受賞となりました。

2011年 平成23年

2月17日

ユニット（トランスファー、オートマチックトランスミッション、CVT）生産累計2,000万台達成

3月

東日本大震災（3月11日発生）による被災地への物資支援活動を開始

支援物資の仕分け・積込作業

TMC対策本部の要請に基づき、「トヨタ東北」「関自岩手」「セントラル宮城」へ発送。水、食料品、日用品、ストーブ、小型発電機、軽油などが支援されました。

- 第1位 ユニット生産累計2,000万台達成～オートマチックトランスミッション、CVT、トランスファーの生産累計（2月17日）
- 第2位 工場見学来場者17万人達成（7月6日）
- 第3位 TMC主催「お礼の会」にて、東日本大震災への当社の復旧支援に対し感謝状拝受（7月9日）
- 第4位 全社防災訓練を実施（10月11～13日）
- 第5位 さわやか臨海エキデン同好会ランナーズクラブが9連覇（10月23日）
- 第6位 創立記念式典を開催（9月19日）
- 第7位 雪冷房システム稼働開始（6月17日）

4月

第1回新規Projectアイデアコンクール

4月5日、技術開発委員会にて「新規Projectアイデアコンクール」の表彰式が行われました。社内27名から66件の応募があり、最終的に6名の方が受賞しました。

受賞者の皆さん

自動車関連

賞	テーマ	受賞者
最優秀賞	後付e-4WDユニットの製造	渡辺裕文さん
優良賞	ものづくり改善業務の外販化	滝口智博さん
	EV用ギヤボックス製作	榎本一成さん

自動車関連以外

賞	テーマ	受賞者
最優秀賞	介護用品開発、製造、販売	秀　正幹さん
優良賞	天候や時期に左右されない安定供給出来る野菜工場	重富　哲さん
	花卉栽培と安全な農業（資材生産、販売）	古明地康男さん

7月6日

工場見学来場者17万人達成

7月6日、札幌市立川北小学校の皆様で工場見学来場者が17万人目を達成しました。はすかっぷホールでセレモニーを行い、花束と記念品が贈呈されました。

工場見学17万人目の札幌市立川北小学校の生徒さん

2012年 平成24年

2月23日

オートマチックトランスミッション（U340）生産累計1,000万台達成

2月23日、第1工場にて、オートマチックトランスミッション（U340）の生産累計1,000万台達成を記念した式典が開催されました。

1999年7月のラインオフから13年目で、記念すべき生産累計1,000万台を達成することができました。

オートマチックトランスミッション（U340）の生産累計が1,000万台を達成

7月14日

創業20周年記念絵画展「光から夢をたどって ～印象派からエコール・ド・パリまで～」開催

初日風景

9月

創業20周年「感謝の会」

9月4日、当社創業20周年を記念し、日頃よりお世話になっている地域、取引先および関係先の皆様へ感謝とお礼の気持ちをお伝えすることを目的に、創業20周年「感謝の会」が執り行われました。

トヨタ自動車北海道株式会社

職 場 紹 介

TMH place-of-work introduction

監査室・管理部門

総務部

監査室

■スタッフ:2人

米国企業改革法404条に基づく内部統制の評価および内部監査を通じて、社内の実態を見える化し、法遵守はもとより、会社財産の保全や経営効率の向上に寄与し、会社の一層の健全化を推進しています。

QC推進室

■スタッフ:5人

トヨタのDNAの一つである「カイゼン」力を向上させ、活力ある職場をつくるため、QCサークル活動を通して「個人の成長」そして「働く楽しさ」を実感できるように、各職場と連携して活動方策・企画運営を推進しています。

総務課

■スタッフ:19人

総務課は式典をはじめ、さまざまな場面で多人数での対応が必要となるため、常に協力体制をつくり、サポートしながら業務を遂行しています。今後もコミュニケーションとチームワークを大切にしていきます。

人事課

■スタッフ:26人

私たち人事課の役割は、大きく分けると人事制度企画、労務管理、給与・社会保険・福利厚生などの管理運営です。従業員が毎日生き生きと業務を行えるよう、26名のメンバーで取り組んでいます。

人材開発課

■スタッフ:11人

急激な生産拡大に伴い人材育成が急務となり、トヨタウェイを踏まえた研修カリキュラムを整備するために、TMCからの協力や経験豊富な課長・工長と育成のあり方について度重なる熱い議論を実施しながら構築しています。

安全健康推進課

■スタッフ:17人

私たち安全健康推進課は、全社の安全文化・風土の定着に向けた安全活動と従業員の心身の健康づくり支援を行っています。皆さんが安全で安心、そして健康で元気に働ける職場となるように取り組んでいきたいと思います。

職場紹介

管理部門

経営管理部　フロンティーワーク

経理課

■スタッフ:20人

正しい経営判断に必要な会社の現状に関する情報を、客観的な数値で、わかりやすく、タイムリーに提供するとともに、競争力世界No.1に向けた、原価・費用・資産管理を推進しています。

調達課

■スタッフ:6人

調達課は、各部署からの発注案件に対し、「発注先」と「価格」を決定しています。「良い物をより安く」をキーワードに、メンバーは少数ですが知恵と力を合わせ、社内外の窓口としてTMHを支えています!

生産管理課

■スタッフ:17人

生産管理課の役割は、社内外の関係部署と綿密に連携をとり、TPSに基づく効率的で意思のある生産計画を立案・実践することです。TMH生産活動の信頼される「羅針盤」でありたいと考えています。

経営企画課

■スタッフ:10人

当課4Sルールをご紹介。週末点検にて4S違反イエローカードが2枚たまると「全員に焼肉をおごる」または「樽前山登山」です。これは守るでしょうと思いきや、刑の執行過去1名、執行待ち3名。懲りない面々……。

経営企画課

資材管理係　E411G

■スタッフ:16人

私たち資材管理グループ(H6倉庫)は、資材の発注から受入、検収、在庫の維持管理や、リサイクル品(売却品)の管理、産業車両の保守、管理を行っており、TMHの礎(いしずえ)を担う職場として、日々頑張っています。

フロンティーワーク

■スタッフ:43人

①社外流出費用の削減(製缶作業およびリビルト品溶湯など)②付加価値の高い業務(産機メンテナンス・洗浄機更液)③グリーンファクトリープランによる緑化管理④廃棄物の収集・管理・業者引渡し業務

品質・技術部門

技術開発室　品質管理部

技術開発室

■スタッフ:13人

TMHの発展への貢献を理念とし、技術員教育やルールの策定を行うグループや号口展開を視野に入れ競合他社を凌駕する生産技術開発を行うグループと次世代環境車駆動部品を研究開発するグループで構成されています。

品質監査室

■スタッフ:5人

品質監査室は特殊工程やQA自主点検など、対トヨタ窓口として統括業務を行い、品質や品質管理体制に関する問題点を提起し改善活動に取り組んでいます。他には重要品質問題、品質ヒヤリ、品質の日、品質月間の事務局です。

品質技術課

■スタッフ:34人

TMHで生産するすべての製品の品質保証・品質管理体制の整備・統括を担当しています。具体的には、「新製品の品質保証計画の企画・推進」、「号口製品の品質管理の企画・推進」、「お客様工程（仕入れ先）対応」などです。

品質課 H201G

■スタッフ:18人

品質課の諸活動が、つつがなく進められるようにサポートすることで品質課の体質強化につなげています。

職場紹介

品質・技術部門

品質管理部

常に平常心
常に前進
品質課
工長 羽田 治

品質課

第1品質係 H211G

■スタッフ:27人
第1工場の第1測定室でU340、V/Fの品質管理を担当しており、部品精度測定やASSY評価などを実施しています。平均年齢33歳と若い?グループで、メンバー一丸となって「世界No.1品質」を目指して頑張っています。

品質課

第1品質係 H212G

■スタッフ:26人
私たちのグループは、主に第4工場で生産されているA/T U660・K310の品質管理を行っています。他部署と連携を取り、世界No.1品質を目指して日々業務に取り組んでいます。

品質課

第1品質係 H213G

■スタッフ:16人
私たちの職場では、お客様から返却されたASSYや部品の調査・解析とASSY再生作業を行っています。関係部署と連携を取りながら、お客様と製造部に情報をフィードバックしています。何でも話せる楽しい職場です。

品質課

第2品質係 H221G

■スタッフ:26人
品質課H221Gは、第1工場製ユニット・部品の検査Gを担当しています。測定の匠を目指し、メンバーで作成した教育資料で勉強会を開いたり、社外検定にチャレンジしています。

力を合わせれば
強くなる
品質課
工長 上島 博

品質課

第2品質係 H222G

■スタッフ:25人
より確かな自工程完結を目指し、世界No.1を達成します。

品質課

第2品質係
H223G

■スタッフ:14人
我々の職場では、市場回収品の調査・解析とリビルトASSYの再生作業を行っています。関連部署との連携を密にし、解明率向上に向け日々頑張っています。チームワークを大切にし、明るく活気のある職場です。

品質・技術部門

品質管理部

明るく・仲良く・元気よく
品質課
工長 武田 裕之

品質課

第3品質係 H231G

■スタッフ:19人
TMHダイキャスト・プレス・鍛造品の定期測定・不具合対応・工程監査を中心に、毎日明るく元気に、メンバー全員で頑張っています。後工程不具合ゼロを目指し、今日も1日ゼロ災で行こう!! ヨシ!!

品質課

第3品質係 H232G

■スタッフ:16人
第3工場で作られている、アルミダイキャスト、プレス品、第5工場の鍛造品の品質管理を一手に引き受け、突発対応に走り回っており、現地現物をモットーに、足と口で仕事を行っています。

品質課

第4品質係 H241G

■スタッフ:25人
H241Gは品質を保証するゲージ、計測設備、テスターの維持管理をしているグループです。品質を保証するため、昼夜に分かれ、定期検査や突発修理を小集団にて対応しています。今後も品質保証のため頑張ります。

品質課

第4品質係 H242G

■スタッフ:16人
H242Gを漢字一文字で表現すると「心」です。心とは人の知識・感情・意思などの元になっているものであり、個性豊かなメンバーでも、常に仲間意識は強く、やる時は「やる」といったメリハリのある行動は「心」が通えている証です。

品質課

第4品質係 H243G

■スタッフ:16人
H243Gを漢字一文字で表現すると「匠」です。刃物を研ぐ職場であり、いまだにカンコツセンスが必要な仕事であることと、一人前といわれることに誇りを持てる職場であるため!

品質・技術部門

駆動ユニット技術課

■スタッフ：56人

当課を漢字一文字で表現すると「忙」です。P510と600Kの新プロジェクトの立ち上げに、うれしい悲鳴を上げています。多忙な業務の中でも「心を亡くする（忙）」ことなくお客様（後工程）に応えていきたいと全員が努力しています。

ダイキャスト技術課

■スタッフ：21人

当課は、ダイキャスト部品の生産準備、製造支援を行う部署です。製品SE～号口維持まで、金型・品質・設備と幅広い技術分野を担当しています。スポーツや飲み会も盛んで、皆仲良く楽しくやっています！

鍛圧技術課

■スタッフ：17人

当課はプレス・鍛造・熱処理・高周波を担当し、関係工場は第1～5工場と唯一全工場にまたがっているマルチな課です。各SHOP別では専門分野に磨きを掛け、トヨタグループの先頭に立つべく日々精進する勇士集団です。

環境技術課

■スタッフ：8人

環境保全の推進、事務局としてISO14001活動の企画・維持・改善、原動力施設（排水処理、建築土木構築物を含む）の新設維持改善や施工管理など、全社を対象として、縁の下の力持ち的役割を担っています。

職場紹介

生産部門

安全・技能道場　TPS推進室

対話と融和
生産部門
主査 木通 文隆

TOMORROW NEVER KNOWS
生産部門
理事 田中 治秀

おらが道
安全・技能道場
道場長 菅原 隆

TPS推進室

■スタッフ:6人
信条、足で稼ぐ!　モットー、現地現物!　決まり事、1日1ジョーク以上言う!(寒くても我慢)

あいさつ&現場主義
TPS推進室 物流課
課長 杉上 正樹

人事尽くして、天命待つ
TPS推進室 物流課
副課長 鶴見 進

物流課

第1作業係　N101G

■スタッフ:7人
私たちのグループはP510ラインの物流関連の立ち上げを主な担当としています。7人と少数のグループですが、スムーズな立ち上げを目標に頑張っています。

黒でも白でも鼠を捕るのが良い猫だ
物流課
工長 原田 浩司

物流課

第1作業係　N111G

■スタッフ:28人
私たちN111Gは、第1工場ではV/Fラインに外注、内製部品を供給し完成したASSYを引き取り、出荷しています。第5工場では、社外へ送る出荷品の回収、第1・4工場で使用する内製品の回収を日々、行っています。

物流課

第1作業係　N112G

■スタッフ:49人
我々の職場は作業開始と同時に全員が工場全域にバラバラに散ってしまいます。だからこそ全員が集まる朝の体操やミーティングの時間は「真剣に真面目に、かつ明るく元気に取り組む」を信条に毎日の業務に励んでいます。

生産部門

TPS推進室

物流課
第2作業係 N121G

■スタッフ:28人
N121Gを漢字一文字で表現すると「流」です。物と情報を的確に流すのが自分たちの仕事だから。

物流課
第2作業係 N122G

■スタッフ:49人
N122Gを漢字一文字で表現すると「流」です。自職場を表す言葉はこれ以外に無いから。

物流課
第2作業係 N123G

■スタッフ:45人
U340のオーダー受信、出荷。外注部品の発注・受け入れ・在庫管理。粗形材工場間運搬。U340の完成品引き取り。そして多くのモノと情報を運んでいます。

物流課
第3作業係 N131G

■スタッフ:11人
私たちの職場は各工程に部品を運搬し、完成した製品を、日本をはじめ海外の車両工場に出荷する仕事をしています。私たちの職場なくしてTMHは成り立たないとの誇りも高く、TMH発展のため、明るく仲良く頑張っていきます。

物流課
第3作業係 N132G

■スタッフ:10人
N132Gを漢字一文字で表現すると「和」です。少人数のグループでコミュニケーションも取れており、明るい職場です。職場のあるべき姿、目標相互啓発型に向けてステップUPし、活気ある職場を目指します。

物流課
物流センター係 N140G

■スタッフ:3人
私たちN140Gは、U660・K310に使用する外注部品の在庫管理と600Kの生準を担当しています。在籍人数が3人と少なく大変な反面、コミュニケーションが取りやすく仲の良い職場です。

職場紹介

生産部門

生産保全支援室

為せば成る
生産保全支援室
室長 安達 貴志

Do my best!
生産保全支援室
主査 大谷 直道

日々創造&努力
生産保全支援室
主幹 下山 正悦

心をみがいて
徳をつむ
生産保全支援室
技監 杉浦 道義

生産保全支援室

造機係 L011G

■スタッフ:15人
　当職場は全工場を一手に担っている機械加工グループです。座右の銘は「あわてず、あせらず、むりをせず」です。全員が心を一つに安全作業で災害のない職場を継続していきます。

日々是 楽・笑・快
生産保全支援室
工長 平岡 和也

生産保全支援室

造機係 L012G

■スタッフ:22人
　L012Gは、設備製作・改善を主に行っています。また、からくり機構を用いた省スペース、省エネに軸を置いた独自のモノづくりをこれからも行っていきます。

設備技術課

■スタッフ:12人
　私たち設備技術課は、2011年に発足した比較的新しい部署です。設備故障の未然・再発防止と突発対応および維持管理に努めています。設備の状態を敏感に察知して、柔軟に対応できるよう目を光らせていきます。

職場紹介

生産部門

生産保全支援室

謙虚が大切
第1設備課
課長 椎野 久志

第1設備課
L201G

■スタッフ:6人
「製造課との話し合いで、働きやすい職場づくり」「食堂献立表の内容確認と事前選定作業」が日課です。

心の
バリケードをとく
第1設備課
工長 栗永 博志

第1設備課
第1作業係 L211G

■スタッフ:31人
L211Gを漢字一文字で表現すると「礎」です。20年前3名からスタートした油脂グループです。今では31名になり、10倍以上もの人が増えました。安全・環境・人財などいろいろ取り組み、ようやくグループとして強固な基礎が完成し、明るい未来が見えてきたからです。

第1設備課
第1作業係 L212G

■スタッフ:6人
新ユニットの立ち上げや生産拡大に伴う保全人員不足や保全技能レベルの低下など、保全マンのさらなる育成が必要であり、その一助を担っているのが教育グループです。専門技能教育やPM教育で、人材育成に頑張っています。

職場紹介

生産部門

生産保全支援室

常に勇猛果敢に攻める!
第1設備課
工長 山田 利忠

第1設備課

第2作業係 L221G

■スタッフ:15人

L221Gを漢字一文字で表現すると「楽」です。いつどんな時でも職場の仲間と楽しく元気でいるからです。

第1設備課

第2作業係 L222G

■スタッフ:16人

L222Gを漢字一文字で表現すると「技」です。幅広い専門知識・技能が必要で、作業経験が物を言う技能職場です。日々、設備故障低減に向け、一致団結し取り組んでいます。今後はさらなる技能レベル向上と伝承に力を入れ頑張っていきます!

第1設備課

第2作業係 L223G

■スタッフ:17人

私たちは機械のお医者さん。人は病気になるとお医者さんに診てもらいますが、機械は私たち保全マンが診断し、直します。また、その状況に合った対処をし、延命できるよう対策を進めるのが私たち保全の仕事です。

HOKKAIDO
職場紹介

生産部門

生産保全支援室

何事も考えてから行動を!
第1設備課
工長 宝田 英司

第1設備課

第3作業係 L231G

■スタッフ:8人
今年の冬、丸駒温泉における親睦会での忘れられない出来事がありました。宴会が始まり、いきなり3名がパンツ一つで外に駆け出し、正拳突きを100回始めました。終わったと思ったらバリカンを持ち出し断髪式。露天風呂ではパンツ盗難騒動も発生。

第1設備課

第3作業係 L232G

■スタッフ:7人
常に問題意識を持って保全業務に当たり、山積みした問題を一つ一つ解決することにより、安定した生産活動に寄与できるように全員で頑張っています。

第1設備課

第3作業係 L233G

■スタッフ:8人
久しぶりに元気な新入社員が入ってきました。挨拶もしないような奴らが今では大きな声であいさつをするグループになりました。とっても良い刺激を受けています。

第1設備課

第3作業係 L234G

■スタッフ:23人
私たちのグループは設備を故障させないため、定期的に保守点検を実施し、生産活動がスムーズに行えるよう、日々活動しています。今後もグループ全員で協力し、定期保全&改善活動に取り組んでいきます。

職場紹介

生産部門

生産保全支援室

打てば必ず響く!
第2設備課
課長 八重樫 明男

第2設備課 L301G

■スタッフ:5人
L301Gを漢字一文字で表現すると「協」です。私たち省エネ営繕グループは、今年4月から5人で立ち上がったグループです。経歴も皆さまざまで得意分野も個性的です。皆力を結集し、今年は協調発信します。

人生ハッピーに楽しく
第2設備課
工長 高下 秀昭

第2設備課
第1作業係 L311G

■スタッフ:7人
私たちの職場は、社内外の皆様すべてが「お客様」との思いで「丁寧、親切に」をモットーとして、業務に当たるよう心掛けています。これからも信頼される職場であり続けるため全員結束して取り組んでいきます!

第2設備課
第1作業係 L312G

■スタッフ:8人
L312Gを漢字一文字で表現すると「和」です。業務内容が多岐にわたっているため、メンバーそれぞれの強み、弱みがありますが、お互いにそれを補って強い所はさらに強く、弱い所は克服して全員の総力で業務を遂行しています。

第2設備課
第1作業係 L313G

■スタッフ:6人
電気・エアー・蒸気など、エネルギーを安定供給するために原動力設備の運転保守管理をしっかり行っています。また、工場排水をキレイにして海へ戻すなど環境面でも重要な役割を担っています。

第2設備課
第2作業係 L321G

■スタッフ:10人
私たちは第3工場を担当している設備保全です。私たちの業務内容は日々のライン稼働を円滑に行うため、設備の突発対応、予防保全、再発防止活動を小松リーダーを中心にグループ員全員で取り組んでいます。

第2設備課
第2作業係 L322G

■スタッフ:11人
L322Gの座右の銘は「注目浴びぬようコツコツと目立たぬ時こそ成果なり」です。

第2設備課
第2作業係 L323G

■スタッフ:11人
設備保全業務を担当しています。我がチームはファイトある大橋リーダー(代)を中心にやる気、活気あるメンバー全員で円滑な生産体制を築き上げるため、設備予防保全と徹底した再発防止に取り組み、突発修理ゼロに向け日夜業務を遂行しています。

職場紹介

生産部門

生産保全支援室

第2設備課

第3作業係 L331G

■スタッフ:6人

L331Gを漢字一文字で表現すると「進」です。出来て間もないグループであり、また創業20周年の年でもあることから、メンバー全員が一丸となり、新たな気持ちで会社と共に安全第一で日々前進していきたいという気持ちから「進」としました。

第2設備課

第3作業係 L333G

■スタッフ:6人

L333Gを漢字一文字で表現すると「和」です。このグループは出来て日も浅いですが、お互いに助け合いチームワークが取れており、和気あいあい和むチームでもあることから「和」としました。今後25周年に向け、全員が一丸となり力を合わせて頑張ります。

第2設備課

第3作業係 L332G

■スタッフ:6人

私たちはプレス鍛造の設備業務を担当しており、鍛造設備に不慣れなこともあり、日々満身創痍でグループスローガンの通り全力で取り組んでいます。

第2設備課

第3作業係 L337G

■スタッフ:10人

私たちの職場は、第3工場ダイキャストM/Cの定期点検、整備など予防保全活動をしています。この職場が出来てまだ1年8ヶ月程で経験が浅いですが、皆が力を合わせて故障率低減、稼働力向上に向けて頑張っています。

第2設備課

第3作業係 L338G

■スタッフ:10人

第3工場ダイキャストM/Cを中心に3組2交替勤務で定期点検、整備をしています。また、点検時に発見した不具合の対応を行い、信頼性の高いダイキャストM/Cを目指し日々取り組んでいます。

第2設備課

第3作業係 L339G

■スタッフ:10人

L339Gを漢字一文字で表現すると「笑」です。私たちの職場はチームワークが良く、笑顔が絶えない職場です。これからも持ち前のチームワークを生かし、問題解決に取り組んでいきます。

職場紹介

生産部門

部門付　第1駆動ユニット製造部

幸せは、総合力だ
第1駆動ユニット製造部
部長 篠原 佳二

有言実行で
前進する
第1駆動ユニット製造部
次長 森井 末治

体力、気力、努力
第1駆動ユニット製造部
PP 佐藤 斎

特命G

■スタッフ:7人

私たちを漢字一文字で表現すると「特」です。自職場は①教育グループ、②A541の補給品とリビルト品の出荷および T/Aケースの製作、③グリーンフレームなどの依頼品の製作と特殊な作業を行っているため。

第11製造課

第1作業係 **P111G**

■スタッフ:26人

私たちのグループは明るく、楽しく、元気よくをモットーに安全、品質を第一に考え、何か問題があれば皆で考え改善する、というグループの信念に沿って26人全員で今後も頑張っていきます。

第11製造課 P101G

■スタッフ:2人

私たちV/F生準グループはトランスファーにおける多種少量品の生産を省スペースで行えるV/F＋(Plus)ラインの立上げを担当しており、昨年ホイストレス化も成功し、これからも日々創意と工夫を凝らし進めていきます。

力強く前進
そして改善
第11製造課
課長 野田 吉夫

胆大心小、
深謀遠慮
第11製造課
工長 中川 佳希

第11製造課

第1作業係 **P112G**

■スタッフ:21人

私たちP112GはトランスファーASSYの組付業務を行っており、主に海外向けのASSYを生産しています。

第11製造課

第1作業係 **P113G**

■スタッフ:26人

第11製造課はT/F生産を19年間作り続け、トヨタ自動車北海道を根っこから支えてきました。これからも正直に、そして愚直に良い品を作り、会社を支えていくことが私たちの使命です!

第11製造課

第1作業係 **P114G**

■スタッフ:25人

第1工場の玄関口として、いつもキレイで、見やすいラインづくりを信条として、清掃活動や改善を行い、見て安心感のある玄関口として活動しています。

職場紹介

生産部門

第1駆動ユニット製造部

「正直」が第一!!
第11製造課
工長 矢野喜久夫

第11製造課

第2作業係 P121G

■スタッフ:25人
昨年まで「もう少しガンバレ」とだましだまし使い続けてきたサブライン、無くなってしまうと頼れる相棒がいなくなったような気がします・・・。

第11製造課

第2作業係 P123G

■スタッフ:27人
P123Gを漢字一文字で表現すると「安」です。コミュニケーションがよく取れているので新人も安心!仕事の面でも仲間や上司に相談すれば大丈夫だという安心感がグループ全体にあります。

第11製造課

第2作業係 P122G

■スタッフ:20人
P122Gメンバーの皆さんは20周年の新鮮な気持ちを忘れることなく、次の30周年のミレニアムを目指し頑張ってください。いつまでも応援しています。

第11製造課

第2作業係 P124G

■スタッフ:25人
第11製造課にてV/F2次ラインの組付を担当しているメンバーです。主にプラドなどのトランスファーを製造しています。日々お客様に良い製品を安く提供できるように努力し頑張っています。

生産部門

第1駆動ユニット製造部

第12製造課
第1作業係 P211G

■スタッフ:26人
何事にも一致団結し、チーム力のあるグループです。2年前に組合のソフトボール大会で優勝した時に皆で食べた「高級焼肉」。勝利の味が忘れられません！今年はどうかな…？

第12製造課
第1作業係 P212G

■スタッフ:22人
U340の1次ライン生加工を22名のメンバーで、安全・品質を第一に考え、良い製品をメンバー全員で生産に取り組んでいます。また、コミュニケーションも取れ、明るく、仲が良く、全員がユニークで毎日が楽しく過ごせる職場です。

第12製造課
第1作業係 P216G

■スタッフ:17人
P216Gを漢字一文字で表現すると「炎」です。一人一人の仕事に対する熱意が強く、燃えている職場だからです。

第12製造課
第2作業係 P221G

■スタッフ:26人
私たちのグループはU340の1次ラインで研磨加工を担当しています。

第12製造課
第2作業係 P222G

■スタッフ:22人
我々の職場はU340の内蔵物を担当しています。安全品質の確保はもとより、日々設備異常と格闘しています。グループ内でのコミュニケーションは最高！その中で各個人がレベルアップを目指し努力している頑張り屋の職場です。

第12製造課
第2作業係 P226G

■スタッフ:17人
私たちの職場は、U340 T/Cの粗材加工（プレス、溶接等）から、組付作業を行い、T/C ASSYを5ラインで7車種生産している職場です。

生産部門

第1駆動ユニット製造部

第12製造課

第3作業係 P231G

■スタッフ:38人
　私たちはU340の組付をしています。4月から新体制になり、新メンバーを含めた全員で力を合わせて安全でコミュニケーションの良い職場を目指して頑張ります。

働かざるもの
食うべからず
第12製造課
工長 高山 誠一

第12製造課

第3作業係 P232G

■スタッフ:52人
　"やる時はやる"、"遊ぶ時は遊ぶ"をモットーにメリハリのあるグループです。

第12製造課

第4作業係 P241G

■スタッフ:41人
　P241Gを漢字一文字で表現すると「新」です。勤務形態の変更に伴い、4月に新生グループになったばかりで、まだまだ個々の色を発揮できていない状況ですが、これからみんな仲良くをモットーにチーム一丸で頑張っていきます。

第12製造課

第4作業係 P242G

■スタッフ:51人
　立ち上げから人の出入りが多く、グループの人数も多い中、いろいろと困難を乗り切ってきました。これからもグループ一丸となって頑張っていきます。

生産部門

第1駆動ユニット製造部

第12製造課

第5作業係　P252G

■スタッフ:22人
私たちの職場はU340の1次ライン生加工を担当しているグループです。できたばかりの新しいグループではありますが、メンバーはすぐに仲良く打ち解け元気いっぱいの職場です。

第12製造課

第5作業係　P251G

■スタッフ:26人
私たちの職場はU340を作っています。主に歯車関係の研磨ラインを担当、我々が作った歯車と同じようにしっかり噛み合った団結力、チームワークの良い職場です。

第12製造課

第5作業係　P256G

■スタッフ:18人
5月から3組2交替が始まり、大きな変化点となりましたが、新しいメンバーでコミュニケーションをしっかり取り、安全第一をモットーでこの波を乗り切ります。

第12製造課

第6作業係　P261G

■スタッフ:39人
私たちはU340の組付をしています。今年4月から新しく構成されたばかりの新メンバーですが、皆で力を合わせて安全で風通しの良い職場を目指して明るく楽しく元気よく頑張ります。

第12製造課

第6作業係　P262G

■スタッフ:50人
私たちの職場は、U340の1次組付で、メイン、V/B、外装の3つのラインを担当しています。3組2交替対応により、新しいメンバーになりましたが、若さと活気にあふれる明るい職場です。

HOKKAIDO
職場紹介

生産部門

第1駆動ユニット製造部

健康であれば何でも出来る
第13製造課
課長 泉 敏

第13製造課

第1作業係 P311G

■スタッフ:41人
　私たちはU340の2次加工ラインで主に内蔵物の生加工、研磨加工を中心に日々「良い物だけ後工程に」をモットーに生産活動に励んでいます。

第13製造課

第1作業係 P313G

■スタッフ:34人
　モットーは交通安全です。グループ独自で交通安全十ヶ条を作成し、毎朝M/Tで唱和を行い、ポケットサイズの十ヶ条を車内に掲示して意識を高め、自動車産業に従事する者としての自覚と責任とこだわりを持っています。

第13製造課

第1作業係 P314G

■スタッフ:23人
　私たちの職場は「安全、品質、コミュニケーション」をモットーにT/Aケースの精密加工を行い、一人一人が自工程完結でU340の1次・2次組付にT/Aケースを供給しています。

第13製造課

第1作業係 P315G

■スタッフ:23人
　P315Gのモットーはルール遵守です。何事においてもルールを守ることを常に心掛けています。決めたこと、決められたことを守ることで、安全や品質を確保し、今、何をすべきか理解できている元気で明るい職場です。

職場紹介

生産部門

第1駆動ユニット製造部

第13製造課

第2作業係 P321G

■スタッフ:41人
P321Gは組織変更に伴い、新しく生まれ変わった職場です。20周年という節目の年に一緒になった仲間なので、気持ちを新たに何事にも前向きに、いろいろなことに挑戦していける職場に全員でしていきたいと思います。

第13製造課

第2作業係 P323G

■スタッフ:34人
私たちのグループのモットーはスピーディーな「ホウレンソウ」ポパイのような頼もしいリーダーを中心に、とても風通しの良い職場です。"お客様の笑顔のために"を合言葉に日夜ガムシャラに頑張っています。

第13製造課

第2作業係 P324G

■スタッフ:23人
私たちのグループの信条、こだわりは当たり前のことですが、決められたことを必ず守ることです。これにグループ全員でしっかりと取り組んでいます。20周年を迎え、改めて基本のルールを確実に守ることがこれからのTMHの支えとなるからです!

第13製造課

第2作業係 P325G

■スタッフ:23人
2010年冬、週明けの月曜日突然P325Gを襲ったインフルエンザ。グループの3分の1に当たる約10名が感染し欠勤。インフルエンザの怖さを思い知らされた出来事でした。

HOKKAIDO
職場紹介

生産部門

第1駆動ユニット製造部

何事も
基本が大切!
第13製造課
工長 最上 茂

第13製造課

第3作業係 P331G

■スタッフ:41人
私たちP331GはU340の2次加工ラインを担当しています。グループ内の雰囲気がとても良く、元気のいい職場です。若いメンバーが多く、飲み会などは積極的に参加する"のんべ"の集団です。

第13製造課

第3作業係 P333G

■スタッフ:34人
P333Gを漢字一文字で表現すると「絆」です。チームワークが抜群に良いからです。

第13製造課

第3作業係 P334G

■スタッフ:22人
私たちのグループはトランスファーM/CにてU340のケース加工を担当しています。災害ゼロ、品質不具合ゼロが目標です。

第13製造課

第3作業係 P335G

■スタッフ:21人
P335Gを漢字一文字で表現すると「新」です。今年度より2組2交替から3組2交替に勤務が変更になり、20周年に新しいグループとしてスタートしました。これからどんな成長をするか楽しみです。

生産部門

第1駆動ユニット製造部

一人一人が主役で
つくろうNo.1職場
第14製造課
課長 阪内 義喜

第14製造課

P401G

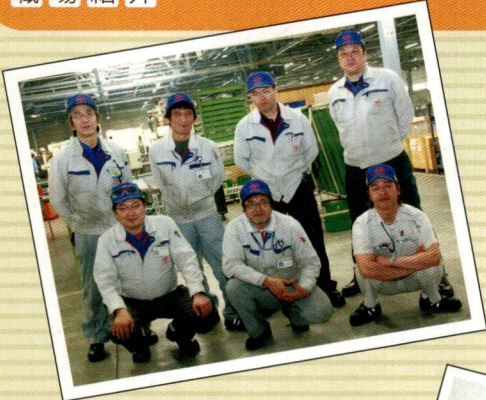
■スタッフ:52人

私たちの職場は今年の10月にL/Oの「アクア」に搭載されるハイブリッドラインの生産準備を行っています。TMH初のユニットとして大変な面もありますが、スムーズな立ち上げを目指し、日々頑張っています。

2011年12月発表「アクア」

HOKKAIDO
職場紹介

生産部門

部門付　第2駆動ユニット製造部

特命G

■スタッフ:7人

私たちのモットーは、「人に優しく、家族にも優しく、地球にも優しい人間関係の構築」です。良い職場環境をつくり、良い仕事をすれば、おのずと「人・家族・地球」に優しく接することができると考えて日々の活動をしております。

教育G

■スタッフ:8人

私たちは現場からの改善依頼などの業務を行っており、改善にも全員で知恵を出し、さらに1つ2つ工夫し現場へ設置しています。私たちは改善依頼100%達成・生産性向上・不具合の撲滅をモットーに日々業務に努めています。

第21製造課

第1作業係 Q111G

■スタッフ:21人

元気が一番!これに限ります!

第21製造課

第1作業係 Q112G

■スタッフ:30人

U660 A/Tの内蔵物2次加工ラインで、7部品の生加工、研磨加工を行っています。TMH初の日支部品の加工ラインで、11部品を梱包ラインに流動し、WV工場に送っています。

第21製造課

第1作業係 Q113G

■スタッフ:25人

Q113Gを漢字一文字で表現すると「笑」です。安全・品質が保たれていると自然と笑顔になります。笑顔は心と体の健康を良くしてくれます。明るく楽しく活気のあるグループなので「笑」としました。

生産部門

第2駆動ユニット製造部

第21製造課

第2作業係 Q121G

■スタッフ:21人
　私たちの職場はアルファードなど大型車に搭載されるU660A/Tの心臓部ともいえる内蔵物加工を担当しています。スムーズな走りでお客様に満足していただくため、全員の知恵を結集してより良い品をつくる努力を重ねています。

第21製造課

第2作業係 Q122G

■スタッフ:29人
　Q122Gを漢字一文字で表現すると「愛」です。スローガンをもとに職場運営をしており、チームワーク向上のため、グループ長は厳しくても愛情を持って接しています。リーダーは弟・妹の面倒を見る兄。メンバーは兄弟で助け合って笑顔で仕事を行っています。

第21製造課

第2作業係 Q123G

■スタッフ:23人
　私たちの職場はU660のピニオンギア自動ライン、および梱包ライン（TMMWV向け、日支部品）にて梱包、生産を行っています。世界No.1ユニットを全員で目指し、日々頑張っています。

生産部門

第2駆動ユニット製造部

第21製造課

第3作業係 Q131G

■スタッフ:16人

第3工場でU660とK310のアルミ部品、T/Aケース・Hsg・V/Bの荒加工・後処理を行うスモールⓜと呼ばれる工程を担当している職場です。

第21製造課

第3作業係 Q132G

■スタッフ:27人

明るく(グループ全員が笑顔で)、仲よく(みんなが家族愛を持って)、元気よく(健康的な会社生活を送るため)、挨拶よく(全員が明るくなれるように)をモットーに一丸となって働いているグループです。

第21製造課

第3作業係 Q133G

■スタッフ:38人

私たちの職場はU660A/T　ASSYの組付を担当しています。無災害3年4ヶ月のさらなる継続とMST500～MSTゼロ達成へ向け日々グループ一丸となり活動しています。これからも頑張っていきます。

職場紹介

生産部門

第2駆動ユニット製造部

十人十色
第21製造課
工長 清水 泰弘

第21製造課

第4作業係 Q141G

■スタッフ:16人

Q141Gを漢字一文字で表現すると「和」です。私たちのグループは、16名という人数もあり、互いに相手を大切にし協力し合う関係で、まとまっていると個人個人の能力以上の力を出せる、チームワークの取れた職場です。

第21製造課

第4作業係 Q142G

■スタッフ:27人

Q142Gを漢字一文字で表現すると「躬」です。実践躬行の躬です。意味は「自ら」。2012年、部の新年会で、ある工長が今年の抱負を漢字一文字で、との無茶ぶりがあり、私の想いと今後、グループの行動目標として「躬」に決め全員で取り組んでいます。

第21製造課

第4作業係 Q143G

■スタッフ:39人

U660 A/Tの組付全般を担当しており、上有谷課長を中心とし、安全・品質・原価とNo.1ラインを目指し、一丸となって取り組んでいます。

職場紹介

生産部門

第2駆動ユニット製造部

謙虚な気持ち、感謝の心
第22製造課
課長 中津川 治

第22製造課

第1作業係 **Q211G**

■スタッフ:22人
　Q211Gを漢字一文字で表現すると「勢」です。私たちのグループは若い人材が多く、活発で勢いのあるグループです!

動機 善なりや
私心 なかりしか
第22製造課
工長 阿部 政広

第22製造課

第1作業係 **Q212G**

■スタッフ:12人
　Q212Gを漢字一文字で表現すると「活」です。私たちは活力、活発、活動的、活気にあふれ、風通しの良い職場です。目指せ、作業服の汚れないライン!
追伸:婚活中の方も若干名います。

第22製造課

第1作業係 **Q213G**

■スタッフ:43人
　Q213Gを漢字一文字で表現すると「男」です。「男気」の男でグループで相談事や困っていることを見逃さずに一致団結して、課のスローガンである「世界No.1CVT ユニット」実現を目指して、グループ長を中心に優しい気持ちを持った職場です。

生産部門

第2駆動ユニット製造部

過猶不及
第22製造課
工長 小貫 実

第22製造課

第2作業係 Q221G

■スタッフ:23人

私たちの職場は、明るい人が多く日々ワイワイと楽しく休憩時間などを過ごしています。が、仕事になると全員真剣に、そしてお互いに厳しく指摘しあったりと、日々進歩しているこれからがとても楽しみな職場です。

第22製造課

第2作業係 Q222G

■スタッフ:12人

Q222Gを漢字一文字で表現すると「破」です。大きく2つ意味があり、1つ目は現状打「破」ということで、現状に満足せず常に改善意識を持つことです。2つ目は自分の殻を「破」るということで諦めずに何にでも挑戦して自己を高めることを目指しています。

第22製造課

第2作業係 Q223G

■スタッフ:43人

私たちはCVTの組付業務を担当しています。そんな最先端のユニットを作るため、組付室内ではシャープペンシル・消しゴムは使わない、髭を生やさないなど異物に徹底したこだわりを持っているグループです。

常に新しい苗を植え
大事に育てる
第23製造課
課長 河内 信男

第23製造課

Q301G

■スタッフ:30人

私たちの職場は、600Kの生産準備を行っています。来年の立ち上げに向けて、グループ全員一丸となり、頑張っています。アイデアを出し合った今までにないラインを是非、期待していてください。

職場紹介

生産部門

部門付　アルミ製造部

逆境は利用するもの
アルミ製造部
部長 中村 慎吾

特命G

■スタッフ:7人
私たちの職場は、第3工場内での改善や環境整備をはじめ、ダイキャストM/Cの可動率向上や不良率低減活動、また技能認定制度の推進活動を行っている「ナイスミドル」なグループです。

生準G

■スタッフ:8人
私たちの職場はP510、600K、605Kの鋳造と型保全の生準を担当しています。特にP510は短期間での立ち上げのため、グループ一丸となって取り組んでいます。

ダイキャスト課

第1作業係　R411G

■スタッフ:7人
私たちの職場は平均年齢約40歳（40代が4人/7人）とおっさん中心の個性豊かで、とてもバランスのとれたグループです。しかし、若さがイマイチないので若い人材を投入してもらえたら…と思います。

ローマは
1日にしてならず
ダイキャスト課
課長 白米 正治

ダイキャスト課

第1作業係　R412G

■スタッフ:26人
R412Gを漢字一文字で表現すると「匠」です。U340、V/Fケース粗材の鋳物工程。何の形もないアルミ溶湯から形を作る。その日の温度差、湿度などの微妙な変化からくる品質状況の変化を見逃さないよう、カン、コツなど匠の技が必要な職場です。

ダイキャスト課

第1作業係　R413G

■スタッフ:10人
R413Gを漢字一文字で表現すると「砦」です。ダイキャスト課を最高の品質の職場にするため、グループ全員尖って守っています。

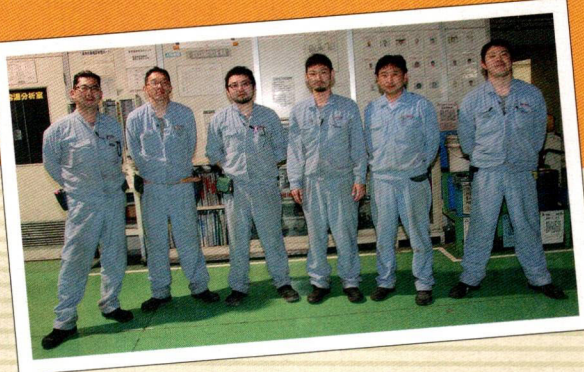
生産部門

アルミ製造部

ダイキャスト課

第2作業係　R421G

■スタッフ:7人

R421Gを漢字一文字で表現すると「熱」です。取り扱っているものがアルミ溶湯であり、季節を問わず汗だくになります。また、社内で最も前工程であるという自負を持ち、熱い気持ちで仕事に取り組んでいるからです。

ダイキャスト課

第2作業係　R422G

■スタッフ:25人

「失敗を恐れず何事にも挑戦」を合言葉に私たちR422Gは良いものづくりをするため、グループ一丸となって本音で語り合える仲の良いグループです。これからも世界No.1のダントツ工程を目指し「挑戦」します。

ダイキャスト課

第2作業係　R423G

■スタッフ:15人

私たちは、U340の仕上げとして後工程に良品のみを流すことはもちろんのこと、鋳造と加工の品質に関する情報のパイプ役としての重要な役割があり、ある意味、第3工場の顔としての自負を持って日々頑張っています。

ダイキャスト課

第3作業係　R431G

■スタッフ:7人

TMHの玄関口、溶解工程では500kgのアルミの塊やリターン材を3台の溶解炉へ搬入し、700℃の溶湯にした後、不純物を取り除き28台の鋳造保持炉へ配湯しています。常に笑顔で改善活動、技能向上に取り組んでいます。

あいさつと笑顔
ダイキャスト課
工長 寺沢 猛

ダイキャスト課

第3作業係　R432G

■スタッフ:26人

R432Gを漢字一文字で表現すると「挑」です。何事にも全員で目標に向かって、挑戦する気持ちを持って一生懸命ものづくりに汗を流し、頑張っているグループです。

ダイキャスト課

第3作業係　R433G

■スタッフ:15人

TMHで作るものは100%良品と言われるように、品質の管理や設備の管理をしっかり行い、3工場の最後の砦として、仲間と強い団結力、コミュニケーションを取り、U340を1工場へ提供します。

生産部門

アルミ製造部

ダイキャスト課

第4作業係　R441G

■スタッフ:25人

「元気にあいさつ!」をモットーにしています。やはり基本は挨拶からしっかり行い、職場全体が風通しの良い環境になるように職制が率先して行っています。

ダイキャスト課

第4作業係　R443G

■スタッフ:25人

私たちの職場はU660やK310、U340のケースハウジング、バルブボデーの粗材を生産している職場です。後工程に欠品させないように、必要な物を必要な時に必要な量だけ作ったり運んだりしています。

ダイキャスト課

第4作業係　R444G

■スタッフ:25人

R444Gを漢字一文字で表現すると「躍」です。私たちの職場が直面しているのがMUST90活動です。新しいプロジェクトP510、600Kの立ち上げに向けて、飛躍する年になります。何が何でも飛躍する意気込みです!!

型保全課

第1作業係　R511G

■スタッフ:23人

R511Gを漢字一文字で表現すると「気」です。私たちの職場は、ものづくりの源流に位置する金型保全という職場です。他人、他直任せでの作業では重大な品質不具合となる恐れがあります。だからこそ、気持ちを込める作業に精進しています。

型保全課

第1作業係　R512G

■スタッフ:9人

私たちの職場は人員9名と小さなグループですが、団結力があり、元気いっぱいのグループです。業務は主型に付いている入子を修理し、短期間で復元してしまうプロ中のプロ集団です。

HOKKAIDO
職場紹介

生産部門

アルミ製造部

小異を捨て
大道に立て!
型保全課
工長 佐藤 英俊

型保全課
第2作業係 R521G

■スタッフ:23人
私たちの職場は、オートマチックトランスミッションのケース金型の保全・保守を毎日行っている職場です。スローガンにあるように作業者全員が「目指せTOP1」に取り組み頑張っています。

型保全課
第2作業係 R522G

■スタッフ:9人
私たちの職場は、ダイキャスト金型の製品形状部の修理修復を行っている職場です。いわば金型の総合病院。日々来るいろいろな患者(金型)の検査、治療を行い、元気な姿にして送り出すので、非常にやりがいのある職場です。

one for all
all for one
型保全課
工長 青木 博昭

型保全課
第3作業係 R531G

■スタッフ:21人
アルミダイキャスト製品金型の保全業務を行っています。ユニット工場のスタート地点でもあり、後工程へ良品を提供するために、金型品質3大柱「形状、寸法、内冷」の保証100%への取り組みをしています。

型保全課
第3作業係 R532G

■スタッフ:9人
1日2型完成させる!! 日々の在庫と後工程の状況を把握し、各工程の優先順位を決めて、自直で毎日2型完成させることを日課に作業しています!

HOKKAIDO
職場紹介

生産部門

部門付　鍛圧製造部

闘魂モードで
ダントツの頂へ
鍛熱プレス課
課長 外園 心一

いつも笑顔で
元気な挨拶
鍛熱プレス課
副課長 高橋 満

特命G

■スタッフ:4人

職場の小集団活動のフォロー活動の盛り上げ役として、現場、技室と連携し、型寿命向上と型費低減を行っています。また、プレス新製品の早期立ち上げ、斬新的なアイデアで安全、品質、生産を高める生産準備をしています。

楽は苦の種、
苦は楽の種
鍛熱プレス課
工長 柏谷 新一

鍛熱プレス課

第1作業係　T111G

■スタッフ:22人

不良ゼロを目指し、グループ全員で一丸となり、品質ミニサークル、型ダントツミニサークルの小集団活動を中心に決して諦めないで粘り強く頑張っています。

鍛熱プレス課

第1作業係　T112G

■スタッフ:23人

鍛熱プレス課は、「鍛造」「熱処理」「プレス」という3つの工程で1つの課となっています。自グループはプレス工程で、自社製品に組み込まれる内蔵プレス部品をコイル材を使用し、自動でプレスして後工程へ供給しています。

鍛熱プレス課

第1作業係　T113G

■スタッフ:21人

T113Gの目標は「活・魂・翔」をテーマに不良品ゼロのダントツ工程となることです。キャベツ畑を使った日々の活動が実を結び、ゼロに近づいています。さらに進化すべく、団結・スピードアップで頑張る明るいグループです。

生産部門

鍛圧製造部

初心、
忘るべからず
鍛熱プレス課
工長 山田 寛

鍛熱プレス課
第2作業係 T121G

■スタッフ:27人
私たちの職場は、トランスミッション内蔵の鍛造部品を製造しています。部のキーワード「活・魂・翔」をもとに、闘魂課長の掲げるダンツツ工程を全員で明るく仲良く元気よく目指している団結力のあるグループです。

鍛熱プレス課
第2作業係 T124G

■スタッフ:3人
プレス型ダントツ活動で、今年から型部品管理として立ち上がった新しい職場です。人数は3名（内女性2名）と少ないですが、部品の納期遅れ・誤品のないよう、全員で頑張っています。

鍛熱プレス課
第2作業係 T122G

■スタッフ:27人
T122Gを漢字で表現すると「闘魂」です。「魂」を込めてものづくりを行い、不良ゼロを目標にさまざまな品質不具合と「闘」うという意味があります。

鍛熱プレス課
第3作業係 T131G

■スタッフ:14人
我々、T131G熱処理グループはA/T、T/Fで使用されているギヤに焼き入れ処理をし、部品を硬く、粘り強くする工程です。メンバーも熱いハートを持った人たちばかりです。

職場紹介

生産部門

鍛圧製造部

鍛熱プレス課

第3作業係 T132G

■スタッフ:17人

2010年に所属が変更となってから「さわやか熱処理」に生まれ変わるため、暗く汚れて危険なイメージから明るくキレイで安全なイメージになるよう、日々活動を実施しています。

職場紹介

新入社員／TMC・海外出向者

2012年度新入社員

TMC・海外 出向者

TMC出向中
ユニット生技部
ユニットSE統括室 ドライブトレーンSEG
門伝 智弘

TMC出向中
ドライブトレーン実験部
ユニット実験解析室 CVTユニット実験G
井内 啓介

TMC出向中
生産管理部
企画室エンジンG
広瀬 隆之

TMC出向中
新車進行管理部
ユニットプロジェクト室 駆動・HVG
尾山 和之

海外出向中（AWTEC.U.S.A）
アイシン・エイ・ダブリュ（株）
梅山 浩史

海外出向中（TEMA CQE-LA）
お客様品質部
第3車両室 北米調査G
橋爪 睦紀

HOKKAIDO
勇豊会設立総会

トヨタ自動車北海道株式会社

創業20周年記念鼎談

広く地域に愛される企業であるために

20年という歩みの中でトヨタ自動車北海道株式会社が培ったものとは何か。
創業当初より当社を知る松本紘昌さん、石橋弘次さんを招き、社長の田中義克を交えて、
20年の歳月を振り返りながら、心に残る忘れられない思い出をご披露いただきました。
また、新たな一歩を築く明日のTMHのために必要なものとは何か、
今後のTMHに期待することとは何か。温かくも率直なご提言を頂きました。

出席者

松本紘昌 氏
株式会社松本鐵工所
取締役社長

石橋弘次 氏
株式会社
I・TECソリューションズ
取締役会長

田中義克
トヨタ自動車北海道株式会社
取締役社長

●司会・進行／**西村竜也**（トヨタ自動車北海道株式会社 総務部総務課主幹）
●開　催　日／2012年5月11日（金曜日）
●会　　　場／料亭 於久仁（苫小牧市）

トヨタ進出は苫小牧にとって大きな転換点

司会　本日はお忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。それでは早速ではございますが、トヨタ北海道の20年の歴史を振り返って何か印象に残っている出来事はございますか。

石橋　ちょうど10周年が終わった時にトヨタ自動車の奥田さん（当時代表取締役会長）が来られました。奥田さんが僕らに言われたのは「地元に嫌われたら企業は生きていけないよ」ということと、もう一つは「トヨタ自動車に対して仕入先さんの代弁者となってくれ」ということです。いくらイコールパートナーといっても仕入先さんからは言いにくい。トヨタ北海道はみんなの声を聞いて、その代わりになるのが役目と言われたのが印象的です。

松本　私が一番覚えているのは、トヨタ北海道さんの竣工式のパーティーの時に、トヨタ自動車の豊田英二最高顧問（当時トヨタ北海道会長）がお見えになって、わざわざ私の方に来ていただき、「これから仲間に入れていただきますので、よろしくお願いします」というお言葉をいただいたんです。びっくりしました。まさか最高顧問にそんな言葉をかけてもらえるとは思ってもいなかったし、当時トヨタさんが出てくるということは、苫小牧にとって「歴史の大きな転換」と言われていました。その最高責任者の方がわざわざ苫小牧のパーティーに来ていただいて、それに我々をお招きいただいて、なおかつ我々に声をかけていただいて、「お仲間に入れていただきます」という話でしょう。それまではお客さんという感じを受けていたんですけど、地元の企業としてやっていくんだな、地元の企業になるんだと、その時すごく強く感じました。

石橋　TMHが従来から従業員に「謙虚に」と言うのはそこからきているんですね。私が案内役でしたが、豊田英二最高顧問が最初に機械工業会の会長にご挨拶され、その後松本さんにもご挨拶されましたが、本当にお二人にそれぞれ「お仲間に入れていただきます」と言われたんです。

松本紘昌 氏 Hiromasa Matsumoto
勇豊会 顧問
株式会社松本鐵工所 取締役社長

1968年現日本紙パルプ商事株式会社に入社。1970年株式会社松本鐵工所に入社。1980年取締役業務部長に就任、1988年より現職。社団法人北海道機械工業会副会長をはじめ、苫小牧商工会議所副会頭、苫小牧工業高等専門学校協力会会長、苫小牧市に美術館を実現する会副会長など数多くの役職を兼務。

市制50周年を機に始まった国際アイスホッケー交流

司会　社会貢献活動は創業当初から現在と同じ形で始まったのでしょうか。

石橋　創業の頃は赤字で動けなかったんです。赤字が一掃されて、やっとそこからスタートしたんですね。港まつりは、最初は人数がいなくて参加するのを辞めようと思っていたの。そうしたら市長さんから電話がかかってきて、「ぜひ出てもらわないと困る」と言われてね。

田中　去年は木曜・金曜が休みだったでしょ。土曜日は出勤でしたから参加を辞めようか、という話もあったんだけど、やっぱりここは続けようと。

松本　トヨタさんがやると関連会社も参加するんですよね。

石橋　最初は浴衣を市が貸してくれました。その次から自前の法被で参加しました。最初のうちは出られるだけ出ようと、どんどん拡大して、多い時で800名近く出ました。ただ練習はするんだけど、いざ本番でお酒が入ると誰も踊らないでただ酔っぱらいのパレードが（笑）。

司会　国際アイスホッケー交流が始まったのはどのようなきっかけだったのでしょうか。

石橋　僕がカナダに出張に行った際、TMMCがちょうど10周年のタイミングで、何か行事をやりたいという話が出たんです。カナダはアイスホッケーが国技なんですね。苫小牧には幼稚園を含めると300チームあり、苫小牧も同様にアイスホッケーが盛んなんですよ、と言うと、カナダ側が一度交流しましょうと。苫小牧に戻って、市に相談しようとしていたら逆に電話がかかってきたんです。ちょうど市も50周年でいろいろやりたかったんですね。それで始まったんです。一時期、リーマン・ショックとかいろいろありましたけど、豊田章一郎名誉会長からもぜひ継続した方が良いと言われて、カナダ側に継続の話をしました。

田中　カナダの方がどちらかというと、辞めようってね。カナダ

の方がリーマン・ショックの影響が大きかったんです。だから、僕も現地へ行って駄目押しみたいな感じで続けようと言いました。辞めることはいつでもできるけど、復活することはできないよと。まぁ、去年は大震災で中止せざるを得ませんでしたが、できなかったのはアメリカ同時多発テロ（2001年9月11日発生）と去年だけなんですよね。苫小牧市からも、国際アイスホッケー交流は続けてほしいと言われています。

石橋弘次 氏 Hirotsugu Ishibashi
株式会社 I・TECソリューションズ
取締役会長

1968年トヨタ自動車工業株式会社に入社。1992年トヨタ自動車北海道株式会社取締役経営管理部長。2004年取締役副社長、顧問を経て2012年6月退任。苫小牧商工会議所副会頭をはじめ、北海道体育協会副会長、北海道アイスホッケー連盟副会長などを務める。

ようやく苫小牧にも美術館が

松本　トヨタさんと出光さんが絵画展・美術展をやってくれまして、そのおかげもあってようやく苫小牧に美術館ができます。

田中　今回の絵画展は期間を長くしました。あれだけのものはなかなか見れないですね。

松本　絵画展の開催は本当にありがたいと思いますね。もう一つ、美術館をどうしても造らないといけない理由は、今の設備では、いい絵画、超一流のものを持って来れない。

田中　今回もいろいろ選んで、もっとたくさんのものを展示したかったんですけど、場所の大きさの制限で入らないんです。

松本　ですから専門の美術館を造るべきということで、今回狼煙を上げたら、タイミング的にみんな気が付き始めていたんですね。そういう意味では思った以上に署名もたくさん集まりました。ようやく市も予算をつけてくれました。それは本当に感謝しています。

拡大期（2003～2008年）を振り返って

司会　2004年に勇豊会が設立されましたね。

田中　松本さんには初代会長をやっていただいて、6年ですか？7年？

松本　6年ですね。

石橋　（勇豊会の前身の）安全協力会会長さんを松本鐵工所の池上常務（当時）にお願いしました。

松本　安全協力会ができた時は会員が52社でした。その後、勇豊会となって138社で始まったんですね。

田中　今年ちょっと話題になったのは、広げ過ぎているというか、活動全体を少し見直す時期にきていますかね。

石橋　やっぱり20年は一つの区切り。なんのためにやっているかなど、もう一度フィルターを通すためには節目って大事ですね。

司会　2003年からの5年間は拡大期ですね。

とまこまい港まつり

毎年8月上旬に開催される苫小牧の夏の風物詩と呼ばれる一大イベント。TMHも参加する市民おどりは約3,000人の市民が集い、市内を練り歩く。他に、ビアガーデンや花火大会、マーチングフェスティバル、ボートレースも行われる。今年で第57回目。

絵画展

2002年、2004年、2007年に引き続き、創業20周年記念事業として、本年開催された第4回目の絵画展。モネ、ルノワールなどの印象派から、ローランサンやレオナール・フジタなどのエコール・ド・パリを代表する名画が披露された。

アイスホッケー国際交流試合

正式名称は「トライシティー・苫小牧市国際アイスホッケー中学生交流会」。1998年にトヨタ自動車北海道株式会社・苫小牧市などの主催による記念事業として開催された中学生によるアイスホッケーの交流試合。前年度で第15回を数える。

勇豊会

2004年に設立された取引先の協力会。前身は安全協力会で、品質・安全の管理を中心に、業種ごとに4つの部会に分かれて活動を行っている。現在会員は170社。

松本　トヨタさんは、どんどん景色が変わっていった時代ですよね。

田中　そういう意味では大きさとか、いろいろなものに合わせて見直さないとね。時代の変化もありますし。

石橋　15周年の社内の安全大会で全従業員約3,000人が集まった時がありました。全従業員が集合するというのは、あの時が限界だったかもしれません。

田中　大変でした。全従業員が集まるとなると駐車場が足りないから、車を構内に全部入れて、それで僕がしゃべりながら見ていると、聞いていない人が多いな（笑）。やっぱり、これは限界を超えているし、事務局の手間も大変ということで部単位にしたんだよね。全体のは職制以上で今もやっています。

松本　3,000人が聞いているというのは、よっぽど危機感を持っている時くらいしかないですから。

リーマン・ショック

司会　この10年の一番の変化点といえばリーマン・ショックですが、何か変化したことはございますか。

松本　あの時は生産もかなり落ちましたし、TMH協力会も大変な状況で、元気がなかったんですね。勇豊会の総会の時にそんな話をして、朝が来ない夜はないんだと。これを乗り越えればなんとかなると話しました。その頃のトヨタさんの影響はずいぶんと大きくなっていたんです。地元苫小牧にかなり影響がありましたから。苫小牧地域全体でも非常に元気がなくなって、市の経済が大変でしたね。

石橋　TMHはあの時、みんなで雇用を守ろうということで、工場の改善（体質強化活動）をやったよね。それが良かったね、結果的に。

松本　周りがトヨタさんがそれまでどんどん採用していたので、頼り切っていましたよね。それが止まってしまったものですからあの時は慌てました。

アルミホイール18年の歴史

司会　2010年はアルミホイールの生産が終了した年でした。

松本　あれはショックでした。一番最初に立ち上げた製品ですよね。我々にとって、まずトヨタさんはアルミホイールだったんです。我々は誇りを持っていたし、難しい技術に挑戦されていましたよね。

田中　僕が思ったのは技術屋としてはやりたい。しかし経営者としては、これはもう限界ではないかということです。あれは単一商品なんです。オートマチックトランスミッションが500種類の部品から成っているけど、アルミホイールは1個なんですよ。

また、単一品なのに工程だけは溶解、鋳造、熱処理、加工、塗装とものすごく複雑でいろいろな技術のプロが必要な訳です。それぞれ専門がいてね。非常に難しい。鋳造方法（高圧鋳造）の変化も一つの要因ですね。残念ながら、これは海外生産に勝てないなと思いました。

石橋　耐久性に走行性、ぶつかって変形しても破損はしないことは当然のことながら、意匠面の品質（見栄え）も厳しかったですね。

松本　トヨタさんの品質はすごいなと思っていました。トヨタさんと取引をさせてもらった時に、機械を作って納めたことがあるんです。それまでうちは製紙会社の機械を作っていたんです。製紙会社の機械というのは1回使うと50年、60年と使う。がっちりしたもの、強度も相当もたせるんですね。そういう感覚でトヨタさんに納めた時に、「うちはカローラを頼んだのに、松本さんは戦車を持ってきた」と言われましてね。

田中　それがなかなか現地調達が進まない一つとしてあ

リーマン・ショック
2008年9月15日にアメリカの投資銀行であるリーマン・ブラザーズが史上最大の負債総額64兆円で破綻したことから、世界的な金融危機の引き金となったことを表現。また、金融危機や不況なども招いたことでも引用される。

アルミホイール生産終了
1992年10月にラインオフしたアルミホイールが、2010年7月に生産を終了。18年にわたる製品生産に終止符を打った。

東日本大震災
2011年3月11日14時46分頃に発生した東北三陸沖を震源とする大地震（M9.0）と、それに伴う津波による大震災。岩手・宮城・福島・茨城・千葉県などで壊滅的な被害が発生。死者数は阪神大震災を上回り、戦後最悪の災害となった。

るかもしれないですね。

松本　北海道は技術的にできないということではなくて、いかにコストに合わせて、お客様の求める品質のものを作っていくかということが不得手といえば不得手ですよね。それが北海道らしさというのか、北海道の企業の良いところ、悪いところでもあるんでしょう。

石橋　本当に売れるかどうかも分からない部品や機械に、人とか設備を投入する。さらに、既存の本州メーカーと戦うわけでしょう。現実問題として会社の体力の問題があり、それをやってほしいというのは、言えないよね。

松本　でも、夢としてはあるんですよ。我々は地元として特に苫小牧で一つぐらい部品の工場を立ち上げたい。

田中　一つの方法として、本州のメーカーと一緒になって育成していくのがリスクも少ないし、やりやすい。

石橋　地元で調達するのがお互いにとって一番いい。

松本　トヨタさんは地場の企業をなんとか育てようと、どんどん人を出してくれています。実際に現場に行って指導してくれる。ここまでやってくれるメーカーさんはないですよ。それはありがたいと思っています。

東日本大震災後の日本

司会　もう一つ大きな出来事といえば3.11。何かご記憶されていることがあればお話しいただけますか。あれを反省に防災対策をもう一段階レベルを上げていますよね。

松本　うちも今までの安全基準とか防災基準を見直しました。今までのものでは駄目だったということがよく分かりました。今、全部見直しをかけているところです。まずはうちの東北事業所を復旧させるのが第一でした。これはずいぶん悩みました。今までやってきたものが全部なくなってしまった。でも、お客様から工場を再開してほしいと要望がございましたし、うちの社員もたくさんいますので、その人たちの職を守ってあげないといけない。そこでみんなが集まってきた時にもう一回やろうということを言いました。社員の目が輝いて、今うちの会社の中で一番団結力があるのは被災した事業所なんです。ここは本当に勢いがあります。ものすごい勢いで復興しました。

石橋　松本さんは真っ先に事業所に行って、足りないものは何だ？食料は大丈夫か？とやられて、さらにはお客様の会社の復興にも貢献して表彰もされました。自分のところだけでなくお客様のところでも頑張ったんですよね。

松本　今だから言えますけど、本当に不安でした。

田中義克 Yoshikatsu Tanaka
トヨタ自動車北海道株式会社
取締役社長

1976年トヨタ自動車工業株式会社入社。2004年より常務役員として、三好工場・衣浦工場・明知工場の工場長を歴任。2006年にトヨタ自動車北海道株式会社取締役社長に就任、現在に至る。また、2010年に社団法人北海道機械工業会会長に就任。

従業員へのメッセージ

司会　それでは最後に皆さんから、お言葉を頂きたいと思います。まずは、石橋さんから従業員に向けたメッセージを頂ければと思います。

石橋　一つ目は「仲間に入れてください。よろしくお願いします」という謙虚な気持ちを常に忘れないでほしいということ。二つ目はずっとトヨタを支えてきたトヨタイズムの継承で現地現物をこれからもしっかり守ってもらいたいということ。三つ目はトヨタとは一体化したイコールパートナーだということ。もともとは単に作るだけじゃなくてトヨタにいい刺激を与えてほしい、トヨタに対していろいろなことを貢献してほしい、そして取引先の代弁者としてトヨタにものを言う。そういうところをぜひ。

あとは、北海道経済に寄与してもらいたいという思いです。地域、地元を大切にとトヨタの歴代のトップがみんなに言っている言葉をしっかり引き継いで、地元の取引先、市民の皆さんから信頼される会社になってください。

地元が期待すること

司会　松本さんは勇豊会初代会長ということですが、この地域ということも含めまして、トヨタ北海道に期待することをお聞かせいただけますか。

松本　まず、勇豊会という大きな組織を任せていただいたことは大変ありがたかったなと思います。私にとってたくさん出会いがありました。名古屋の人たち、トヨタの人たちは考え方が早くて、北海道とずいぶん違うなと感じました。我々はそれを必死になって追いかけていって、今日まで来ました。

これからもトヨタさんにお願いしたいことは、全道の技術、生産力の底上げをしていただきたいということです。今、北海道の産業が弱いということは、これから先どんどん疲弊していく可能性もある。トヨタさんはどんどん新しいものを取り入れていくと思うので、それを我々が一緒になってサポートして、力を入れさせていただきたいと思います。そして、北海道を元気にしたいと思います。

将来に向けて

司会　最後に田中社長より将来に向けて従業員へ伝えたいことをお話しいただけますか。

田中　赴任した時に一番感じたのは、トヨタ北海道に対する地域の期待の大きさでした。想像していた以上だったなと感じました。北海道の人にとって、トヨタ北海道イコールトヨタ。そういう意味では、トヨタの代表として頑張っていかなければならないなと感じます。

あと、家族的な温かいムードだとか、一致団結だとか、非常にいい点がたくさんあるんです。ただ、そうは言いながら、時代も変わり変えていかないといけない部分もあるなと思って、私はこの6年間やってきたつもりでいます。それは安全と品質。まだまだついていってないなと。そして技術を変えていく、開発していくという部分が弱いとも感じました。いろいろなことがまだまだ人に頼っている。仕組みに落とされていない。ぜひ、このへんは時代の要求に合わせて変えていかないと、やはり世界で勝っていくことはできないのかなと思いましたね。

今の円高や電力不安、経済状況、いろいろな問題を考えると、これからの日本国内の製造会社、製造工場は厳しい時代が続くだろうなと思っているんです。今、我々の会社は大きな2つのプロジェクトを頂いている。これは日本の今の状態とは少し異なるんですね。それは非常にありがたいことだけれども、これがずっと続くわけじゃないんだ、ということを認識してほしい。じゃあ、次どうするかというと、やはり基本に返って、良いものをさらに低コストで安く作っていくということ。そのための人づくり、技術革新というものをもっとやってもらいたいなということです。

トヨタ北海道の売り上げの80%以上は海外なんです。これから本当の意味でのグローバル化に対して、一人一人が積極的に海外の情報を得たり、語学を勉強したり、いろいろやっていってほしい。それから、もう一つはトヨタに対して情報発信をしていくこと。例えば、車を作る技術の中で少しでもトヨタ北海道はこんないい技術があるぞと。こんなに一生懸命やっているぞと。そう言われるようになっていきたいですね。

この2年でコンバートEVを作ったり、少し本業とは関係ない取り組みをやってきました。それはエンジニアの皆さんに夢のある仕事をしてほしいということです。事務職の人だってトヨタがまだやっていない取り組みを先駆けてやっていく。それから、現場のからくり改善ですね。ああいったものをどんどんやっていく。こういうことをやっていけば、トヨタ北海道は日本全体が厳しい中でも、25年、30年とずっと続く。そして、北海道で地域に期待され、喜ばれ、定着した会社すなわち「町いちばんの会社」になっていけるんじゃないかなと思います。ぜひ、これを今いる従業員、私も当事者ですけど、しっかりやっていかなければ、と思います。

トヨタ自動車北海道株式会社

従業員紹介

TMH employee introduction

従業員紹介

Message Zoom

社員が語るTMHのこころ

基本理念 VOL.1

地域社会に根ざした事業活動を通じて、産業・経済に貢献すると共に、
オープンでフェアな企業行動を基本とし、広く社会から信頼される企業市民をめざす

第13製造課
及川裕　山本篤志　長澤潤　原田征規　大本正一

鍛熱プレス課
花岡慎也　大原拓也

第11製造課
冨田利和

第21製造課
塩塚和喜

第21製造課
土屋憲昭　川上亮祐

第2設備課
尾田龍之介

第21製造課
齋藤道典

第21製造課
山中大生

第21製造課
古明地貴之

第22製造課
阿部誠　長谷川修之　山口悟

第1設備課
板本正俊　竹田幸貴

第12製造課
眞野英樹　石川浩太　高田美幸 本間広樹 杉浦清隆

第2駆動ユニット製造部
山崎洋一　森山哲也

第22製造課
大内龍也

第21製造課
今野孝弥

第21製造課
松隈真矢

第21製造課
柳瀬誠

第2駆動ユニット製造部
川真田文浩

第22製造課
菊地康寛

ダイキャスト技術課
湯浅眞太郎　村上弘志　岡村隆司

第22製造課
佐藤丈晴　坂井利光

品質課
鳴海将志　亀谷慎　五十嵐一将

第21製造課
田村翔太

第11製造課
服部直行

第2設備課
那須裕二

第13製造課
真鍋伸吾　田村謙吾　斉藤宏行

物流課
佐藤光博

第22製造課
熊原陵太

第13製造課
斉藤哲也　菅原直人　川原田大悟

第21製造課
増田京貴　市川直人

ダイキャスト課
佐藤雅靖

第12製造課
鈴木啓悦　本間富晴

第22製造課
塚本健太　斉藤優

第21製造課
岩瀬万里奈　中野晴通

第12製造課
成田勇海希

第13製造課
山森司

第22製造課
小野寺潔

鍛熱プレス課
平岡孝志　村中健太

鍛圧製造部
大森人誌

鍛熱プレス課
佐藤宏樹　弓削雅義

鍛熱プレス課
高橋克弘　佐藤彰紘

第12製造課
山中久美子　鹿嶋洋行

TMC出向中
和嶋哲也

第21製造課
大西優哉

第12製造課
面田慶治　阿部隆豊

第21製造課
中村勇一　佐藤陽介

第21製造課
佐藤太一　遠藤淳一　相山昇司　平村智和　賀谷大輔

第13製造課
五十嵐秀夫　鎌田鳳元

品質課
辻﨑貴仁　山崎勉　長澤隆臣

第2設備課
小松誠　平大介

第2設備課
高橋信昭　小島譲

物流課
平川勝海　高田恭弥

経営企画課 千葉俊則
第13製造課 関本秀明 石久保等 小野寺亮
第12製造課 向井正明 第2駆動ユニット製造部 葭原卓司
経理課 村本陽子
第12製造課 小山内勝雄
ダイキャスト課 斉藤元宏 煤孫将平 下山田悟 菅野貴夫 小椋忍

第12製造課 内山秀徳 笠井大 吉野誠一 第23製造課 片石悟
環境技術課 佐藤亮平 菊地喬
型保全課 鈴木裕之 羽沢直之
第21製造課 有吉元太 井上睦雄 大坪勉 今野政仁

第21製造課 長谷川順 新美達也
第21製造課 林和美 八戸岳男
物流課 樺澤稔夫
ダイキャスト課 坂東春彦 矢嶋宏至
物流課 石亀和彦
駆動ユニット技術課 滝口智博 福井克己

第22製造課 苅部保晴
第2設備課 泉谷優希 佐藤雄一
経営企画課 中谷圭祐 西森貴之
第12製造課 岩崎泰洋
人事課 矢野元基 齋藤絢美
第13製造課 八嶋貴浩 田中優勝 三門明達也

第13製造課 酒井比呂康 山田泰希 西尾啓吾
第1設備課 牧野佑磨 佐藤尚人
第11製造課 三井隆司
経営企画課 奥谷玲菜 北英樹
鍛熱プレス課 東出琢也 三澤友弥 大谷裕一
第11製造課 岩村祐治

人事課 多田千鶴 清水義勝
ダイキャスト課 蓑島佑弥 アルミ製造部 武田啓介 ダイキャスト課 長沼直樹
生産保全支援室 中村智幸
総務課 木村麻美
第13製造課 友広幸市 道政武男
第12製造課 工藤勝也
第12製造課 土屋裕介

第13製造課 高砂章 第23製造課 寺沢泰彦 赤石崇
第12製造課 阿部佐智子 第14製造課 青木謙児 第13製造課 五十嵐大介 第12製造課 伊藤慎吾
第12製造課 生川直人 松平卓也
総務課 牧野孝男
第13製造課 平田真一 宮崎哲平 後藤元樹

第12製造課 高橋政直
駆動ユニット技術課 奥貴晶 上野裕司 木村健一郎
総務課 能登谷美香
ダイキャスト課 関川廣也 酒井康行 柴田孝彦
第13製造課 石川光一 鈴木照正 瀬髙慶彦
物流課 渡辺直彦 寺坂和馬

従業員紹介

Message Zoom

社員が語るTMHのこころ

基本理念 VOL.2 お客様のご要望に応えた品質・価格の商品をタイムリーに提供する

品質課
水野健太 阿部洋史 渡邊惇

第1設備課
能勢大樹

品質課
阿部純也 飯坂卓也

型保全課
田村貴志 板垣恒夫

第13製造課
小原隆一 黒田裕也 工藤一彦 尾形達也 瀬川宏行

第21製造課
桜井哲也

第2設備課
松村直幸

人事課 加藤澄恵
経理課 里吉由貴

ダイキャスト課
坂本日出男

第13製造課 中村正紘
第12製造課 角道行雄
第23製造課 川島和徳

第13製造課
小泉健太

物流課
塩谷康文 兼松弘市 丹波佑規

TMC出向中 門間保
品質課 南谷洋介 石岡裕介

第22製造課
大石智樹

鍛熱プレス課
小沼亮太 今野裕次郎 平吹滉太

第13製造課 梁川勇太
第12製造課 野村知史

第21製造課
村田岳史

第13製造課 谷川雄一
第12製造課 斉藤朋哉
第13製造課 寺内大介

型保全課 長江翼
アルミ製造部 長尾大樹

第1設備課
中村悟 棟方一博 堤健太

第11製造課
藤谷公義

第1設備課 山田利忠 水越貴宏
第12製造課 東良美

第22製造課
川口将太 伊藤真太朗

鍛熱プレス課
松浦光政

物流課
松川雅美 佃政臣 桑原信次

第11製造課
小田島大晃 長浜圭介

第2設備課
梁田貢久

第1設備課
菊川昌悟 関智康 髙野豪康

品質課
千塚純一郎 盛藤英雄 遠藤啓輔 小林栄一 木瀧將之

第12製造課
丹羽英二

第13製造課
星繁孝 洞内順一 松本尚 岡田啓吾

第11製造課
角田祐希 牧圭介

第11製造課
斉藤広幸 川村俊介

駆動ユニット技術課
鈴木毅裕 荒木太郎 山崎憩一

第12製造課
和田真樹 扇賞

第11製造課
坂田昭則

TPS推進室
本間義則 池田正道

第13製造課 谷崎誠
TMC出向中 白取拓馬
第13製造課 本田貴洋 中村託也
TMC出向中 加藤真吾

第1駆動ユニット製造部
松田悟 大久保明人

第21製造課 上谷慶輔
第14製造課 久保涉

第2設備課
田口秀樹

鍛熱プレス課 金澤雄介
第3技術課 千葉広之
鍛熱プレス課 工藤春菜 細川宏謙

鍛圧技術課
髙野修一 小池美智男 鈴木良輔

第13製造課
山岸孝昭 粂川英樹

従業員紹介

Message Zoom

社員が語るTMHのこころ

基本理念 VOL.3

労使相互信頼をもとに個人の創造力と
チームワークの強みを最大限に高める企業風土をつくる

ろうしそうごしんらいをもとにこじんのそうぞうりょくとチームワークのつよみをさいだいげんにたかめるきぎょうふうどをつくる

ダイキャスト課 木村誠
第11製造課 古一辰朗
第11製造課 市川和輝
第12製造課 佐々木誠　第23製造課 渡辺崇晶　鍛圧製造部 荏原豪
第11製造課 金子卓靖
第11製造課 渡邊昇 多田隆一
第12製造課 柴原吉弘　第14製造課 佐藤亮介

第2設備課 米谷優渉 大橋洋平
第13製造課 丹羽暁生
品質課 賀集章博
第22製造課 山本聡
第12製造課 小松拓 下出知生 奥山隆志 吉原龍祐
物流課 佐藤喜巳夫
第12製造課 吉村大輔

第14製造課 納藤充博
第22製造課 正木勇太 久野誠之
品質技術課 近江徹 中田健二 高島秀武 海野正法
鍛熱プレス課 菅原秀樹
生産保全支援室 小松一也
第12製造課 尾田歩 須藤健

第1設備課 山田昌 沼田昌幸
調達課 濱野正幸
技術開発室 稲村弘之
物流課 高杉輝夫 山田健司 笠原敬祐
第11製造課 宮川直也
物流課 木村伸明 安部稔
第23製造課 逢坂敏充

第21製造課 秋岡宏幸
型保全課 木村友幸
人材開発課教育中 厨川洋平　物流課 澤向諒
第22製造課 浅水友彦
人材開発課教育中 齋藤悠太
生産保全支援室 芹野肇 鈴木保夫
第22製造課 上野恭悟 仲井一貴

第1設備課 須藤大範 服部純平 小川祐来
第21製造課 諏訪直人
第22製造課 佐藤輝和
第21製造課 山岡将悟 田村佑輔
第22製造課 藤島佳生
第14製造課 阿部春城
品質課 佐々木栖理子
第21製造課 太田史貴

第11製造課 岡村昌典 戸塚清幸
第21製造課 原一之
品質課 工藤健一 高橋道弘 浪越貴広
鍛熱プレス課 梅津克年
第23製造課 山西諭　第12製造課 下川勝志
第13製造課 金子省吾 寺島隆道

第13製造課 茶木雅裕 伊藤裕也
第11製造課 梅田哲也 滝幸司
第21製造課 石井康輔 斎藤正輝
第21製造課 平瀬厚志
鍛熱プレス課 沼倉雄基　鍛圧製造部 吉田博宣　鍛熱プレス課 伊藤裕一 栃丸典之

従業員紹介

Message Zoom

社員が語るTMHのこころ

基本理念 VOL.4

環境問題と安全問題を最優先に考え、
効率的な経営を通じて着実な成長を持続する

第21製造課 布施恵佐
第2設備課 柴尾忠信
第21製造課 中村正範
第22製造課 浅野仁　伊藤祐介
第21製造課 宍戸孝彰
アルミ製造部 富樫憲人
品質課 工藤雅理
駆動ユニット技術課 黒田順久
技術開発室 中川光範

駆動ユニット技術課 白石力仙
型保全課 谷口将洋
第21製造課 三谷徹
第12製造課 長岐大輔　竹田晃司
第12製造課 和嶋吉裕　梶川卓至
TMC出向中 道政学
第13製造課 大黒晋太朗　鳩澤直浩

第11製造課 関祐太
第13製造課 萩原宗弘　重原敏光
第11製造課 工藤行一
品質課 長澤英明　新井田秀成
第21製造課 増田聖人
第13製造課 蔦原清也　加越啓正　白浜尚樹　越前雄平

第1設備課 城川均　谷藤亨
第21製造課 福田勝文
第21製造課 宗像繁毅
型保全課 高橋章吾　アルミ製造部 林啓二郎
第11製造課 一瀬正人
第21製造課 岡本直樹
第11製造課 鈴木琢也
第14製造課 田中努

第12製造課 星野和久
第11製造課 吉田深人
物流課 坂井鉄也　花岡祐太
第11製造課 高田陽平
TMC出向中 岸奥貴裕
第22製造課 森下義峰
物流課 田村浩司　笠井直樹
第11製造課 山本毅

第12製造課 鈴木克幸
第22製造課 西原隆敏
第11製造課 堀川聖
第12製造課 斉藤雄一
第22製造課 萩大介
品質課 宮﨑翔太　黒川健人　阿部光佑　小山内智之
第12製造課 末岡伸基
物流課 水橋義輝

第12製造課 鈴木純弥
第1設備課 山本龍彦
生産保全支援室 平岡和也
鍛熱プレス課 三浦雅人
第12製造課 村上洋英
品質課 三浦宏之　野呂和明
第12製造課 東野浩司
第12製造課 平野博之　無量谷充　柴田昭雄

経営企画課 佐々木圭吾
第11製造課 菊池淳彦
品質課 松田勲
物流課 中原康則　中山雅人
ダイキャスト課 棟方源太
第12製造課 坂井佑矢
品質課 谷口渉
総務課 西島郁未
第12製造課 松村圭太郎

従業員紹介

Message Zoom

社員が語るTMHのこころ

基本理念 VOL.5

開かれた取引関係を基本に、互いに研究と創造に努め、
長期安定的な成長と共存共栄を実現する

第12製造課 森山春彦
ダイキャスト課 千葉遼平 石山晃宜 瀬川勇志
第22製造課 小松健児
第11製造課 中村浄見
物流課 西村欣也
第12製造課 阿部植人 長澤和博 宮崎忠洋
第21製造課 保田朗 小竹克知

第12製造課 木村聖也 小林一隆
第13製造課 加藤芳彦
第12製造課 山田峻也
第21製造課 鈴木秀太
第12製造課 水正隆徳
物流課 山川洋行
第23製造課 渡辺明夫
第12製造課 高山誠一
第1設備課 葛西貴弘
第13製造課 高野池修

人材開発課 三木田亮
品質課 山内研 東野博美 高野譲二 和田諒二 畔越広樹
第21製造課 樋口務 庄野敦史 長谷川一樹
第22製造課 鹿嶋紳二
物流課 實福猛
第12製造課 中澤文哉
第11製造課 出口哲朗

第14製造課 橋本正典
第12製造課 野々宮将史
物流課 合田一博
第12製造課 棟方竜太
生産管理課 長江由貴 渡邊格 松原理子
総務課 坂口利明
第22製造課 五十嵐光
総務課 大友尚
第1設備課 桑原一善

第22製造課 鴻上憲明
物流課 鶴ヶ崎順生
安全健康推進課 相馬正次
型保全課 井内一真
第12製造課 菖蒲川諭
第11製造課 佐藤昭也
第11製造課 藤原貴洋
第2設備課 嶋田修嘉
品質課 尾形文哉 工藤雄基 斉藤拓光

第13製造課 橋本哲 古河原臣悟 佐藤真吾
第22製造課 大渕頼範
第13製造課 森谷真伍
第1設備課 奥山憲二
第2駆動ユニット製造部 大場充
第14製造課 川田太
人材開発課 山田大輔
型保全課 吉田智博
安全健康推進課 大島潮子

型保全課 工藤堅嗣
第12製造課 高橋洋輔
型保全課 矢野誠一
第13製造課 加藤英一 岩渕元生
総務課 岩館絵美
物流課 大場義寛
第12製造課 諏訪裕次
第12製造課 菅藤友二
安全健康推進課 里吉勉

品質課 安藤泰宏
第12製造課 上田勇太
TMC出向中 岩間謙太
第12製造課 須藤聖幸 清野誠
第12製造課 古谷貴之
総務課 小林玄
総務課 東方優
物流課 島田卓也
第12製造課 工藤秀治 久田裕治

さすが!元バスケット部所属

ジャンプNo.1のTMH人
(2011年ファミリースポーツフェスタ開催記録)

68cm

川島一希さん
(第13製造課・P311G)

練習では3秒を記録するも…

コーラ早飲みNo.1のTMH人
(2011年ファミリースポーツフェスタ開催記録)

6.09秒

浪越貴広さん
(品質課・H231G)

シンプルかつ短いフレーズという作戦勝ち

大声No.1のTMH人
(2011年ファミリースポーツフェスタ開催記録)

100.9dB

細川奏幸さん
(TMC出向中)

従業員紹介

TMHにはあんな特技、こんな能力を持つ人が勢揃い! TMH限定のおもしろ記録、めずらしい記録ホルダーをご紹介しましょう。

生命を救う尊い気持ちです。
そしてなにより健康です!

献血回数の多いTMH人

78回

山口政明さん
(ダイキャスト課・R431G)

頑張る父さん!少子高齢化に貢献!

子どもの人数が多いTMH人

5人

鈴木寛将さん
(第21製造課・Q123G)

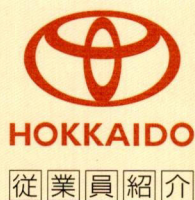
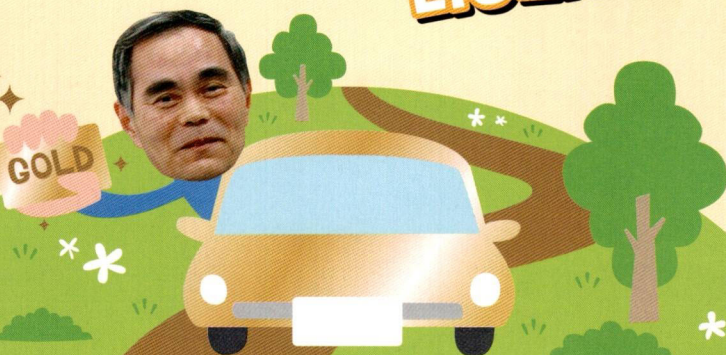
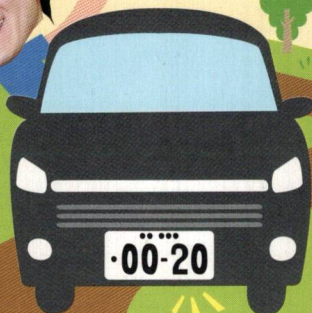
繊細でナイーブ、
与えられた役割をこなすと言われる!?

手が大きいTMH人
(手首と手のひらの境から指先までの長さ測定)

21.3cm

竹田大亮さん
(鍛熱プレス課・T131G)

家族みんなと一緒の食事が幸せのとき!
同居者人数が多いTMH人
8人
佐藤広平さん
(第12製造課・P232G)
長く大事に走っています!
愛車の走行距離数が多いTMH人
25万km
安田雅成さん
(第1設備課・L211G)
ぎねす
【なんでも選手権】
車もバイクも自分の分身のようで…
車の保有台数が多いTMH人
6台(うちバイク2台含む)
山田利忠さん
(第1設備課・L220G)
ハナ
ホシガメ
アメリカザリガニ(ブルー)
スポッテッドガー
ダンゴムシ
タイショウ
I ♥ PET
家族のような恋人のような存在です。
飼っているペットの数が多いTMH人
200匹以上
鶴ヶ﨑順生さん
(物流課・N123G)

HOKKAIDO
TMH
従業員紹介
15画
11画
19画
11画
8画
諏訪邊清和
筆記時間はどれくらいかかるかな?
名前の画数が多いTMH人
64画
諏訪邊清和さん
(第13製造課・P324G)
走ると成人男子でおよそ25分!
通勤距離が最も短いTMH人
4km
古山はるみさん
(第12製造課・P262G)
山田直樹さん
(第22製造課・Q223G)
3画
4画
1画
5画
山中一生
諏訪邊さんの約5分の1です。
名前の画数が少ないTMH人
13画
山中一生さん
(第23製造課・Q301G)
知らず知らずのうちに…
合計20以上の資格を保有するTMH人
26個
山本龍彦さん
(第1設備課・L212G)
LICENSE
右見て左見て、安全確認は怠りません。
無事故・無違反の年数が長いTMH人
38年
篠原善治さん
(品質課・H201G)
GOLD

吉田幸弘さん
（第12製造課・P242G）
後藤元樹さん
（第13製造課・P321G）
洞田康明さん
（第21製造課・Q131G）
石沢　勉さん
（第13製造課・P334G）
奇遇といえば奇遇です。
住所が
○○番地-20
のTMH人
佐藤光博さん
（物流課・N112G）
遠藤厚子さん
（総務課・C100G）
柳田裕介さん
（第21製造課・Q113G）
工藤勝也さん
（第12製造課・P232G）
酒巻育民さん
（第11製造課・P123G）
内沢政樹さん
（第13製造課・P313G）
ぎねす
【なんでも選手権】
アルゼンチンにあるイグアスの滝近くの鳥類博物園でオウムと戯れる社長の田中さん
偶然ですが…
車のナンバーが
20のTMH人
20
川髙達也さん
（第11製造課・P122G）
・00-20
チェコ、スイス、南アフリカ……
旅した海外の国の
数が多いTMH人
26ヶ国
取締役社長 田中義克さん

意外と多い20日生まれの人々です。

誕生日がのTMH人 20日

中村祐太さん
(第13製造課・P311G)

小林義令さん
(第12製造課・P242G)

那須正博さん
(第12製造課・P242G)

HAPPY BIRTHDAY

土本元太郎さん
(品質課・H223G)

千塚純一郎さん
(品質課・H221G)

丸山光司さん
(第13製造課・P335G)

小山和幸さん
(第21製造課・Q133G)

TMH ぎねす【なんでも選手権】

HOKKAIDO 従業員紹介

明治維新の立役者がゴマンといる!

出身地が一番南のTMH人

山下寛二さん
(第11製造課・P113G)

鹿児島県鹿児島市

日本のてっぺん、アイヌ語で「冷たい水の沢」の町でした。

出身地が一番北のTMH人

WAKKANAI

北海道稚内市

柿﨑昌広さん
(第11製造課・P111G)

柳谷里史さん
(第14製造課・P401G)

足が大きいTMH人
(靴のサイズ判定)

BIG FOOT

30cm

知性的で芸術的理解力に優れると言われる!?

米田行伸さん
(第22製造課・Q221G)

やる気と元気がモットーです

鈴木剛司
（生産保全支援室 L011G）

因果応報

工坂純也
（物流課 N122G）

前川哲也
（第11製造課 P101G）

「熱き思い」

斉藤宏行
（第13製造課 P315G）

家族と仕事でお世話になったすべての方に感謝

平松明子
（経営企画課 E400G）

まだまだ『現役』バリバリ！ Try Me（やってみー）精神でガンバです。

大坪勉
（第21製造課 Q111G）

時には馬鹿になろう
真面目だけではつまらない

中村孝丹
（鍛熱プレス課 T132G）

順風逆風日々挑戦

保田朗
（第21製造課 Q122G）

HOKKAIDO

従業員紹介

何ごとも経験。考えて、悩んで、そして楽しんで。

鈴木晴道
（環境技術課 K800G）

常に前向きに自ら行動しよう！（考動）

佐々木一夫
（第12製造課 P222G）

Send a letter 勤続20年 もののふ大集合！

創業時から共に歩んできた トヨタ自動車北海道の 武士【もののふ】たちの想いよ、響け！

励ましあった仲間への感謝の気持ちを忘れずに!!

三好正幸
（第2駆動ユニット製造部 Q001G）

感謝

東京
（型保全課 R511G）

勤続20年。感謝の気持ちを何があっても忘れずに。それは愛

武田浩之
（第23製造課 Q301G）

自分の人生、苦労するほど道が開ける。

若松正彦
（TPS推進室 N000G）

日々進化

細山明
（型保全課 R511G）

今日の努力は明日への成功

武田裕之
（品質課 H230G）

まだまだ折り返し!! 海外支援再チャレンジ!!

kongこと坂本正人
（第22製造課 Q213G）

目標を持って日々努力

谷口康之
（安全健康推進課 C400G）

率先して背中を見せる！

茂木達也
（第1設備課 L211G）

変化のある所には「成長の種」が落ちている

外崎勲
（第11製造課 P123G）

あれからもう二十年 いやいやまだこれから

津田昭人
（第12製造課 P251G）

毎日を大切に!!
健康な体を維持する!!
村上和哉
(第13製造課 P313G)

いつも笑顔で
誰にでも
あいさつを!!
岩瀬万里奈
(第21製造課 Q133G)

夢を叶える為に
日々前進!
高田透
(第1設備課 L223G)

いつも
明るく楽しく元気に
中澤文哉
(第12製造課 P232G)

失敗を恐れず
なんでもチャレンジする
遠藤篤
(品質課 H222G)

は 20才に向けて
た たくさんの事に
ち 挑戦する

久世晴香
(第13製造課 P313G)

HOKKAIDO

従業員紹介

Send a letter

二十歳の誓い大集合!

記念すべき20周年に
20歳を迎えた
若きTMH人の熱い誓い!!

元気で楽しい
人生を過ごすぞ!
(鍛熱プレス課 T121G) 宮本匠矢

失敗は
成功の元
でも失敗はしない!!
石川欽也

(品質課 H243G)

新しい事に
チャレンジ!!
大西宏彰
(型保全課 R511G)

チャレンジ
精神
中村正紘

(第13製造課 P331G)

人に優しく!!
自分にも優しく!?
いや!!厳しく!!
佐藤幸大
(型保全課 R521G)

どんな事も
積極的に
チャレンジ
尾田龍

(第2設備課 L322G)

何事もチャレンジ!!
下野裕修
(第21製造課 Q121G)

未来に向かって
evolve
〜進化する〜
土本光太郎
(第22製造課 Q212G)

20歳になったら何事にも
責任感を持って行動する。
石井洋郎
(物流課 N121G)

二十周年に二十歳になれて
とても光栄です。
がんばります!
酒井亮
(第11製造課 P122G)

トヨタ自動車北海道株式会社

資　料　編

The volume on data

会社概要

商　　号／トヨタ自動車北海道株式会社（TOYOTA MOTOR HOKKAIDO,INC.）

設　　立／1991年2月8日

資 本 金／275億円

株　　主／トヨタ自動車株式会社100%出資

代 表 者／取締役社長　田中　義克

事業内容／自動車部品の製造

生産品目／オートマチックトランスミッション、CVT、トランスファー、鍛造部品

用地面積／103万㎡（約31万坪）

建物面積／30.5万㎡（約9.2万坪）

売 上 高／1,497億円　2012年3月期

従業員数／3,302人　2012年6月1日現在

役員紹介

役職	氏名	役職	氏名
取締役社長	田中義克（タナカ ヨシカツ）	専務取締役	近藤和彦（コンドウ カズヒコ）
常務取締役	中川知行（ナカガワ トモユキ）	取締役	犬塚昌彦（イヌヅカ マサヒコ）
取締役	内藤一徳（ナイトウ カズノリ）	取締役	日根野隆明（ヒネノ タカアキ）
常勤監査役	野間口芳孝（ノマグチ ヨシタカ）	監査役	嵯峨宏英（サガ コウエイ）（非常勤）
監査役	上野彰夫（ウエノ アキオ）（非常勤）		

2012年6月現在

役員在任期間

1991 1992 1993 1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012
豊田 英二 2.8取締役会長 9.24
工藤 末志 2.8取締役社長 6.19顧問 5.20
好川 純一 2.8取締役［非常勤］ 9.23
池永 英夫 2.8監査役 9.24
志茂 昌孝 2.8監査役 9.29
千原 宏介 9.29専務取締役 6.23取締役副社長 12.16
高木 勇 9.29取締役 6.26常務取締役 8.24
石橋 弘次 9.29取締役 6.28常務取締役 6.19専務取締役 6.21取締役副社長 6.11顧問 6.8
大塚 建男 9.29常勤監査役 6.26顧問 6.19
大西 利美 9.24取締役［非常勤］ 6.26
荒木 隆司 9.24監査役 6.19
池渕 浩介 9.23監査役 6.16
佐藤 昌治 1.1常務取締役 6.26専務取締役 6.21顧問 6.16
加藤 由人 6.26取締役［非常勤］ 6.19
横山 明 6.28取締役 6.21常務取締役 6.20専務取締役 6.17常勤監査役 6.11顧問 6.10
寺島 泰彦 6.28取締役 6.21常務取締役 6.20専務取締役 6.11顧問 6.10
竹花 奎一 6.26常勤監査役 6.17常勤顧問 6.11顧問 6.10
眞野 正俊 6.19取締役 6.20常務取締役 6.15専務取締役 6.8顧問
鈴木 武 6.19監査役 6.17
狩野 耕 6.19取締役副社長 6.19取締役社長 6.20
井川 正治 6.19取締役［非常勤］ 6.21
吉田 誠一 6.19取締役 6.15常務取締役 6.10顧問 6.8
田中 義克 6.21取締役［非常勤］ 6.20取締役社長
佐々木 健太郎 6.21取締役 6.17顧問 6.15
白井 芳夫 6.16監査役 6.19
葉山 稔樹 6.20取締役［非常勤］ 6.15
近藤 和彦 6.19取締役 6.11常務取締役 6.8専務取締役
中川 知行 6.19取締役 6.10常務取締役
吉田 健 6.19監査役 6.17
齋藤 均 6.17取締役 6.8顧問
市橋 保彦 6.17監査役 6.15
唐澤 敬 6.17監査役 1.14
井上 洋一 6.15取締役［非常勤］ 6.10
犬塚 昌彦 6.15取締役
嵯峨 宏英 6.15監査役
工藤 正 6.11常勤監査役 6.8
上野 彰夫 1.14監査役
内藤 一徳 6.8取締役
日根野 隆明 6.8取締役
野間口 芳孝 6.8常勤監査役

組織図

協議会 委員会

協議会・委員会名	開催頻度	発足日
労使協議会	1回/年	1992年 3月31日
労使懇談会	2回/年	1992年11月24日 ※第1回開催日
時間検討委員会	不定期/随時	1993年 4月30日
安全衛生委員会	1回/月	1992年 6月 1日
行動指針委員会	2回/年	1998年12月16日
情報管理委員会	2回/年	2000年12月 1日
技術開発委員会	6回/年	2002年 4月 1日
生産説明会	1回/月	1992年 5月26日
創意くふう委員会	1回/月	1994年 2月 1日
環境委員会	3回/年	1998年 7月 1日
人材育成委員会	不定期/随時	2003年 6月 1日
防災管理委員会	2回/年	2010年 4月 1日

2012年4月1日付

売上

（売上高：億円）
2,000
1,500
1,000
500
0
オートマチックトランスミッション
トランスファー
アルミホイール
アルミホイール
A541
トランスファー
U340
第1ライン
U340
第2ライン
U660
K310
U340
第3ライン
93
94
95
96
97
98
99
00
01
02
03
04
05
06
07
08
09
10
11
12
（年）

従業員数

（人）
4,000
3,500
3,000
2,500
2,000
1,500
1,000
500
0
出身地別人員（北海道出身94%）
東北
1%
その他
5%
その他の道内
16%
空知管内
5%
石狩管内
14%
胆振管内
59%
平均年齢…34.4歳
63
410
547
611
607
686
811
891
1,338
1,498
1,424
1,653
1,862
2,396
2,649
2,908
3,498
3,354
3,192
3,226
3,302
92
93
94
95
96
97
98
99
00
01
02
03
04
05
06
07
08
09
10
11
12
（年）

生産実績

■オートマチックトランスミッション・CVT

■トランスファー

■アルミホイール

製品出荷先

海外
（国・地域）

トヨタ自動車北海道

TMMUK：イギリス
TMMR：ロシア
TMMT：トルコ
TFTM：中国（天津）
SFTM：中国（四川）
GTMC：中国（広州）
IMC：パキスタン
TMT：タイ
國端：台湾
TKM：インド
TMP：フィリピン
TMV：ベトナム
ASSB：マレーシア
TMMIN：インドネシア
TSAM：南アフリカ
TMCA：オーストラリア
（部品）
TMMC：カナダ
TMMI：アメリカ（インディアナ州）
TMMK：アメリカ（ケンタッキー州）
TMMWV：アメリカ（ウエストヴァージニア州）
TMMS：アメリカ（ミシシッピ州）
TMMTX：アメリカ（テキサス州）
TMMBC：メキシコ
TDV：ベネズエラ
TDB：ブラジル
TASA：アルゼンチン

国内

トヨタ自動車北海道

トヨタ自動車東日本：宮城県
日野自動車：東京都
トヨタ自動車九州：福岡県
ダイハツ工業：京都府
トヨタ自動車：愛知県
豊田自動織機：愛知県
トヨタ車体：愛知県・三重県

オートマチックトランスミッション・CVT
トランスファー

調達

■自動車の部品および設備・資材

（億円）

年	道外	道内	合計
93	153	43	196
94	146	62	208
95	210	95	305
96	307	106	414
97	314	137	451
98	396	233	629
99	421	163	584
00	595	194	789
01	596	230	826
02	712	214	926
03	702	165	867
04	710	254	964
05	832	381	1,213
06	991	323	1,314
07	1,135	394	1,529
08	1,088	345	1,433
09	964	274	1,238
10	942	290	1,232
11	913	284	1,197

93/6 A/T（A541）ラインオフ
94/11 T/Fラインオフ
99/7 A/T（U340）ラインオフ
05/12 A/T（U660）ラインオフ
06/9 CVT（K310）ラインオフ

年表［1990-1992］

西暦	元号	月	トヨタ自動車北海道の動き	トヨタ自動車の動き	社会の動き
1990	平成2年	2月	●トヨタ自動車（株）苫小牧市への進出発表	●カローラ生産累計1,500万台達成（6月） ●アムラックス東京オープン（9月） ●セラ（3月）、エスティマ（5月）発表	●黒澤明監督、アカデミー賞特別名誉賞受賞 ●国際花と緑の博覧会開催（大阪） ●天皇、即位の礼で即位を宣言 【流行語】ファジィ、オヤジギャル、アッシーくん、バブル経済
1991	平成3年	2月 3月 4月 5月 8月 9月 10月 12月	2月 ●トヨタ自動車北海道（株）設立 ●取締役社長に工藤末志氏が就任 3月 ●工場用地（勇払）、独身寮用地（美園町）取得 4月 ●原動力棟着工 5月 ●工場建設地鎮祭 ●第1、第2工場着工 8月 ●第3工場着工 9月 ●信頼性試験棟、浄水場着工 10月 ●保安センター、寮着工 12月 ●高丘社宅用地取得	●VWと日本国内での販売提携に合意（7月） ●米合弁会社（NUMMI）で小型トラックの生産開始（9月） ●山梨事業所操業開始（10月） ●サイノス（1月）、ウィンダム（9月）、アリスト（10月）発表	●湾岸戦争勃発 ●田部井淳子さん、女性初の6大陸最高峰全制覇 ●若貴ブーム、横綱千代の富士関引退 ●長崎・雲仙普賢岳大火砕流発生 ●ソ連崩壊 ●経企庁、「いざなぎ景気」を超えたと発表 【流行語】…じゃあーりませんか、若・貴
1992	平成4年	3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月	3月 ●2号館着工 ●労働組合結成 4月 ●第1回入社式 ●保安センター竣工 5月 ●第2工場竣工 6月 ●第2工場溶解炉稼働開始 ●第1回大安全大会 ●本館着工 7月 ●浄水場竣工 8月 ●クレール美園寮竣工式 9月 ●第1工場竣工 ●第2工場安全祈願祭 10月 ●2号館完成 ●従業員食堂オープン ●アルミホイールラインオフ式 ●アルミホイール初荷祝い式 11月 ●第1工場浸炭炉稼働開始 12月 ●アルミホイール生産累計2万本達成 ●クレール美園寮全棟完成	●「トヨタ基本理念」発表（1月） ●「トヨタ地球環境憲章」制定（1月） ●Toyota Motor Manufacturing（UK）Ltd.（TMUK・英国）生産開始（8月） ●取締役社長に豊田達郎氏が就任（9月） ●Toyota Autoparts Philippines Inc（TAP・フィリピン）生産開始（9月） ●トヨタ自動車九州（株）操業開始（12月） ●セプター（9月）、カルディナ（11月）発表	●アルベールビル冬季オリンピックでスピードスケート日本女子初の銅メダル（橋本聖子さん）獲得 ●国土庁、公示地価が17年ぶりに下落と発表 ●育児休業法施行 ●ボスニアで民族衝突激化 ●ブラジル・リオデジャネイロで地球環境サミット開幕 ●山形新幹線「つばさ」開業 ●佐川急便事件で衆議院議員辞職 ●自衛隊のカンボジア派遣部隊第1陣出発 ●学校週5日制スタート（月1回） ●宇宙飛行士毛利衛さんスペースシャトルで宇宙へ ●米大統領選でクリントン氏圧勝、民主党政権へ 【流行語】きんさん・ぎんさん、ほめ殺し、冬彦さん、カード破産、もつ鍋

年表 [1993-1995]

西暦	元号	月	トヨタ自動車北海道の動き	トヨタ自動車の動き	社会の動き
1993	平成5年	1月	●苫豊会・職制会発足 ●第3工場竣工	●Bodine Aluminum, Inc（BODINE・米国）生産開始（1月）	●初のプロサッカー・Jリーグが開幕
		3月	●第3工場溶解炉稼働開始	●Indus Motor Compam Ltd.（IMC・インド）生産開始（3月）	●皇太子徳仁親王と小和田雅子さん、結婚の儀
		5月	●本館完成	●アムラックス大阪オープン（7月）	●北海道南西沖地震発生（M7.8）
		6月	●A541オートマチックトランスミッションラインオフ式	●セプタークーペ（9月）発表	●自民党1党支配崩壊、8党派連立の内閣発足
		8月	●とまこまい港まつり市民おどりパレード初参加		●東京湾のレインボーブリッジ開通
		9月	●竣工式 ●竣工記念行事 （植樹、工場見学会、野外バーベキュー） ●高丘社宅着工		●白神山地、屋久島、法隆寺、姫路城が日本初の世界遺産に登録
		11月	●安全衛生協力会発足		【流行語】Jリーグ、サポーター、規制緩和、清貧、天の声
1994	平成6年	1月	●創意くふう提案制度スタート	●米ケンタッキー第2工場生産開始（3月）	●経団連会長に豊田章一郎会長が選出
		3月	●高丘社宅完成	●産業技術記念館オープン（6月）	●ニューヨークの外為市場で戦後初の100円割れ
		4月	●オートマチックトランスミッション生産累計10万台、アルミホイール生産累計50万本達成	●豊田英二名誉会長が米国の自動車殿堂入り（9月）	●日本初の女性宇宙飛行士・向井千秋さん誕生
		6月	●会社グラウンド造成着工 ●工場一般公開スタート	●Toyota Motor Manufacturing Turkey Inc.（TMMT・トルコ）生産開始（9月）	●松本サリン事件発生
		8月	●第1回QC社内発表会開催	●カレン（1月）、RAV4L・RAV4J（5月）発表	●関西国際空港開港
		9月	●創立記念式典 ●第1回社内大運動会開催		●北海道東方沖地震発生（M8.1）
		11月	●トランスファーラインオフ式		●大江健三郎さんノーベル文学賞受賞
					【流行語】同情するならカネをくれ、イチロー効果、価格破壊、ヤンママ
1995	平成7年	1月	●安全総決起集会	●日野・ダイハツとの3社間でトラックなどの相互供給に調印（4月）	●阪神・淡路大震災発生（M7.2）
		4月	●アルミホイール生産累計100万本達成記念式	●取締役社長に奥田碩氏が就任（8月）	●野茂英雄投手が米・ドジャースに入団
		5月	●記念植樹式（緑ヶ丘公園） ●ゼロ災キックオフ式実施	●アバロン（5月）、グランビア（8月）、トヨタキャバリエ（10月）、クラウン・コンフォート（12月）発表	●地下鉄サリン事件発生
		6月	●新苫豊会発足 ●工場見学来場者1万人達成		●オウム真理教施設強制捜査、幹部逮捕
		7月	●名古屋グランパスエイト、苫小牧で合宿小学生サッカースクール開催		●国松孝次警察庁長官狙撃、重傷
		8月	●TMCへの出向者全員帰任		●日銀が公定歩合0.75%引き下げ、年1.0%に
		10月	●新トランスファーラインオフ式 ●全社避難訓練実施		●完全失業率3.2%となり1953年以来最悪を記録
		11月	●第1工場浸炭3号炉稼働開始		●全日空機ハイジャック事件、函館で逮捕
		12月	●TMC社内駅伝大会に初参加 ●吹雪の影響で操業日振替		●ウインドウズ95発売、全世界で大ヒット
					●高速増殖炉もんじゅでナトリウム漏れ事故
					【流行語】無党派、NOMO、官官接待

年表 [1996-1999]

西暦	元号	月	トヨタ自動車北海道の動き	トヨタ自動車の動き	社会の動き
1996	平成8年	2月 3月 5月 7月 10月	●第2工場溶解3号炉稼働開始 ●A541商品競争力向上委員会TMHワーキンググループ発足 ●3製品生産累計達成式（オートマチックトランスミッション50万台、トランスファー10万台、アルミホイール150万本） ●PMF（パシフィック・ミュージック・フェスティバル）苫小牧公演協賛 ●コミュニケーションタイムスタート ●高丘グラウンド着工	●（株）コンポン研究所設立（6月） ●Toyota Motor Vietnam Co., Ltd.（TMV・ヴェトナム）生産開始（8月） ●メガクルーザー（1月）、イプサム（5月）、コースターR（5月）発表	●北海道・豊浜トンネル岩盤崩落 ●将棋の羽生善治名人、史上初の7冠独占を達成 ●菅直人厚相、薬害エイズ問題で血友病患者に謝罪 ●病原性大腸菌O-157による集団食中毒発生 ●ペルー日本大使公邸人質事件 【流行語】メークドラマ、自分で自分をほめたい、チョベリバ、チョベリグ
1997	平成9年	2月 4月 5月 8月 11月	●高丘グラウンド完成 ●TMHメセナ活動委員会設立 ●第2工場高鋳4号機稼働開始 ●第3工場アルミホイール入子型加工ライン起動式 ●第1回トヨタ北海道カップジュニアサッカー大会 ●アルミホイール初の月産10万本達成	●Toyota Argentina S.A.（TASA・アルゼンチン）生産開始（3月） ●ハイエースレジアス（現・レジアス）（4月）、ラウム（5月）、プリウス（10月）、ハリアー（12月）発表	●オレンジ共済組合巨額詐欺事件 ●消費税3%から5%に引き上げ ●香港、英国から中国に返還 ●ダイアナ元英皇太子妃交通事故死 ●北海道拓殖銀行破たん 【流行語】失楽園、たまごっち、パパラッチ、時のアセス
1998	平成10年	1月 2月 3月 5月 9月 10月	●札響苫小牧定期演奏会協賛 ●3製品生産累計達成式（オートマチックトランスミッション100万台、トランスファー50万台、アルミホイール300万本） ●浸炭焼入れ1・6号炉稼働開始 ●苫小牧・カナダ少年アイスホッケー交流試合開催 ●トランスファー2次ラインラインオフ式 ●2,300tトランスファープレス起動式 ●U340オートマチックトランスミッションライン新設工事安全祈願 ●ISO14001認証取得活動全社集会 ●環境講演会開催 ●第1回社内駅伝開催	●天津豊津汽車伝動部有限会社（TFAP・中国）生産開始（5月） ●トヨタ自動車東北（株）生産操業開始（7月） ●天津トヨタ自動車エンジン有限会社生産操業開始（7月） ●トヨタオート店、社名をネッツトヨタに変更（8月） ●Toyota Motor Manufacturing West Virginia（TMMWV・米国）生産操業開始（11月） ●天津トヨタ自動車鍛造部品有限会社（TTFC・中国）生産開始（12月） ●プログレ（5月）、ガイア（5月）、ナディア（8月）、デュエット（9月）、アルテッツァ（10月）発表	●第18回冬季オリンピック長野大会開催 ●郵便番号7桁制実施 ●韓国大統領に金大中氏就任 ●明石海峡大橋開通 ●インド、パキスタンが核実験 ●金融監督庁発足 ●和歌山カレー毒物事件 ●特定非営利活動促進法（NPO法）施行 【流行語】だっちゅーの、老人力、貸し渋り、凡人・軍人・変人
1999	平成11年	6月 7月 8月 11月	●ISO14001認証登録 ●U340オートマチックトランスミッションラインラインオフ式 ●第1工場浸炭6号炉稼働開始 ●トランスファー生産累計100万台達成 ●従業員1,000名突破 ●第3工場切粉溶解炉稼働開始 ●無災害記録200万時間達成	●MEGA WEB（メガウェブ）オープン（1月） ●Toyota Motor Manufacturing Indiana（TMMI・米国）生産開始（2月） ●取締役社長に張富士夫氏が就任（6月） ●ニューヨーク・ロンドン株式上場（9月） ●米GMと環境先進技術の共同研究・開発で合意と発表（10月） ●トヨタ・キルロスカ・モーター社生産操業開始（12月）	●臓器移植法施行後、初の脳死移植手術実施 ●日銀、短期金融市場の金利をゼロに ●能登半島沖の日本領海内で不審船事件 ●男女雇用機会均等法施行 ●育児・介護休業法施行

年表 [1999-2001]

西暦	元号	月	トヨタ自動車北海道の動き	トヨタ自動車の動き	社会の動き
1999	平成11年			●四川トヨタ自動車有限会社(CKD・中国)生産開始(12月) ●ヴィッツ(1月)、キャミ(5月)、プラッツ(8月)、ファンカーゴ(8月)、MR-S(10月)発表	●ロボット犬アイボ発売、話題に ●携帯・PHS加入台数5,000万台突破 ●茨城県東海村で国内初の臨界事故発生 ●マカオ、ポルトガルから中国に返還 【流行語】ブッチホン、リベンジ、カリスマ、学級崩壊
2000	平成12年	3月	●アルミホイール生産累計500万本達成 ●全社安全総決起集会 ●A541オートマチックトランスミッション増産で3組2交代制勤務導入	●日野自動車への出資率を20.1%から33.8%に引き上げを発表(3月) ●WiLL Vi(1月)、bB(2月)、プロナード(4月)、オーパ(5月)、クルーガーV(11月)発表	●北海道有珠山が約23年ぶりに噴火 ●雪印乳業製乳製品で集団食中毒発生 ●沖縄県で第26回先進国首脳会議開催 ●白川英樹さんノーベル化学賞受賞 ●宮城県前期旧石器時代遺跡で発掘捏造発覚 【流行語】おっはー、IT革命、最高で金 最低でも金、ジコチュー、パラパラ
		9月	●女子アイスホッケーチーム「トヨタシグナス」を後援		
		10月	●工場見学来場者5万人達成		
		11月	●生産部環境改善室原動力係「エネルギーマンサークル」第30回全日本選抜QCサークル大会に出場		
2001	平成13年	2月	●苫小牧市新世紀記念事業で田村亮子さん来苫	●Toyota Motor Manufacturing France S.A.S(TMMF・フランス)生産開始(1月) ●GMとエクソンモービルとで燃料電池車の共同開発に合意と発表(1月) ●日野自動車(株)の子会社化を発表(8月) ●アレックス(1月)、カローララングス(1月)、WiLL VS(4月)、ブレビス(6月)、エスティマハイブリッド(6月)、ヴェロッサ(7月)、ヴォクシー(11月)、ノア(11月)、アリオン(12月)発表	●中央省庁再編、1府12省庁スタート ●ハワイ沖で高校実習船が米原子力潜水艦と衝突、沈没 ●サッカーくじ「toto」販売開始 ●札幌ドームオープン ●大型国産ロケットH2A打ち上げ成功 ●米同時多発テロ発生 ●牛海綿状脳症(BSE)感染牛が国内初確認 ●米国、アフガニスタン空爆開始 ●野依良治さんノーベル化学賞受賞 ●皇太子妃、内親王(愛子さま)を出産 【流行語】聖域なき改革、明日があるさ、狂牛病、塩爺
		3月	●売上高1,000億円達成 ●ゼロエミッション達成(埋立廃棄物ゼロ)		
		4月	●第1回ハスカップ杯アイスホッケー定期戦スタート		
		5月	●食堂リニューアルオープン(カフェテリア方式導入) ●インラインスケート場利用開始		
		7月	●第1工場・第2工場増築工事安全祈願式		
		9月	●近隣企業8社とゼロエミッションネットワーク活動スタート		
		10月	●天然ガス導入工事スタート ●サッカー同好会北海道2部リーグへ昇格		
		11月	●厚生センター起工式		

年表 [2002-2004]

西暦	元号	月	トヨタ自動車北海道の動き	トヨタ自動車の動き	社会の動き
2002	平成14年	1月	●天然ガス使用開始 ●生産部 環境・改善室 原動力係、省エネルギー優秀事例全国大会で経済産業大臣賞受賞	●リクルートと共同で人材育成会社（株）オージェーティーソリューションズを設立（4月） ●Toyota Motor Manufacturing Poland SP.zo.o（TMMP・ポーランド）生産開始（4月） ●三菱商事と地域医療支援事業の新会社（株）グッドライフデザインを設立（6月） ●北米でのトヨタ車生産累計1,000万台達成（7月） ●トヨタFCHV限定販売計画の前倒しを発表（7月） ●Toyota Kiroskar Auto Parts Private Ltd.（TKAP・インド）設立・生産開始（7月） ●中国第一汽車集団公司と中国における共同事業に関する基本契約に調印（8月） ●天津トヨタ自動車有限会社生産開始（10月） ●イスト（5月）、アルファード（5月）、プロボックス（7月）、サクシード（7月）、ヴォルツ（8月）、WILLサイファ（10月）発表	●EU加盟12カ国で統一通貨ユーロ流通開始 ●雪印食品偽装牛肉事件発覚（4月同社解散） ●ブッシュ米大統領がイラク、イラン、北朝鮮を“悪の枢軸”と非難 ●新学習指導要領導入により「ゆとり教育」スタート ●21世紀初の独立国家東ティモール民主共和国誕生 ●落語界初の人間国宝柳家小さんさん死去（87歳） ●日本経済団体連合会設立 ●日韓共催のサッカーW杯開催 ●小泉首相、北朝鮮訪問、日朝平壌宣言に署名 ●北朝鮮拉致被害者5人帰国、日本に永住 ●東北新幹線（盛岡ー八戸間）開通 ●小柴昌俊さん、田中耕一さんノーベル化学賞ダブル受賞 【流行語】タマちゃん、W杯、内部告発、ベッカム様、声に出したい日本語
		4月	●技術委員会発足 ●第1工場浸炭7号炉稼働開始		
		5月	●U340オートマチックトランスミッション第2ラインラインオフ式 ●はすかっぷホール（厚生センター）竣工		
		6月	●創業10周年記念工藤末志社長講演会開催 ●第2工場アルミホイールTDPライン稼働開始 ●はすかっぷホール落成記念フェスティバル開催		
		8月	●トランスファー新ラインラインオフ式 ●創業10周年記念でクラシックカーフェスティバル開催 ●創業10周年記念で絵画展「印象派とその歩み展」開催 ●経済特別講演会でトヨタ自動車（株）張富士夫社長ご講演		
		9月	●創立記念式典 ●創業10周年記念時計塔除幕式（トヨタ自動車北海道労働組合との共同建設） ●創業10周年記念パーティー ●無災害記録390万時間達成 ●アルミホイール生産累計800万本達成		
		10月	●従業員1,600名体制		
2003	平成15年	1月	●天然ガス導入完了	●レクサスブランドを国内へ導入、併せてチャネル再編を発表（2月） ●住宅販売会社「トヨタホーム（株）」を設立（4月） ●Toyota Motor Manufacturing, Alabama, Inc（TMMAL・米国）生産開始（4月） ●P.T. Astra Daihatsu Motor（ADM・インドネシア）トヨタ車生産開始（12月） ●ウィッシュ（1月）、シエンタ（9月）、アベンシス（10月）発表	●米・英軍イラクに侵攻（4月フセイン体制崩壊） ●日本郵政公社発足 ●欧州各地で異常熱波、推計3,000人以上死亡 ●住民基本台帳ネットワーク本格稼働 ●イラクで日本大使館員2人殺害 ●戦地イラクへ自衛隊派遣 【流行語】バカの壁、なんでだろう〜、へぇ〜、毒まんじゅう、マニフェスト
		6月	●取締役社長に狩野耕氏が就任 ●TMH安全衛生協力会10周年記念植樹		
		7月	●U340オートマチックトランスミッション生産累計200万台達成		
		11月	●アルミホイール生産累計1,000万本達成		
2004	平成16年	2月	●省エネルギー・新エネルギー促進大賞（北海道知事賞）受賞	●ネッツ店とビスタ店を融合し、新「ネッツ店」スタート（5月） ●IMVシリーズ第1弾「ハイラックスVIGO」発表（タイ）（8月） ●Toyota Motor Manufacturing de Baja California,S de R. L. De C. V.（TMMBC・メキシコ）生産開始（9月）	●山口県で鳥インフルエンザ発生 ●芥川賞金原ひとみさん20歳、綿矢りささん19歳最年少受賞 ●第86回全国高校野球選手権で駒大苫小牧優勝 ●新潟県中越地震発生（M6.8）
		4月	●500tプレス機　号口生産開始		
		5月	●オートマチックトランスミッション生産累計500万台達成 ●BTHライン稼働開始		
		8月	●TMH新協力会「勇豊会」設立		

年表 [2004-2006]

西暦	元号	月	トヨタ自動車北海道の動き	トヨタ自動車の動き	社会の動き
2004	平成16年	9月 10月 11月	●第4工場着工 ●トヨタの森造成 ●第3工場増築工事開始	●トヨター汽（天津）金型有限会社（TFTD・中国）生産開始（12月） ●一汽トヨタ（長春）エンジン有限会社（FTCE・中国）生産開始（12月） ●パッソ（6月）、ポルテ（7月）、アイシス（9月）、マークX（11月）発表	●新紙幣3種発行、野口英世、樋口一葉の肖像登場 ●スマトラ沖で大地震（M9.0）、インド洋大津波発生 ●オレオレ詐欺多様化、振り込め詐欺に 【流行語】チョー気持ちいい、負け犬、冬ソナ、気合いだー!、セカチュー
2005	平成17年	3月 4月 5月 11月 12月	●愛・地球博見学ツアー「トヨタ少年少女記者団」実施 ●第4工場焼入炉稼働開始 ●アルミホイールレクサスライン（IS）ラインオフ ●ユニット生産累計1,000万台達成 ●第4工場完成・第3工場増築記念竣工式	●広汽トヨタエンジン有限会社（GTE・中国）生産開始（1月） ●Toyota Peugeot Citroën Automobile Czech,s.r.o（TPCA・チェコ）生産開始（2月） ●愛・地球博にトヨタグループ館出展（3月～9月） ●Toyota Motor Industries Poland SP.zo.o（TMIP・ポーランド）生産開始（3月） ●「トヨタ白川郷自然学校」が開校（4月） ●取締役社長に渡辺捷昭氏が就任（6月） ●レクサス全国で開業（8月） ●富士重工業（株）と業務提携に向けて基本合意（10月） ●ハリアーハイブリッド（3月）、クルーガーハイブリッド（3月）、GS430（7月）、SC430（7月）、IS350/250（7月）、ラクティス（10月）、ベルタ（11月）発表	●温暖化防止「京都議定書」発効 ●中部国際空港「セントレア」開港 ●愛・地球博（愛知万博）開幕 ●個人情報保護法全面施行 ●ペイオフ全面解禁 ●JR福知山線脱線事故（死者107人、約550人負傷） ●プロ野球初のセ・パ交流戦開始 ●政府推奨のクールビズ開始 ●ロンドン同時爆破テロ、死者56人 ●知床が世界自然遺産に登録 ●日本道路公団分割民営化、高速道路会社発足 ●耐震強度偽造発覚 【流行語】小泉劇場、想定内、フォー!、萌え～、クールビズ、刺客
2006	平成18年	3月 5月 6月 7月 9月 12月	●A541生産終了 ●モノづくり技術センター竣工 ●第5工場新築工事竣工 ●取締役社長に田中義克氏が就任 ●工場見学来場者10万人達成 ●工場見学展示パートナーロボット・i-unit 導入 ●CVT（K310）ラインオフ ●コージェネ発電起動	●広州トヨタ自動車有限会社（GTMC・中国）生産開始（5月） ●Toyota Motor Manufacturing,Texas, Inc.（TMMTX・米国）生産開始（11月） ●ラッシュ（1月）、GS450h（9月）、LS460（9月）、カローラアクシオ（10月）、オーリス（10月）、ブレイド（12月）発表	●東京三菱銀行とUFJ銀行合併、世界最大の銀行に ●第1回WBC（WORLD BASEBALL CLASSIC）日本優勝 ●全国19社会保険事務所で国民年金保険料の無断免除・猶予が発覚 ●パロマ・ガス湯沸かし器一酸化炭素中毒事故発生 ●日本銀行、5年4ヶ月ぶりにゼロ金利解除 ●秋篠宮妃が親王（悠仁さま）を出産 ●北海道日本ハムファイターズ44年ぶりに日本一 【流行語】欧米か!、イナバウアー、ハンカチ王子

年表［2007-2010］

西暦	元号	月	トヨタ自動車北海道の動き	トヨタ自動車の動き	社会の動き
2007	平成19年	4月 5月 9月 10月 11月	●第5工場冷間ロールラインオフ ●TMMWV向けオートマチックトランスミッション部品生産開始 ●全社建物内の禁煙 ●創業15周年、創立記念式典 ●創業15周年記念事業「エコール・ド・パリ～パリを愛した画家たち展～」開催 ●トランスファー生産累計500万台達成	●Subaru of Indiana Automotive,Inc.(SIA)トヨタカムリ生産開始（2月） ●インドでトヨタ工業技術学校を開校（8月） ●TOYOTA MOTOR MANUFACTURING RUSSIA（TMMR・ロシア）生産開始（12月） ●LS600h/600hL（5月）、ヴァンガード（8月）、マークXジオ（9月）、IS F（10月）、カローラルミオン（10月）発表	●不二家、赤福、船場吉兆など食品偽装事件相次ぐ ●北海道夕張市が財政再建団体に ●新潟県中越沖地震発生（M6.8） ●第21回参議院議員選挙で与党惨敗 ●米国でサブプライムローン問題深刻化 ●郵政事業民営化開始 【流行語】どげんかせんといかん、そんなの関係ねぇ!、どんだけぇ～
2008	平成20年	3月 5月 6月 7月 9月 10月	●第5工場コンパクトホットフォーマーラインオフ式 ●U340 3次ライン ラインオフ式 ●第1回TMHサプライヤーズアワード開催 ●第5工場竣工記念式典 ●安全・技能道場開所式 ●20周年スローガン「夢と笑顔のTMH 未来に向けてチャレンジ20!!」に決定 ●2号館2階事務所リニューアル ●第1回植樹祭開催	●プリウス累計販売台数が100万台を突破（4月） ●クラウンハイブリッド（2月）、ヴェルファイア（5月）、iQ（10月）、パッソセッテ（12月）発表	●中国製ギョーザで食中毒発生 ●海上自衛隊イージス護衛艦、漁船衝突事故 ●後期高齢者医療制度スタート ●秋葉原無差別殺傷事件 ●北海道洞爺湖で第34回主要国首脳会議開催 ●リーマンショック、世界同時株安に ●初のアフリカ系バラク・オバマ氏が米大統領就任 【流行語】アラフォー、グ～!、言うよね～、AKB48、上野の413球
2009	平成21年	5月 8月 9月	●リーマンショックの影響による急激な生産変動に伴い、稼働調整を実施 ●「発見!!体験!!夏休みトヨタ北海道冒険エコツアー」開催 ●工場見学来場者15万人突破	●取締役社長に豊田章男氏が就任（6月） ●（株）トヨタマーケティングジャパンを設立（10月） ●F1からの撤退を発表（11月） ●（株）トヨタモーターセールス&マーケティングを設立（12月） ●PT. Hino Motors Manufacturing Indonesia（HMMI・インドネシア）トヨタ車生産開始（12月） ●RX450h/RX350（1月）、IS250C（5月）、HS250h（7月）、LFA（10月）、SAI（12月）発表	●裁判員制度開始 ●衆院選で民主党が大勝、政権交代へ ●行政刷新会議による事業仕分け開始 【流行語】政権交代、草食男子、派遣切り、歴女、こども店長
2010	平成22年	2月 4月 5月	●当社の「デイ・ライト」活動に苫小牧警察署長より感謝状 ●「Thomas（トーマス）」全社Web掲示板運用開始 ●北海道機械工業会会長に田中義克社長が就任	●トヨタとマツダ、ハイブリッドシステムの技術ライセンス供与に合意（3月） ●電気自動車開発で米国カリフォルニア州のテスラと提携を発表（5月） ●プリウスの全世界累計販売台数200万台突破（9月）	●ドバイに世界一超高層ビル完成（高さ828m） ●上海国際博覧会（上海万博）開幕 ●サッカーW杯アフリカ大会で日本代表善戦（ベスト16）

年表［2010-2012］

西暦	元号	月	トヨタ自動車北海道の動き	トヨタ自動車の動き	社会の動き
2010	平成22年	7月 11月	●アルミホイール生産終了式典 ●雪冷房システム稼働開始 ●「武田塾」第40回記念全日本選抜QCサークル本部長賞大会にて金賞受賞	●トヨタとトヨタホーム住宅事業をトヨタホームに統合（10月） ●先進のエネルギー管理システム「トヨタスマートセンター」開発を発表（10月） ●研究会社トヨタ自動車研究開発センター有限会社（TMEC・中国）設立（11月） ●FJクルーザー（11月）発表	●尖閣諸島付近で中国漁船が海上保安庁巡視船に衝突 ●割引郵便制度事件で厚労省村木厚子局長に無罪判決、大阪地検特捜部の証拠品改ざん発覚 ●チリ・サンホセ鉱山で落盤事故、33人無事救出 【流行語】ゲゲゲの、イクメン、女子会
2011	平成23年	2月 3月 4月 11月	●ユニット生産累計2,000万台達成 ●東日本大震災（3月11日発生）への物資支援活動を開始 ●新規Projectアイデアコンクール ●日本EVフェスティバル「MR-e」が59分耐久レースにて優勝	●トヨタグローバルヴィジョン発表（3月） ●東日本大震災への支援活動「ココロハコブプロジェクト」発足（6月） ●Toyota Motor Manufacturing Mississippi,Inc（TMMMS・米国）生産開始（10月） ●BMWグループとトヨタ、次世代環境車・環境技術における中期的な協力関係の構築に向けた覚書に調印（12月） ●レクサスCT200h（1月）、プリウスα（5月）、新型軽乗用車ピクシス スペース（9月）、プリウスプラグインハイブリッド（11月）、新型軽商用車ピクシス バン・ピクシス トラック（12月）、アクア（12月）発表	●東日本大震災（M9.0）、福島原発事故発生 ●九州新幹線（新八代ー博多間）開業 ●第6回女子サッカーW杯で日本代表初優勝 ●地上デジタル放送（東北3県除く）開始 ●オリンパス粉飾決算発覚 ●日本各地で皆既月食観測 【流行語】なでしこジャパン、スマホ、どや顔、どじょう内閣、帰宅難民
2012	平成24年	2月 7月 9月	●U340オートマチックトランスミッション生産累計1,000万台達成 ●創業20周年記念絵画展「光から夢をたどって～印象派からエコール・ド・パリまで～」開催 ●創立記念式典 ●創業20周年記念モニュメント除幕式（トヨタ自動車北海道労働組合との共同建設） ●創業20周年記念「感謝の会」開催	●ハイブリッド車の累計販売台数が400万台を突破（4月） ●Arab South Africa Motors（Pty）Ltd.（AAV・エジプト）IMV4（フォーチュナー）生産開始（4月） ●米国テスラモーターズ社と共同開発の電気自動車RAV4 EV（5月）発表 ●関東自動車工業（株）・セントラル自動車（株）・トヨタ自動車東北（株）が合併し、トヨタ自動車東日本（株）が誕生、取締役社長に白根武史氏が就任（7月） ●86（ハチロク）（2月）、新型軽自動車ピクシス エポック（5月）発表	●復興庁発足 ●自立式鉄塔世界一高さ634m東京スカイツリー完成 ●日本で金環日食観測

出　典／■別冊朝日年鑑「早わかり20世紀年表」（朝日新聞社）
■20世紀年表（毎日新聞社）
■決定版 20世紀年表（小学館）
■昭和・平成　現代史年表［増補版］（小学館）
■自分史を書くための戦後史年表（朝日新聞社）
■「現代用語の基礎知識」選ユーキャン新語・流行語大賞（自由国民社）
■FUKUSHI's Web Page　ザ・20世紀

あとがき

会社創業20周年の記念事業の一つとして、記念誌を発行することとなりました。創業10周年時（2002年）に1,400名程だった従業員数は、創業20周年を迎えた本年、2倍以上の3,300名になりました。現在の従業員の半分以上が、この10年間に入社した従業員で占められています。

本誌は、その多くの従業員が入社した、創業11周年目（2003年）以降の動きを中心にまとめ、「全従業員に読んでもらえる、家族に見せたくなる記念誌」をコンセプトに、進めてまいりました。本誌を通して、会社の歩みの中で20周年という成人を迎えたトヨタ北海道の歴史を、従業員の皆さんと振り返り、共有し、さらなる将来に向けて一丸となって前進していく一助となれば幸いです。また、家に持ち帰っていただき、ご家族、ご友人にも自分たちの働くトヨタ北海道についてお伝えいただければと思います。

最後になりますが、本誌編集に当たり、トヨタ自動車（株）をはじめ、関係者の皆様、当社OBの皆様、従業員の皆さんの多大なるご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

創業20周年記念誌編集事務局

トヨタ自動車北海道株式会社
創業20周年記念誌
TOYOTA MOTOR HOKKAIDO,INC. 1992-2012

発　行／トヨタ自動車北海道株式会社
〒059-1393 北海道苫小牧市字勇払145番1
TEL.（0144）57-2121（代）
FAX.（0144）52-3184
発行日／2012年9月4日
制　作／トヨタ自動車北海道株式会社 創業20周年記念誌編集事務局
印　刷／凸版印刷株式会社 北海道事業部

鈴木　純弥
鈴木慎太郎
鈴木　誠司
鈴木　尚史
鈴木　考宏
鈴木　琢也
鈴木　剛司
鈴木　武
鈴木　毅裕
鈴木　健祥
鈴木　龍也
鈴木　照正
鈴木　俊文
鈴木　俊也
鈴木　敏幸
鈴木　直哉
鈴木　規正
鈴木　晴道
鈴木　寛将
鈴木　寛幸
鈴木　裕之
鈴木　啓悦
鈴木　麻衣
鈴木　正実
鈴木　保夫
鈴木　裕司
鈴木　雄大
鈴木　悠真
鈴木　義弘
鈴木　亮
鈴木　良輔
鈴木　良太
煤孫　将平
須藤　聖幸
須藤　健
須藤　大範
砂川　啓太
砂田　照雄
砂本　真章
鷲見　邦博
住友　隼一
住友　昭輝
炭屋　英樹
住吉　将功
数矢　彰布
諏訪　直人
諏訪　正人
諏訪　裕次
諏訪邊清和
清野　浩樹
清野　誠
瀬尾　朗
瀬尾　敏
瀬川　勇志
瀬川　宏行
瀬川　雄斗
関　卓也
関　智信
関　智康
関　祐太
関川　恒
関川　朋智
関川　廣也
関之尾悠太
関本　秀明
瀬髙　慶彦
瀬戸　優司
芹澤　大輔
芹野　肇
千保　浩也
相馬　一幸
相馬　淳一
相馬　正次
相馬　拓也
相馬　良太
宗宮　巧
相山　昇司
外舘　英輝
大門　良輔
平　大介
髙　慎也
高井　和紀
高井　一人
互野　和幸
高尾　一将
高岡　裕樹
髙木　章好
髙木　克悟
高木　健市
髙木憲太郎
髙木　正治
髙木　広宣
髙木　正俊
髙木　洋介
高倉　寿夫
高桑　涼
高坂　友和
高坂　直樹
高崎　浩幸
高砂　章
高澤　光貴
高澤　保寿
髙島　大輔
髙島　秀武
高島　基
高杉　輝夫
高杉　政幸
髙瀬　敬史
高瀬　亮助
高田　和
髙田賢太朗
高田　浩二
高田　慎二
高田　聖一
高田　恭弥
髙田　透
高田　憲彰
高田　博行
高田　学
高田　学
高田　美幸
髙田　陽平
髙藤　紀一
髙野　修一
高野　譲二
髙野　豪康
高野　智也
高野　弘泰
髙野　雅史
高野　良祐
高橋　明子
高橋　輝伸
高橋　敦
高橋　一貴
高橋　一樹
高橋　和彦
高橋　克明
高橋　克弘
高橋　勝巳
高橋　勝之
高橋　健悟
高橋　源作
高橋　健二
高橋　賢次
高橋　賢次
高橋　健太
高橋　幸一
高橋　幸司
高橋　光次
高橋　浩介
高橋　覚
高橋　茂
高橋　章吾
高橋　伸也
高橋　奨
高橋　誠二
高橋　大輔
高橋　大亮
高橋　巧
高橋　直樹
高橋　尚輝
高橋　直樹
高橋　信昭
高橋　隼人
高橋　秀和
高橋　宏昭
高橋　宏喜
高橋　宏幸
高橋　史誠
高橋　誠
高橋　誠
高橋　政志
高橋　政直
高橋　雅博
高橋　雅幸
高橋真夕子
高橋　道弘
高橋美千代
高橋　満
高橋　満春
高橋　稔
高橋　康友
高橋　泰宏
高橋　佑太
高橋　雄太
高橋勇太郎
高橋　洋輔
高橋　義史
高橋　力也
高橋　竜
高橋　竜二
高橋　諒
高畑　健一
高原　俊二
髙松　医
田上　将
高宮　正幸
高村　憲央
高谷　大介
髙柳　寛徳
高山　誠一
髙山雄一郎
宝田　英司
田川　治
田川　誠二
滝　幸司
瀧　正憲
滝川　晃太
滝口　智博
瀧澤　崇史
瀧澤　恵
瀧場　大志
瀧谷　郁生
田口　慎悟
田口　秀樹
武井　大輔
武市　洋一
竹内　公朗
竹内　俊博
竹内　賢博
竹内　悠輔
竹腰　直幸
竹下　寧
武田　章由
武田　和彦
武田　啓介
武田健一郎
竹田　幸貴
竹田　晃司
武田　淳
竹田　精一
竹田　大亮
武田　崇裕
武田　力
武田　直幸
武田　浩之
竹田　康賢
武田　裕之
武野　翔悟
武久　真也
竹村　哲也
竹村　寿治
竹元　昌宏
蛸島　宏紀
田崎　晶俊
田島　敏
田代　重貴
田代　拓也
田代　泰之
多田　千鶴
多田　義章
多田　隆一
只野なつき
立浪　優
立花　和彦
舘内　崇
館田　能憲
舘野　勝祝
立野　結輝
田中　章洋
田中　敦
田中　淳彦
田中　功
田中　和彦
田中　勝彦
田中　浩一
田中　孔貴
田中　宏治
田中　貞亮
田中　智司
田中　伸
田中　卓
田中　誠弥
田中　卓也
田中　武志
田中　努
田中　力
田中　直人
田中　紀暁
田中　敬章
田中　治秀
田中　秀博
田中　秀幸
田中　政浩
田中　将
田中　元喜
田中　雄貴
田中　佑樹
田中　優治
田中　優勝
田中由紀夫
田中　裕
田中　義克
棚橋　悠
田辺　史生
田辺　美子
溪　彰仁
谷　宙由平
谷　英樹
谷　亮太
谷川　夏樹
谷川　浩司
谷川　雄一
谷川　優介
谷口　浩一
谷口　司
谷口　颯斗
谷口　将洋
谷口　康之
谷口　渉
谷崎　誠
谷島　翔栄
谷島　信彦
谷原　隆滋
谷平　晃乃
谷藤　亨
谷本　秀貴
種崎　雅史
田畑　功次
田畑　勇哉
田渕　栄一
田渕　和孝
田渕　良子
田部　克彦
玉井　秀樹
玉川　和重
玉山　真剛
田村　彰啓
田村　和大
田村　謙吾
田村　浩司
田村　駿介
田村　翔太
田村　次郎
田村　真司
田村　大輔
田村　貴志
田村　泰則
田村　優貴
田村　佑輔
田村　亮
田安　正臣
垂水　康哲
丹波　勝広
丹波　満雄
丹波　佑規
近下　祐介
近田　学
千條　輝之
千田　勝己
千田　高嗣
千田　博史
千々石慎也
千塚純一郎
千葉　綾花
千葉　健吾
千葉　修士
千葉　順司
千葉　信友
千葉　辰弥
千葉　俊則
千葉　直哉
千葉　路人
千葉　隼人
千葉　英明
千葉　広之
千葉　昌宏
千葉　正幸
千葉　光彦
千葉　裕一
千葉　遼平
茶木　雅裕
茶山　欣也
丁子　隆之
蝶野　信行
珍田　大吾
津梅　信也
津梅　雅宏
塚本　健太
塚本　剛
塚本　鉄兵
塚本　秀樹
佃　敬志
佃　政臣
辻　圭介
辻　雄亮
辻崎　貴仁
辻崎　元道
対馬　謙
辻本　和雅
辻山　大三
津田　昭人
蔦　保明
蔦原　清也
土坂　純
土田健太郎
土田　大輔
槌田　勇人
土本元太郎
土本光太郎
土屋　敦俊
土屋　賢治
土屋慎之介
土屋　憲昭
土屋　洋
土屋　実
土屋　裕介
続石　佳太
堤　健太
堤田　樹弥
綱木　雄介
常本　智哉
角金　泰浩
釣　誠一
鶴ヶ崎順生
鶴見　進
出口　哲朗
手島　貴博
手島　宏典
手塚　栄二
手塚　直樹
寺井　和男
寺内　大介
寺坂　和馬
寺崎　昭大
寺崎　一徳
寺沢　猛
寺澤　尚文
寺沢　泰彦
寺島　昭彦
寺島　隆道
寺島　翼
寺田　秀則
寺田　昌之
寺西　佳太
寺本　健
照井　真吾
天坂　清美
土井　昭良
土居　真樹
土居　三夫
土井　優
東海林由加
任田　圭祐
道前　雅美
東峰　均
富樫　和也
富樫　憲人
富樫　武也
戸梶　毅
富樫　充弘
時田　浩二
時田　聖
時田　昌衛
徳井　拓也
徳田　義幸
徳田　良一
徳永　智樹
得能　淳
徳山　恭裕
戸子崟聖和
所　雅井
土佐林裕治
戸沢　英美
戸嶋　利和
戸城　剛志
栃丸　典之
戸塚　清幸
外崎　勲
外崎　裕將
富岡　賢一
冨澤　和也
冨澤　晃平
冨澤　恒彦
冨田　利和
富田　誠
冨田　正美
富田　有亮
戸村　泰司
朝長　雅幸
友広　幸市
土門勝由紀
豊永　敦志
豊原　勇平
鳥海　将俊
鳥木　哲美
鳥越あすか
鳥本　俊春
鳥山　茂樹
鳥山　直文
内藤　一徳
内藤　宏志
仲井　一貴
永井　圭太
永井　宏明
永井　豊
中井　亮一
中浦　智晴
長江　翼
長江　由貴
長尾　和宏
長尾　真次
長尾　進二
長尾　雄大
長尾　智大
中尾　暢宏
長尾　修道
長尾　浩和
長尾　大樹
長尾　正詩
長尾　雄太
長尾由美子
長尾　佳孝
中岡　威
中岡　寿
中垣　幸雄
中川　真一
中川　卓
中川　卓也
中川　知行
中川　洋史
中川　将孝
中川　光範
中川　雄二
中川　佳希
長岐　大輔
長崎　直行
長崎　将幸
長沢　厚志
長澤　和博
長澤　潤
中澤　卓
長澤　隆臣
永沢　健
長澤　英明
中澤　文哉
中澤　優
永島　聖士
中島　昭二
中島　大貴
中嶋　智也
中嶋　晴樹
中島　雅樹
中島　靖浩
中條　夢孝
長瀬　和也
中田　健二
長田　弦士
中田　耕司
中田章太郎
中田　直樹
永田　博文
仲田　学
永田　勇介
永田　裕太
中台　一剛
中津川　治
中出　正和
中戸鎖悟郎
長縄　俊
中西　玄一
長沼　一也
長沼　直樹
長沼　英和
長根　圭一
中野　浩司
中野　茂康
中野　翔平
中野　晴通
中野　正樹
中野渡孝也
永幡　俊哉
長浜　圭介
中林　剛
中原　圭太
中原　康則
永宮　直樹
中村　一樹
仲村　和博
中村　浄見
中村　賢也
中村　悟
中村　章治
中村　伸一
中村　真吾
中村　慎吾
中村　大介
中村　考円
中村　託也
中村　哲也
仲村　友和
中村　友紀
中村　智幸
中村　隼人
中村　豪忠
中村　博悟
中村　裕人
中村　浩之
中村　正範
中村　正紘
中村　雅幸
中村　満宏
中村　勇一
中村　祐介
中村　祐介
中村　祐太
中谷　圭祐
中谷　拓史
永谷　俊文
中山　佳
中山　信司
中山　貴浩
中山　巧
中山　直樹
中山　昌紀
中山　雅人
長山　真純
中山　昱維
流　義弘
梨本　司
那須　正輝
那須　正博
那須　裕二
灘本　忍
浪越　貴広
奈良　優春
奈良　実
奈良　幸信
成田　竜也
成田　秀幸
成田　政秋
成田　学
成田勇海希
成田　祐介
成田　裕介
鳴海　将志
南條　孝介
難波　映智
難波慎一郎
南部　通人
新居　克哉
仁井　智
新関　優太
新井田　智
新沼　正人
西浦　晃弘
西尾　啓吾
西垣　友也
西方　拓也
西川　耕一
西川　滋二
錦戸　克仁
西口　豊
西島　郁末
西田　弘樹
西田　芳秀
西舘　良行
西野　友章
西野　宏昭
西野　祐介
西野　良太
西原　隆敏
西巻　大輔
西村　純平
西村　大輔
西村　高広
西村　貴浩
西村　拓也
西村　竜也
西村　久志
西村　淳
西村　基
西村　律博
西村　亮太
西森　貴之
西山　大助
西山　貴史
二関　陵
新田　学
新田　修司
新田　努
新田　広臣
新田　裕司
新田　佳治
新藤　聡
丹羽　暁生
丹羽　英二
丹羽　大介
丹羽　智一
糠信　賢一
沼倉　雄基
沼田　和哉
沼田　昌幸
沼田　洋平
能崎　勉
納藤　充博
納村　英樹
野上　雅史
野際　貞元
野口　忍
野口　拓郎
野口　雅彦
野沢　篤史
能澤　友多
野下　隼也
能勢　大樹
野田　吉夫
能登　拓也
能登谷美香
野中　昌一
野々上英樹
野々宮紗智
野々宮将史
野辺地利雄
野間口芳孝
野村　知広
野村　知史
野村　直樹
野村　直樹
野村　宣洋
野村　道広
野村　道博
野本　智亮
野呂　昭
野呂　和明
野呂　竜一
袴田　尚
萩　大介
萩原　宗弘
羽沢　知憲
羽沢　直之
橋　儀和
橋田　隼人
橋爪　睦紀
橋根　巌夫
橋村　卓矢
橋本　和憲
橋本　圭司
橋本　哲
橋本　隆
橋本　力
橋本　司
橋本　正典
橋本　雅之
長谷　隆志
長谷川一樹
長谷川一政
長谷川　聖
長谷川堅吾
長谷川健志
長谷川　順
長谷川智一
長谷川修之
長谷川浩寿
長谷川　誠
長谷川　誠
長谷川雅一
長谷川　唯
長谷川随伯
長谷部　強
畑　雄也
畠山　健司
畠山　務
畠山　仁美
畠山　正裕
畠山　雄太
畠山　涼
畠中　茂美
畑中　哲也
畑野　一美
幡野　元一
畑端　一実
畑山　健
蜂須賀　茂
八戸　岳男
八本　直文
八田　康彦
服部　純平
服部　伸治
服部　直行
服部　信一
鳩澤　直浩
鳩澤　裕也
花岡　慎也
花岡　秀人
花岡　祐太
花田　久和
花田　恭之
英　政次
花輪　裕子
羽入　翔大
羽田　治
羽田　香織
馬場　貢司
馬場　大輔
葉廣　博孝
浜川　誠
浜口　知徳
濱田　久斗
浜田　学
濱名　藩
浜中　太郎
濱野　拓治

濱野 正幸
濱屋 允瑠
早坂 薫
早坂真由美
林 千宏
林 和美
林 啓二郎
林 利夫
林 直人
林 英雄
林 啓寛
林 信
林崎 皓太
林崎 悟
林田 崇之
原 一之
原 健太
原 里司
原 琢磨
原 吉崇
原 利恵子
原田惟久也
原田 赤将
原田 浩司
原田 隆浩
原田 征規
播磨 幸治
春木 将人
春木屋公成
伴 浩
半谷 恵介
半田 健
半田 忠夫
坂東 春彦
東方 優
東出 圭太
東出 琢也
東野 和美
東野 浩司
東野 博
東野 博美
引地 清徳
曳地 哲也
曳地 竜太
樋口 慶一
樋口 務
久井 智文
久井 直樹
久末 幹
久田 裕治
久野 誠之
菱 金吾
菱田 博明
肥田 巧
秀 正幹
日根野隆明
日野 竜馬
比文 康之
百海 雄二
平井 貴章
平井 孝昌
平井 直史
平泉 昭二
平出 実伸
平岡 和也
平岡 孝志
平川 勝海
平川 智久
平川 則仁
平木 久雄
平澤 裕司
平瀬 厚志
平田 誠実
平田 真一
平田 司
平田 利明
平田 成人
平田 正人
平田 諒
平田 良
平田 亮司
平塚 享志
平沼 竜健
平野 拓也
平野 昇
平野 仁史
平野 博之
平浜 春奈
平林 健介
平吹 滉太
平間 和幸
平松 明子
平村 智和
平村 知紀
平目 健司
平山 秀樹
蛭田 昌幸
廣江 拓哉
廣澤 哲也
広瀬 一弘
廣瀬 賢一
広瀬 隆之
樋渡 進
深井 秀太
深澤 治稔
福井 克己
福泉 章
福栄 崇
福岡 一樹
福岡 紘一
福岡 哲也
福沢 恒司
福澤 隆太
福士 貴大
福士 雄介
福島 正孝
福田 郁夫
福田 勝文
福田 順一
福田 拓己
福田 友一
福田 友美
福田 秀紀
福田 守貴
福原 宏太
福村 慎吾
藤井 勝士
藤井 保
藤井 宏樹
藤井 学
藤井 涼太
藤岡 徹也
藤川 歩
藤川 貴皓
藤川 英昭
藤崎 祐太
藤沢さとみ
藤澤 淳
藤島 恵
藤島 佳生
藤田 昌志
藤田 浩二
藤田 卓
藤田 正俊
藤田 靖
藤田 裕爾
藤野 隼人
伏見 浩
藤村宗一郎
藤村 浩光
藤本 和也
藤本 貴則
藤本愉紀男
藤森 憲雄
藤谷 公義
藤谷 斉己
藤山 純
藤原 彰
藤原 貴洋
藤原 辰也
藤原 達也
藤原 博
藤原 優樹
布施 恵佐
船木 拓磨
船越 武
麓 雄也
古一 辰朗
古田 茂
古田 秀一
古谷 大輝
古谷 貴之
古屋 諒平
古山はるみ
逸見 賢明
朴峠 誠
寶福 猛
寶福 学
宝利 幸俊
朴木 康久
外園 心一
星 繁孝
星 隆之
星野 和久
細井 淳平
細井 盛久
細界 一善
細川 宏謙
細川 康洋
細川 泰幸
細坪 宏之
細谷 勝彦
細谷 悟志
細谷 拓司
細山 明
洞田 康明
洞内 順一
堀 和弘
堀 勝治
堀合 佑斗
堀井 映治
堀内 光介
堀内 貴也
堀川 敦司
堀川 航二
堀川 聖
堀川 卓
本庄 綾子
本庄 努
本田 恵一
本田 貞史
本田 滋
本田 貴洋
本多 直也
本多 史宗
本田ゆり子
本多 亮樹
本部 崇義
本部 昌英
本保 晃
本間 和己
本間 潔
本間 智
本間 成規
本間 周一
本間 輝美
本間 富晴
本間 直哉
本間 広樹
本間 広幸
本間 正樹
本間 正広
本間 祐貴
本間 義則
前川 哲也
前川 優次
前田 一希
前多 幸輔
前手 範幸
前村 博幸
牧 圭介
槙 謙
牧田 俊之
牧田 智行
牧野 孝男
牧野 貴尋
牧野 拓郎
牧野 佑磨
真坂 義幸
正木 勇太
増澤 貴晃
増田 京貴
増田 聖人
又井 光雄
町田 一男
待永 明浩
町野 太亮
松浦 秀樹
松浦 宏樹
松浦 光政
松浦 稔
松岡 翔平
松岡 忠史
松岡 裕之
松川 浩司
松川 範彦
松川 雅美
松隈 真矢
松澤 朋美
松田 勲
松田 悟
松田 太一
松田 大地
松田 武則
松田 敏郎
松田 信行
松田 洋明
松田 拡
松田 守男
松田 康宏
松田 優希
松田 雄樹
松永 勝博
松永 佑太
松林 美鈴
松原 紘生
松原 孝幸
松原 理子
松平 卓也
松前 亮平
松宮 圭輔
松宮 孝浩
松村圭太郎
松村 直幸
松村 洋一
松本 淳子
松本 敦
松本 尚
松本 文典
松本 宗之
松本 康史
松本 洋祐
松山 敬士
松山 大樹
松山 徳之
真鍋 伸吾
真鍋 誠
眞部 有希
眞野 英樹
眞野 正俊
丸一 豊文
丸田 晋司
丸谷 浩一
丸山 光司
丸山 大輔
丸山 樹哉
丸山 充昭
三浦 謙一
三浦 哲
三浦 忍
三浦 勝治
三浦 大輔
三浦 孝志
三浦 貴義
三浦 正
三浦 恒夫
三浦 剛
三浦 照雄
三浦 直樹
三浦 宏之
三浦 正人
三浦 雅人
三浦 聖博
三浦 裕輔
三浦 幸雄
三門明達也
三上 桂子
三上 太作
三上 太一
三上 孝仁
三上 貴弘
三上 竹司
三上 寿隆
三上 牧夫
三木田 亮
三澤 友弥
三品 朋宏
水上 直哉
水上 寛之
水越 里巳
水越 貴宏
水島 信彦
水留幸太郎
水野 克広
水野 健太
水野 直也
水野 博樹
水野 学
水橋健志郎
水橋 義輝
水堀 広海
水正 隆徳
溝口 清嗣
溝口 康平
溝口 慎也
溝口 卓実
溝口 哲也
溝口 智浩
三田 成人
三谷 徹
三田村貴大
三田村博和
道下 剛史
道政 武男
道政 学
道山 隆志
三井 一弘
三井 隆司
三橋 正和
三橋 洋平
水戸 秀径
皆川 賢太
皆川 大樹
南 克己
南 信行
南 泰敬
南 竜太
南谷 洋介
峯岸 裕一
三野 幸徳
蓑島 哲也
蓑島 佑弥
三舩 康徳
宮内 崇
宮川 拓也
宮川 直也
宮川 信任
三宅 修
三宅 辰典
都沢 浩喜
宮腰屋 亨
宮坂 孝次
宮崎恵一郎
宮崎 憲司
宮崎 翔太
宮崎 忠洋
宮崎 哲平
宮崎 智宏
宮崎 将輝
宮崎 将登
宮崎佑二朗
宮下 勇
宮本 千載
宮本 学知
宮本 匠矢
宮本 寛己
宮森 裕司
明杖 美和
三好 正幸
三好 良輝
三輪 将浩
三輪 誠
向井 修
向井 幸司
向井 哲真
向井 正明
向井 靖暁
向山 雄大
武曽 修明
武藤 大志
宗像 繁毅
宗像 昭二
宗像 泰志
宗内 哲也
棟方 一博
棟方 源太
棟方 竜太
宗原 一智
村井 俊介
村井 隆行
村岡 和也
村上 光
村上 和哉
村上 豪
村上 高志
村上 友幸
村上 典史
村上 弘志
村上 洋英
村上 正司
村上 正英
村上 昌弘
村上 真菜
村上 康則
村上 優也
村上 亮
村木 恵里
村木 俊介
村田 克弘
村田 岳史
村田 忠臣
村田 龍哉
村田 直希
村中 健太
村中 威彦
村野 義男
村松 真一
村松 守
村本 強
村本 幸信
村本 陽子
村山 和美
無量谷 充
室田 顕祐
目黒 貴司
目黒 裕一
目黒 優祐
目谷 圭介
最上 茂
茂木 孝之
茂木 達也
茂治 轄大
本種 信也
本山 敬祐
本山 敬晃
紅葉 朋哉
籾山 寿幸
森 和寿
森 一行
森 大希
森 忠治
森井 末治
森井 達也
森井 英之
森井 優樹
森笠 憲二
森河 啓仁
森下 浩平
森下 広明
森下 史也
森下 義峰
森田 春郎
森田 英樹
森田 政利
森田 嘉子
森中 一覚
盛藤 英雄
森本 東樹
森本 博之
守矢敬次郎
森谷 淳一
森谷 真伍
森谷 光弘
森山 哲也
森山 春彦
森脇 麻斗
両角 嘉彰
門伝 智弘
門別 竜二
門間 保
門間 勇介
八重樫明男
八重樫浩司
八木 勝春
八木 聡
八木 崇
八木 貴志
八木沢俊也
八鍬雄太郎
屋敷 俊輔
八嶋 貴浩
八島 直人
矢嶋 宏至
矢嶋 庸二
安ヶ平宏信
保田 朗
保田 一吉
保田 祥
安田 巧
安田 雅成
保田雄一郎
安本 隆彦
八谷 真一
矢田部敏和
矢内 朝一
矢内 勇輔
梁川 勇太
柳 大輔
柳田 裕介
柳谷 里史
柳瀬 誠
梁田 貢久
矢野喜久夫
矢野 誠一
矢野 孝典
矢野 宏一
矢野 正起
矢野 元基
矢幡 智
屋比久孟弘
山内 研
山内由規郎
山内 亮
山岡 将悟
山岡 聖潤
山岡 良介
山家 輝樹
山形 徹
山形 智明
山方 貢
山形 亮
山川 純吉
山川 知慶
山川 知実
山川 直也
山川 洋行
山川福太郎
八巻 和幸
山岸 孝昭
山岸 拓也
山岸 悠志
山口 新
山口 薫
山口 功太
山口 悟
山口 秀太
山口 信次
山口 崇
山口 友和
山口 直也
山口 信昭
山口 政昭
山口 雅人
山口 正訓
山崎 憩一
山崎 悟
山崎 淳
山崎 拓也
山崎 勉
山崎 強
山崎 徹
山崎 美奈
山崎 雄貴
山崎 裕太
山崎 洋一
山崎 義史
山地 秀俊
山下 寛二
山下 伸一
山下 貴博
山下 直人
山下 龍
山田 晃央
山田 秋則
山田亜砂美
山田 公明
山田 恭平
山田 圭二
山田 健司
山田 敏
山田 智
山田 周平
山田 俊輔
山田 峻也
山田 大輔
山田 忠則
山田 利忠
山田 智哉
山田 直樹
山田 尚
山田 泰希
山田 寛
山田 雅夫
山田 雅之
山田 昌
山田 素臣
大和 友洋
山中 一生
山中 勝善
山中久美子
山中 大生
山西 諭
山野 健太
山道 利忠
山本 篤志
山本 英治
山本 英司
山本 恭平
山本 孝一
山本 聡
山本 卓
山本 毅
山本 龍彦
山本 寛之
山本 勝
山本 優
山本 恭博
山本 靖幸
山本 洋介
山本 涼
山森 司
山森 康
山谷 和孝
山谷 英生
山谷 一志
山脇 一希
湯浅眞太郎
弓削 雅義
遊佐 幸広
柚瀬 拓美
要田 恭輔
横田 幹夫
横野 貢
横溝 真悟
横矢 佳典
横山 桜
横山 偉司
吉井 敬一
吉岡 鷹
吉岡 秀勝
吉川 克己
吉川 智則
吉川 英俊
吉田 明弘
吉田 和秀
吉田 賢司
吉田 将太
吉田 慎二
吉田 進
吉田 誠一
吉田 荘士
吉田 貴志
吉田 孝
吉田 隆行
吉田 卓矢
吉田 拓也
吉田 央朗
吉田 寿之
吉田 朋暢
吉田 智博
吉田 智幸
吉田 朋由
吉田 直樹
吉田 宣宏
吉田 憲英
吉田 浩子
吉田 博宣
吉田 深人
吉田 誠
吉田 雅樹
吉田 将憲
吉田 雄二
吉田 征冬
吉田 幸弘
吉田 義仁
吉田 亮介
吉田 遼祐
吉野 誠一
吉野 泰幸
葭原 卓司
吉原 龍祐
吉村 勝登
吉村 大輔
吉本 淳
吉本 倫人
與那覇 健
米川 修平
米沢 明大
米沢 和樹
米澤 孝幸
米沢 宏和
米田 学
米田 行伸
米谷 忍
米谷 優渉
米山 卓也
蓮田 修司
和泉 俊昭
和賀 正明
若杉 亮佑
若松 正彦
若山 修
若山 秀二
和嶋 哲也
和嶋 吉裕
和蛇田 隆
和田 彰
和田 則幸
和田二三男
和田 真樹
和田 諒二
渡辺 明夫
渡邊 聡人
渡邊 惇
渡辺 淳
渡辺亜由美
渡邊 一誠
渡辺 一弘
渡辺 公典
渡邊 啓人
渡邊 健児
渡邊 健治
渡部 智史
渡邉 怜
渡邊 智
渡辺 純也
渡辺 崇晶
渡辺 貴史
渡辺 隆洋
渡辺 卓
渡邉 卓弥
渡辺 敏明
渡辺 聡仁
渡辺 智哉
渡辺 直彦
渡邊 昇
渡辺 春樹
渡邊 格
渡辺 広明
渡辺 裕文
渡辺 広行
渡辺 匡史
渡辺 泰弘
渡辺 靖広
渡部 康宏
渡部 優紀
渡部 裕詞
渡辺 雄太
渡邊裕太郎
渡辺 悠理
渡部 宏章
渡部 祐輔
和野亜紀子

(2012年6月1日現在